

WebSAM SystemManager Ver5.2.1

利用者操作ガイドンス

バージョン: 1.08

2008 年 09 月 25 日

日本電気株式会社

更新履歴

バージョン	変更概要	変更箇所		変更日	変更者
		章・節・項	内容		
1.0	初版	-	-	2008/02/29	日本電気株式会社
1.01	指摘事項の反映	3 章	動作モードについての注記の追加	2008/07/08	日本電気株式会社
		3.1.2 3.3.6	呼び出しに必要な操作手順の追加	2008/07/08	日本電気株式会社
		3 章	インタフェース一覧に、使用できないインタフェースについて追加	2008/07/08	日本電気株式会社
		2.1 2.2	機能とインタフェースの対応を追加	2008/07/10	日本電気株式会社
		3.4.9.1	利用者役割と権限の対応を追加	2008/07/10	日本電気株式会社
	内容修正	3.4.9	呼び出しに必要な操作手順の追加	2008/07/12	日本電気株式会社
		3.1.2.2	記載内容の変更	2008/07/12	日本電気株式会社
		2.2	操作を行う事が出来ない項目一覧の追加	2008/07/12	日本電気株式会社
1.02	指摘事項の反映	全般	アクセス制御機能の参照権限に関する記述を削除	2008/07/17	日本電気株式会社
		5.1.1	セキュリティ維持手段を追記	2008/07/17	日本電気株式会社
		3.4.9.1	画面説明の追記 インタフェース使用方法の表を更新	2008/7/22	日本電気株式会社
		2.2	規定のユーザ・グループ一覧の追加	2008/07/22	日本電気株式会社
1.03	指摘事項の反映	3.4.5.2 3.4.7.2 3.4.9.2 3.4.10.2	権限変更反映時期について追記	2008/07/29	日本電気株式会社
		2.2	自身の権限を剥奪した際の動作について追記	2008/08/01	日本電気株式会社
1.04	指摘事項の反映	1.1	TOEのバージョン表記について追記	2008/08/11	日本電気株式会社
1.05	指摘事項の反映	4.1 4.2	エラーメッセージ以外の事象への対処を記載	2008/08/20	日本電気株式会社
1.06	参考資料のバージョンを修正	1.3	参考資料のバージョンを修正	2008/09/11	日本電気株式会社
1.07	参考資料のバージョンを修正	1.3	参考資料のバージョンを修正	2008/09/18	日本電気株式会社

バ ー ジョン	変更概要	変更箇所		変更日	変更者
		章・節・項	内容		
1.08	指摘事項の反映	1.1	TOEのバージョン表記について補足	2008/09/25	日本電気株式会社
		1.3	参考資料のバージョンを修正	2008/09/25	日本電気株式会社

目次

1. 概要.....	1
1.1. 文書識別.....	1
1.2. 文書概要.....	1
1.3. 参考資料.....	1
1.4. 用語.....	3
2. TOE機能利用区分.....	5
2.1. 利用者役割とTOE機能.....	5
2.2. TOE機能の利用権限.....	6
2.3. 利用権限の留意事項.....	9
3. TOE機能操作方法.....	11
3.1. 参照オペレータの操作.....	11
3.1.1. インタフェース一覧.....	11
3.1.2. ログイン画面インタフェース.....	11
3.1.3. パスワード変更画面インタフェース.....	13
3.2. 操作オペレータの操作.....	17
3.2.1. インタフェース一覧.....	17
3.2.2. 履歴情報更新画面インタフェース.....	17
3.2.3. プロセス情報操作画面インタフェース.....	22
3.2.4. Windowsサービス情報操作画面インタフェース.....	24
3.3. 定義情報管理者の操作.....	27
3.3.1. インタフェース一覧.....	27
3.3.2. 定義モード移行画面インタフェース.....	27
3.3.3. オプション設定メニュー画面インタフェース.....	29
3.3.4. マップビュー定義画面インタフェース.....	30
3.3.5. トポロジー定義画面インタフェース.....	34
3.3.6. 通報定義画面インタフェース.....	40
3.3.7. 性能監視定義画面インタフェース.....	42
3.3.8. アプリケーションログ監視定義画面インタフェース.....	46
3.3.9. イベントログ監視定義画面インタフェース.....	52
3.3.10. シスログ監視定義画面インタフェース.....	54
3.3.11. プロセス監視定義画面インタフェース.....	55
3.3.12. Windowsサービス監視定義画面インタフェース.....	59
3.3.13. ファイル監視定義画面インタフェース.....	63
3.3.14. メッセージ監視定義画面インタフェース.....	67
3.3.15. 履歴情報削除画面インタフェース.....	74
3.4. ユーザ情報管理者の操作.....	77
3.4.1. インタフェース一覧.....	77
3.4.2. ユーザ管理メニュー画面インタフェース.....	78
3.4.3. ユーザ追加画面インタフェース.....	79
3.4.4. ユーザ削除画面インタフェース.....	84
3.4.5. ユーザ情報変更画面インタフェース.....	86
3.4.6. グループ追加画面インタフェース.....	89
3.4.7. グループ削除画面インタフェース.....	92

3.4.8.	グループ情報変更画面インタフェース	94
3.4.9.	権限情報変更画面インタフェース.....	97
3.4.10.	グループ所属ユーザ変更画面インタフェース.....	101
3.4.11.	ユーザパスワード変更画面インタフェース.....	103
3.5.	オーディットログ参照管理者の操作.....	107
3.5.1.	インタフェース一覧	107
3.5.2.	オーディットログ参照画面インタフェース	107
3.6.	オーディットログ更新管理者の操作.....	109
3.6.1.	インタフェース一覧	109
3.6.2.	オーディットログ定義画面インタフェース	110
3.6.3.	オーディットログ削除画面インタフェース	112
3.7.	ライセンス情報管理者の操作	115
3.7.1.	インタフェース一覧	115
3.7.2.	ライセンス管理メニュー画面インタフェース	116
3.8.	ビルトイン管理者の操作.....	118
3.8.1.	インタフェース一覧	118
4.	セキュリティ関連事象への対処	120
4.1.	ユーザ管理者、ビルトイン管理者のセキュリティ関連事象の対処手順	120
4.2.	その他の利用者役割のセキュリティ関連事象の対処手順.....	121
5.	セキュリティ維持手段.....	123
5.1.	全ての利用者のセキュリティ維持手段	123
5.1.1.	適用事項.....	123

1. 概要

本文書は、WebSAM SystemManager Ver5.2.1 製品の利用者操作ガイドンスです。

利用者操作ガイドンスは、WebSAM SystemManager Ver5.2.1 をセキュアにご利用いただくために、利用者の識別認証と利用者役割に基づくアクセス制御のインタフェースに絞って、操作方法を説明するマニュアルです。

1.1. 文書識別

[文書名]	WebSAM SystemManager Ver5.2.1 利用者操作ガイドンス
[文書バージョン]	1.08
[作成日]	2008 年 09 月 25 日
[作成者]	日本電気株式会社
[TOE 名]	機能特定 (WebSAM SystemManager)
[TOE バージョン]	5.2.1

本 TOE は、「WebSAM SystemManager エージェント」、「WebSAM SystemManager マネージャ」、及び「WebSAM SystemManager 監視端末」の総称です。

TOE 内では、それぞれ「WebSAM SystemManager Agent Version 5.2.1.0」、「WebSAM SystemManager Manager Version 5.2.1.0」、「WebSAM SystemManager Svc Version 5.2.1.0」と表記しています。

1.2. 文書概要

本文書は、WebSAM SystemManager Ver5.2.1 製品の利用者操作ガイドンスを記述しています。

1.3. 参考資料

- Common Criteria for Information Technology Security Evaluation
Part1: Introduction and general model Version 3.1
- Common Criteria for Information Technology Security Evaluation
Part2: Security functional components Version 3.1
- Common Criteria for Information Technology Security Evaluation
Part3: Security assurance components Version 3.1
- 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリアパート 1:
概説と一般モデル 2006 年 9 月バージョン 3.1 改訂第 1 版 CCMB-2006-09-001
平成 19 年 3 月翻訳第 1.2 版
独立行政法人 情報処理推進機構セキュリティセンター 情報セキュリティ認証室
- 情報技術セキュリティ評価のためのコモンクライテリアパート 2:
セキュリティ機能コンポーネント 2006 年 9 月バージョン 3.1 改訂第 1 版 CCMB-2006-09-002
平成 19 年 3 月翻訳第 1.2 版
独立行政法人 情報処理推進機構セキュリティセンター情報セキュリティ認証室
- 情報技術 セキュリティ評価のための コモンクライテリアパート 3:
セキュリティ保証コンポーネント 2006 年 9 月バージョン 3.1 改訂第 1 版 CCMB-2006-09-003
平成 19 年 3 月翻訳第 1.2 版
独立行政法人 情報処理推進機構セキュリティセンター 情報セキュリティ認証室

[ST] WebSAM SystemManager Ver5.2.1 セキュリティターゲットVer1.10
[AGD_PRE] WebSAM SystemManager Ver5.2.1 利用者準備ガイダンスVer1.07
[FSP] WebSAM SystemManager Ver5.2.1 機能仕様書Ver1.07
•WebSAM SystemManager マニュアル(Ver5.2.1)

1.4. 用語

本利用者操作ガイダンスで使用している用語・略語の意味を、表 1に示します。

表 1 用語集

用語	定義内容
TOE	Target of Evaluationの略、WebSAM SystemManagerのことである。
監視サーバ	TOEを構成するコンポーネントの内、WebSAM SystemManager マネージャを配置したサーバ。TOEの扱う情報を蓄積、管理する。
監視対象サーバ	TOEを構成するコンポーネントの内、WebSAM SystemManager エージェントを配置したサーバ。構成情報、障害情報、性能情報を収集し、監視サーバに通知する。
監視端末	TOEを構成するコンポーネントの内、WebSAM SystemManager 監視端末を配置したクライアントPC。利用者にGUIを提供する。
構成情報	監視対象サーバを構成するOS、CPU、デバイス、アプリケーションソフト、ネットワーク、ディスクの情報。
障害情報	監視対象サーバで発生した、ログ、プロセスの情報、Windowsサービスの情報、性能情報の内、定義情報にて障害と定義されている事象。
性能情報	監視対象サーバのCPU使用率、メモリ使用量、ディスク使用量、ネットワーク使用量等、性能に関する情報。
プロセス	OSからメモリ、CPU時間、各種デバイスなどの割り当てを受けて処理を実行しているプログラム。 監視対象サーバ上で動作する。 TOEは監視対象サーバ上のプロセスを監視、操作する機能を持つ。
Windowsサービス	Windows OSのバックグラウンドで動作するプログラム。 監視対象サーバ上で動作する。 TOEは、監視対象サーバ上のWindowsサービスを監視、操作する機能を持つ。(監視対象サーバのOSがWindowsの場合のみ)
NTサービス	Windowsサービスの別称。
イベントログ	監視対象サーバで記録されたイベントログ。 TOEは、監視対象サーバ上のイベントログを参照、監視する機能を持つ。(監視対象サーバのOSがWindowsの場合のみ)
シスログ	監視対象サーバで記録されたシスログ。 TOEは、監視対象サーバ上のシスログを参照、監視する機能を持つ。(監視対象サーバのOSがHP-UX、Solaris、Linuxの場合のみ)
アプリケーションログ	監視対象サーバ上のアプリケーションが記録したログ。 TOEは、監視対象サーバ上のアプリケーションログを参照、監視する機能を持つ。
履歴情報	監視対象サーバが収集し、監視サーバが蓄積、管理している構成情報、障害情報、性能情報。
メッセージ	履歴情報の内、文字列で表現された障害情報。 重要度、発生日時、受信日時、メッセージIDなど、複数の項目からなる。 いくつかの項目は管理のため更新することが可能。 更新できるのは以下の 3 項目。 ・確認状態 ・マーク ・コメント

用語	定義内容
確認状態	メッセージの状態。 未確認と確認済みの2つの状態を持つ。 新たに発生したメッセージは、必ず未確認状態。 メッセージについて、オペレータが対処を完了した場合に、確認状態を確認済みにする。 確認済み状態になったメッセージを画面上から消去し、未確認のメッセージのみを選別して表示することが可能。
マーク	メッセージに付加する属性情報。 対処中、再現待ち、承認待ち など、定義情報管理者が任意の文字列を定義することが可能。 オペレータは定義されたマーク情報から1つを選択してメッセージに付与する。
コメント	メッセージに付加する文字列情報。 オペレータが任意の文字列をメッセージに付与することが可能。
通報	TOEが監視対象サーバの障害情報を検出した時に、電子メールの送信、回転灯の鳴動により、オペレータに通知する機能。
定義情報	監視対象サーバの構成情報、障害情報、性能情報に関する監視項目、監視間隔や、履歴情報の保持期間、通報宛先、監視端末のGUI表示項目など、TOEの動作を決定する情報。
オーデイトログ	TOEに対して利用者が行なった操作履歴のログ。
オーデイトログ定義情報	オーデイトログに関するTOEの動作を決定する情報。
ライセンス	TOEの動作に必要な情報。TOE購入時に日本電気株式会社より発行される。 ライセンスには、マネージャライセンスとエージェントライセンスの2種類が存在する。 マネージャライセンスが存在しない、もしくは不正な場合、TOEは使用できない。 エージェントライセンスは、監視対象サーバの数だけ必要であり、エージェントライセンス数を超過して監視対象サーバを接続することはできない。
定義モード	監視端末の動作モードの1つ。主に管理者がTOEの管理を行なう時に利用する。 動作モードには、他に監視モードが存在する。監視端末を起動した直後は、監視モードである。利用者はGUI操作により、定義モードに移行できる。 TOE内で、定義モードで動作できるのは、1つの監視端末のみである。
監視モード	監視端末の動作モードの1つ。主にオペレータが監視業務を行うときに利用する。 動作モードには、他に定義モードが存在する。監視端末を起動した直後は、監視モードである。
システム	TOEおよびTOEが動作する環境全体を指す。
ユーザ	利用者を識別するための、TOE上の情報。 通常、利用者毎にユーザを作成し、管理する。
ユーザ情報	ユーザのユーザ名、氏名、備考、パスワード、所属グループ、認証方式アカウントの有効、および無効状態の情報。
マニュアル	TOE に同梱されているマニュアル「WebSAM SystemManager マニュアル(Ver5.2.1)」。 HTML ヘルプ形式である。
ヘルプ	マニュアルの別称。 監視端末のヘルプ機能により起動するものを、特にヘルプと称する。

2. TOE 機能利用区分

本章では、TOE の機能を使用することができる、利用者の役割について説明します。

2.1. 利用者役割と TOE 機能

TOEの各利用者には、必ず1つ以上の利用者役割が規定されます。TOEに関連する利用者役割を表2に示します。

表 2 利用者役割

利用者役割		説明
責任者		TOE の運用管理全般に関する責任を持つ人物。 TOE を直接は利用せず、管理者、オペレータの任命を行なう。
管理者	ビルトイン管理者	ビルトイン管理者は責任者により任命され、TOE のインストールを行う人物。 TOE のインストールを行った後、TOE にユーザ情報管理者用のユーザ情報を登録する。 ビルトイン管理者は TOE の全ての操作が可能である。
	ライセンス情報管理者	ライセンス情報管理者は責任者により任命され、TOE のライセンスの登録、更新、削除を行なう人物。 ライセンス情報管理者は、定義情報管理者の役割を兼ねる。
	オーディットログ参照管理者	オーディットログ参照管理者は責任者により任命され、オーディットログの参照を行なう人物。 オーディットログ参照管理者は、参照オペレータの役割を兼ねる。
	オーディットログ更新管理者	オーディットログ更新管理者は責任者により任命され、オーディットログ定義情報の更新、オーディットログの削除を行なう人物。 オーディットログ更新管理者は、オーディットログ参照管理者、および定義情報管理者の役割を兼ねる。
	ユーザ情報管理者	ユーザ情報管理者は責任者により任命され、ユーザ情報、グループ情報の追加、変更、削除、参照、および権限の変更を行なう人物。 ユーザ情報管理者は、定義情報管理者の役割を兼ねる。
	定義情報管理者	定義情報管理者は責任者により任命され、定義情報の参照、更新、および履歴情報の削除を行う人物。 定義情報管理者は、操作オペレータの役割を兼ねる。
オペレータ	操作オペレータ	操作オペレータは責任者により任命され、履歴情報の更新、および監視対象サーバ上のプロセス/Windows サービスの起動/停止を指示し、サーバ管理業務を行う人物。 操作オペレータは、参照オペレータの役割を兼ねる。
	参照オペレータ	参照オペレータは責任者により任命され、履歴情報、およびプロセス/Windows サービス情報等を参照し、サーバ管理業務を行う人物。

TOE の利用者役割は、TOE インストール時にビルトイン管理者、およびユーザ情報管理者により決定されます。詳細は、[AGD_PRE]利用者準備ガイドンス を参照してください。

またTOEは利用者役割によって、使用できる機能を制限します。利用者役割毎の使用可能な機能の一覧を表 3に示します。TOE機能が、利用者役割に対して使用可能な場合は○、利用者役割に対して使用不可能な場合は×で示します。

表 3 利用者役割と使用可能機能一覧

TOE 機能	利用者役割							
	管理者						オペレータ	
	ビルトイン管理者	ライセンス情報管理者	オーディットログ参照管理者	オーディットログ更新管理者	ユーザ情報管理者	定義情報管理者	操作オペレータ	参照オペレータ
ライセンス情報の操作	○	○	×	×	×	×	×	×
オーディットログの参照	○	×	○	×	×	×	×	×
オーディットログの削除	○	×	×	○	×	×	×	×
オーディットログ定義情報の操作	○	×	×	○	×	×	×	×
ユーザ情報の操作	○	×	×	×	○	×	×	×
定義情報の操作	○	○	×	○	○	○	×	×
履歴情報の削除	○	○	×	○	○	○	×	×
履歴情報の更新	○	○	×	○	○	○	○	×
プロセスの起動/停止指示	○	○	×	○	○	○	○	×
Windowsサービスの開始/再開/停止/一時停止/再起動指示	○	○	×	○	○	○	○	×
ログイン	○	○	○	○	○	○	○	○
パスワードの変更	○	○	○	○	○	○	○	○

2.2. TOE 機能の利用権限

前節で述べたとおり、TOEの各機能は、利用者役割に対応する、利用権限が決められています。TOEの各機能における、利用者役割毎の利用権限の詳細は、以下の表 4に示す通りとなります。

表 4 TOE 機能利用権限一覧

TOE 機能名	利用者役割	利用権限詳細
ライセンス情報の操作	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者	ライセンス情報の参照、登録、更新、削除が可能です。 定義モード時のみ操作可能です。 詳細は「3.7.2ライセンス管理メニュー画面インタフェース」を参照してください。
オーディットログの参照	ビルトイン管理者 オーディットログ参照管理者 オーディットログ更新管理者	オーディットログの参照が可能です。 詳細は「3.5.2オーディットログ参照画面インタフェース」を参照してください。
オーディットログの削除	ビルトイン管理者 オーディットログ更新管理者	オーディットログの削除が可能です。 定義モード時のみ操作可能です。 詳細は「3.6.3オーディットログ削除画面インタフェース」を参照してください。

TOE 機能名	利用者役割	利用権限詳細
オーディットログ定義情報の操作	ビルトイン管理者 オーディットログ更新管理者	オーディットログに関する定義情報の参照、更新が可能です。 定義モード時のみ操作可能です。 詳細は「3.6.2オーディットログ定義画面インタフェース」を参照してください。
ユーザ情報の操作	ビルトイン管理者 ユーザ情報管理者	ユーザ情報、グループ情報の参照、登録、更新、削除が可能です。 定義モード時のみ操作可能です。 詳細は下記を参照してください。(注 1)(注 2) 「3.4.2ユーザ管理メニュー画面インタフェース」 「3.4.3ユーザ追加画面インタフェース」 「3.4.4ユーザ削除画面インタフェース」 「3.4.5ユーザ情報変更画面インタフェース」 「3.4.6グループ追加画面インタフェース」 「3.4.7グループ削除画面インタフェース」 「3.4.8グループ情報変更画面インタフェース」 「3.4.9権限情報変更画面インタフェース」 「3.4.10グループ所属ユーザ変更画面インタフェース」 「3.4.11ユーザパスワード変更画面インタフェース」
定義情報の操作	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者	定義情報の参照、登録、更新、削除が可能です。 定義モード時のみ操作可能です。 詳細は下記を参照してください。 「3.3.2定義モード移行画面インタフェース」 「3.3.3オプション設定メニュー画面インタフェース」 「3.3.4マップビュー定義画面インタフェース」 「3.3.5トポロジー定義画面インタフェース」 「3.3.6通報定義画面インタフェース」 「3.3.7性能監視定義画面インタフェース」 「3.3.8アプリケーションログ監視定義画面インタフェース」 「3.3.9イベントログ監視定義画面インタフェース」 「3.3.10シスログ監視定義画面インタフェース」 「3.3.11プロセス監視定義画面インタフェース」 「3.3.12Windowsサービス監視定義画面インタフェース」 「3.3.13ファイル監視定義画面インタフェース」 「3.3.14メッセージ監視定義画面インタフェース」
履歴情報の削除	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者	TOE が蓄積している履歴情報の削除が可能です。 定義モード時のみ操作可能です。 詳細は「3.3.15履歴情報削除画面インタフェース」を参照してください。

TOE 機能名	利用者役割	利用権限詳細
履歴情報の更新	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者 操作オペレータ	TOE が蓄積している履歴情報の更新が可能です。 詳細は「3.2.2履歴情報更新画面インタフェース」を参照してください。
プロセスの起動/停止指示	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者 操作オペレータ	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示することが可能です。 詳細は「3.2.3プロセス情報操作画面インタフェース」を参照してください。
Windows サービスの開始/再開/停止/一時停止/再起動指示	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者 操作オペレータ	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示することが可能です。 詳細は「3.2.4Windowsサービス情報操作画面インタフェース」を参照してください。
ログイン	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ参照管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者 操作オペレータ 参照オペレータ	監視端末にログインする事が可能です。 詳細は「3.1.2ログイン画面インタフェース」を参照してください。
パスワードの変更	ビルトイン管理者 ライセンス情報管理者 オーディットログ参照管理者 オーディットログ更新管理者 ユーザ情報管理者 定義情報管理者 操作オペレータ 参照オペレータ	ログインしたユーザのパスワードを変更する事が可能です。 詳細は「3.1.3パスワード変更画面インタフェース」を参照してください。

(注1)あらかじめTOEに定義されている項目(規定のユーザ・グループ)については、これらのインタフェースの詳細に示す操作を行う事が出来ないものがあります。
既定のユーザ・グループの一覧を表 5に、操作を行う事が出来ない項目の一覧を表 6にそれぞれ示します。

表 5 規定のユーザ・グループ一覧

種類	名称	インタフェース概要
ユーザ	Administrator	システム管理用ユーザ。

種類	名称	インタフェース概要
グループ	System	システム管理用のグループ。Administrators グループのみが所属する。
	Administrators	全ての権限を持つグループ。
	User	配下に任意のグループを作成することができるグループ。

表 6 操作を行う事が出来ない項目

対象操作内容	操作を行う事が出来ない項目	対象小節
ユーザの削除	Administrator	「3.4.4ユーザ削除画面インタフェース」
ユーザ情報の変更	Administrator	「3.4.5ユーザ情報変更画面インタフェース」
グループの追加	System 配下 Administrators 配下	「3.4.6グループ追加画面インタフェース」
グループの削除	System Administrators User	「3.4.7グループ削除画面インタフェース」
グループ情報の変更	System Administrators User	「3.4.8グループ情報変更画面インタフェース」
グループの権限情報の変更	System Administrators User	「3.4.9権限情報変更画面インタフェース」
グループに所属するユーザの変更	System Administrators	「3.4.10グループ所属ユーザ変更画面インタフェース」

(注2)ユーザ情報の操作は、ログインしている操作者自身のユーザが所属するグループに対しても可能です。この際、ユーザ情報の操作によっては、操作者自身のユーザからユーザ管理権限および定義変更権限を剥奪する事が可能ですが、実際にその効果を得るためには、一旦監視モードに移行する必要があります。

また、これらの権限の剥奪が確実に反映されたか否かは、別のビルトイン管理者もしくはユーザ情報管理者が定義モードに移行することによって確認可能です。

2.3. 利用権限の留意事項

TOEの各機能に、前節で述べた、利用権限が決められている理由を以下表 7に示します。

表 7 TOE 利用権限に関する留意事項

利用者役割	利用権限詳細	利用権限を分離する理由
ビルトイン管理者	全ての操作が可能。	インストール直後に、ユーザ情報管理者を作成するため。また、他の利用者役割が遂行できなくなった場合に操作を代行するため。
ライセンス情報管理者	ライセンス情報の参照、登録、更新、削除が可能。	異なる役割を持つ利用者に、ライセンス情報の操作を行わせないため。
	定義情報管理者の役割を兼ねる。	ライセンス情報は、広義には定義情報に含まれると位置づけ、ライセンス情報管理者を定義情報管理者の上位役割とする。

利用者役割	利用権限詳細	利用権限を分離する理由
オーディットログ参照管理者	オーディットログの参照が可能。	オーディットログには、全利用者の操作内容が記録されている為、参照するための役割を特別に設ける。
	参照オペレータの役割を兼ねる。	オーディットログは、広義には履歴情報に含まれると位置づけ、オーディットログ参照管理者を参照オペレータの上位役割とする。
オーディットログ更新管理者	オーディットログの削除が可能。	オーディットログの削除を異なる役割を持つ利用者から制限する為。
	オーディットログに関する定義情報の参照、更新が可能。	オーディットログには、全利用者の操作内容が記録されている為、その定義を変更するための権限を特別に設ける。
	オーディットログ参照管理者の役割を兼ねる。	オーディットログ更新管理者は、オーディットログを削除する権限を持つため、参照するための役割であるオーディットログ参照管理者の上位役割とする。
	定義情報管理者の役割を兼ねる。	オーディットログ定義情報は、広義には定義情報に含まれると位置づけ、オーディットログ更新管理者を定義情報管理者の上位役割とする。
ユーザ情報管理者	ユーザ情報、グループ情報の参照、登録、更新、削除が可能。	異なる役割を持つ利用者に、ユーザ情報、グループ情報の操作を行わせないため。
	定義情報管理者の役割を兼ねる。	ユーザ情報は、広義には定義情報に含まれると位置づけ、ユーザ情報管理者を定義情報管理者の上位役割とする。
定義情報管理者	定義情報の参照、登録、更新、削除が可能。	定義情報の参照、登録、更新、削除をオペレータから制限する為。
	TOE が蓄積している履歴情報の削除が可能。	オペレータに、履歴情報の削除を行なわせるため。
	操作オペレータの役割を兼ねる。	定義情報管理者を、オペレータの上位役割とするため。
操作オペレータ	TOE が蓄積している履歴情報の更新が可能。	オペレータの内、情報の更新が可能な者を制限するため。
	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示することが可能。	オペレータの内、監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示することが可能な者を制限するため。
	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示することが可能。	オペレータの内、監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示することが可能な者を制限するため。
	参照オペレータの役割を兼ねる。	操作オペレータを、参照オペレータの上位役割とするため。
参照オペレータ	ログインが可能。	監視業務を行うため。
	パスワードの変更が可能。	セキュリティを確保する為。

3. TOE 機能操作方法

本章では、利用者役割毎に使用できる TOE の機能と操作方法を説明します。

3.1. 参照オペレータの操作

3.1.1. インタフェース一覧

参照オペレータが使用できるTOE機能のインタフェースは、以下の表 8の通りとなります。

表 8 参照オペレータ使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、参照オペレータは使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.1.2. ログイン画面インタフェース

ログイン画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.1.2.1. インタフェース使用方法

〔入力画面〕

デスクトップに表示されている[WebSAM SystemManager Console]アイコンをダブルクリックするか、[スタート]メニューの[プログラム]―[WebSAM SystemManager]―[WebSAM SystemManager Console]をクリックすると、WebSAM SystemManager のログイン画面が表示されます。

ログイン画面を図 1に示します。

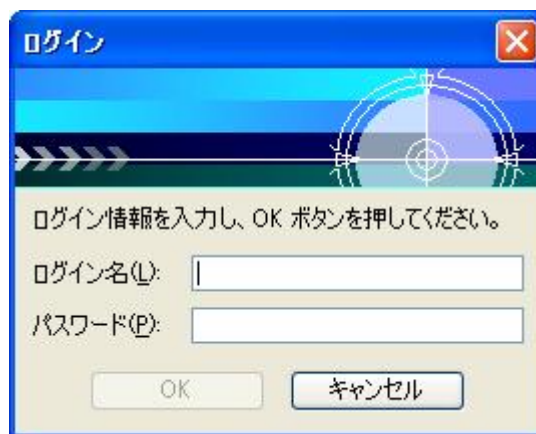


図 1 ログイン画面

[ログイン名]と[パスワード]を入力し、OK ボタンを押下します。

OK ボタンを押下した場合は、[ログイン名]と[パスワード]から、利用者の識別認証を行います。

ログイン画面表示中に F1 キーを押下した場合は、ヘルプの参照を行います。

[入力内容]

ログイン画面の入力内容を表 9に示します。

表 9 ログイン画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ログイン名	1 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、[/¥[]:; =, + * ? < >] を除く	識別認証を行うためのユーザ名
2	パスワード	0 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字	識別認証を行うためのパスワード

[処理結果]

ログインに成功した場合は、図 2に遷移します。

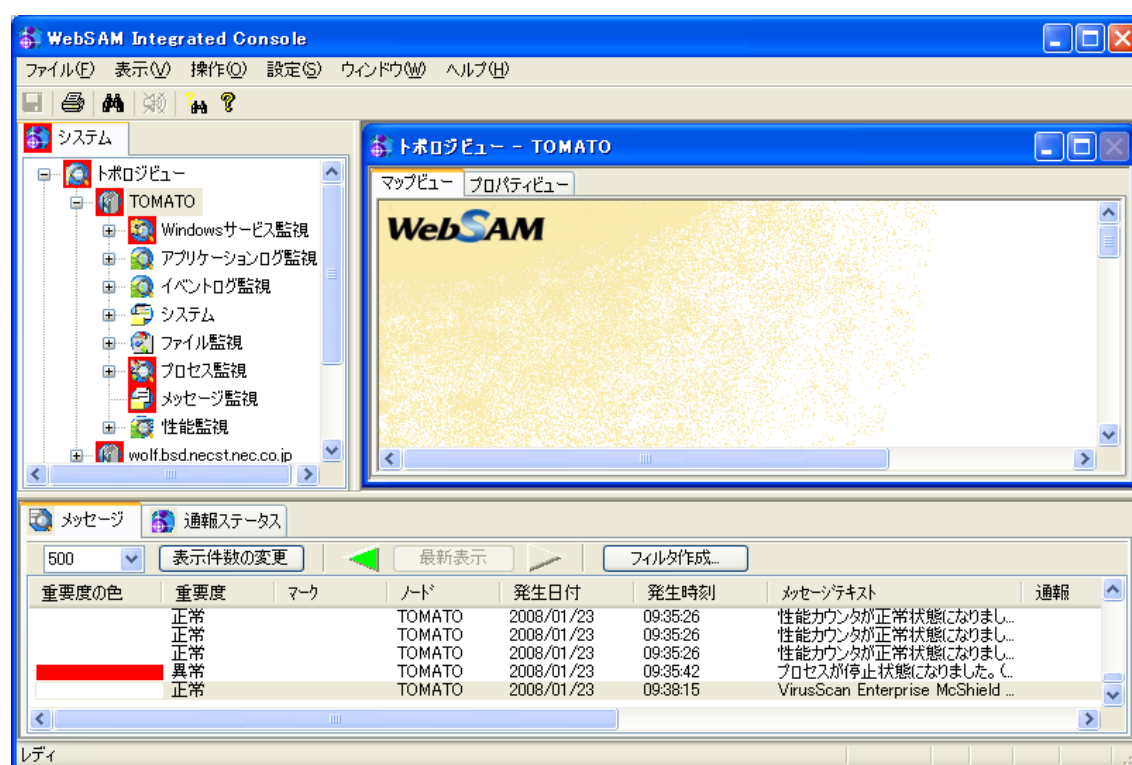


図 2 監視画面

ログインに失敗した場合は、図 3が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ログイン画面に戻ります。



図 3 ログイン失敗画面

ログイン名に[/¥[]:;|=, + * ? < >]が入力されている場合は、図 4が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ログイン画面に戻ります。

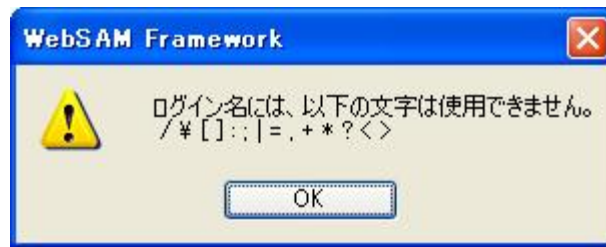


図 4 ログイン名使用禁止文字警告画面

3.1.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、識別認証を使用しています。
識別認証機能は、利用者の識別と認証を行い、監視画面を起動します。

[動作概要]

識別認証機能は、ログイン名とパスワードを用いて、利用者の識別と認証を行います。
利用者の識別認証に成功した場合は、利用者代行プロセスにログイン時に使用したユーザ名を設定します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

利用者の認証に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「ログイン名、またはパスワードが異なります。」

「ログイン名には、以下の文字は使用できません。 / ¥ [] : ; | = , + * ? < >」

3.1.3. パスワード変更画面インタフェース

パスワード変更画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.1.3.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

パスワード設定メニュー画面を図 5に示します。

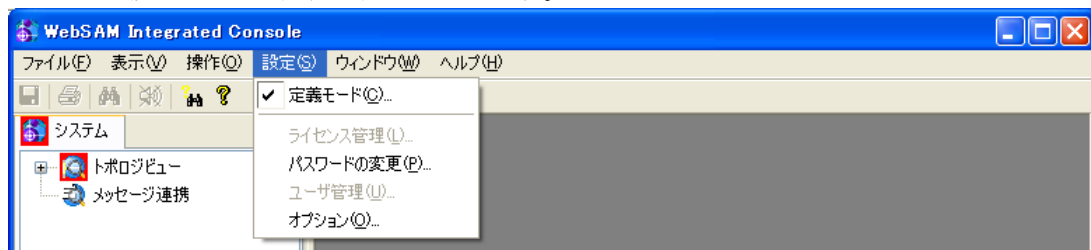


図 5 パスワード設定メニュー画面

パスワードの変更を選択すると、図 6が表示されます。

図 6 パスワード変更画面

[パスワード]と[パスワードの確認入力]を入力し、OK ボタンを押下します。
OK ボタンを押下した場合は、ログインしたユーザのパスワードを変更します。

[入力内容]

パスワード変更画面の入力内容を表 10に示します。

表 10 パスワード変更画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	パスワード	6 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	変更を実施するパスワード
2	パスワード の確認入力	6 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	パスワード変更入力ミス防止 のための再入力パスワード

[処理結果]

パスワードの変更に成功した場合は、図 7が表示されOKボタンを押下すると、監視画面に遷移します。



図 7 パスワード変更結果画面

パスワードの先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 8が表示されます。
OK ボタンを押下するとパスワード変更画面に戻ります。



図 8 パスワードスペース使用警告画面

パスワードの確認入力の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 9が表示されます。
OK ボタンを押下するとパスワード変更画面に戻ります。



図 9 パスワード確認入力スペース使用警告画面

パスワードとパスワードの確認入力が一致しない場合は、図 10が表示されます。
OK ボタンを押下するとパスワード変更画面に戻ります。



図 10 パスワード不一致警告画面

パスワードの変更に失敗した場合は、図 11が表示されます。
OK ボタンを押下すると監視画面に遷移します。



図 11 パスワード変更エラー画面

3.1.3.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるユーザ情報の管理を行います。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、利用者自身のユーザのパスワードを、入力されたパスワードに変更します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

利用者のパスワード変更に成功した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「パスワードの変更に成功しました。」

利用者のパスワード変更に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「パスワードの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「パスワード確認入力の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「確認のパスワードが間違っていました。パスワードと確認入力的一致するようにしてください。」

「パスワードの変更に失敗しました。」

3.2. 操作オペレータの操作

3.2.1. インタフェース一覧

操作オペレータが使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 11の通りとなります。

表 11 操作オペレータ使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
履歴情報更新画面	TOE が蓄積している履歴情報を更新する画面
プロセス情報操作画面	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示する画面
Windows サービス情報操作画面	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示する画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、操作オペレータは使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.2.2. 履歴情報更新画面インタフェース

履歴情報更新画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.2.2.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

履歴情報更新(メッセージ監視)画面を図 12に、履歴情報更新(メッセージ詳細)画面を図 13に、履歴情報更新(メッセージ監視メニュー)画面を図 14に示します。

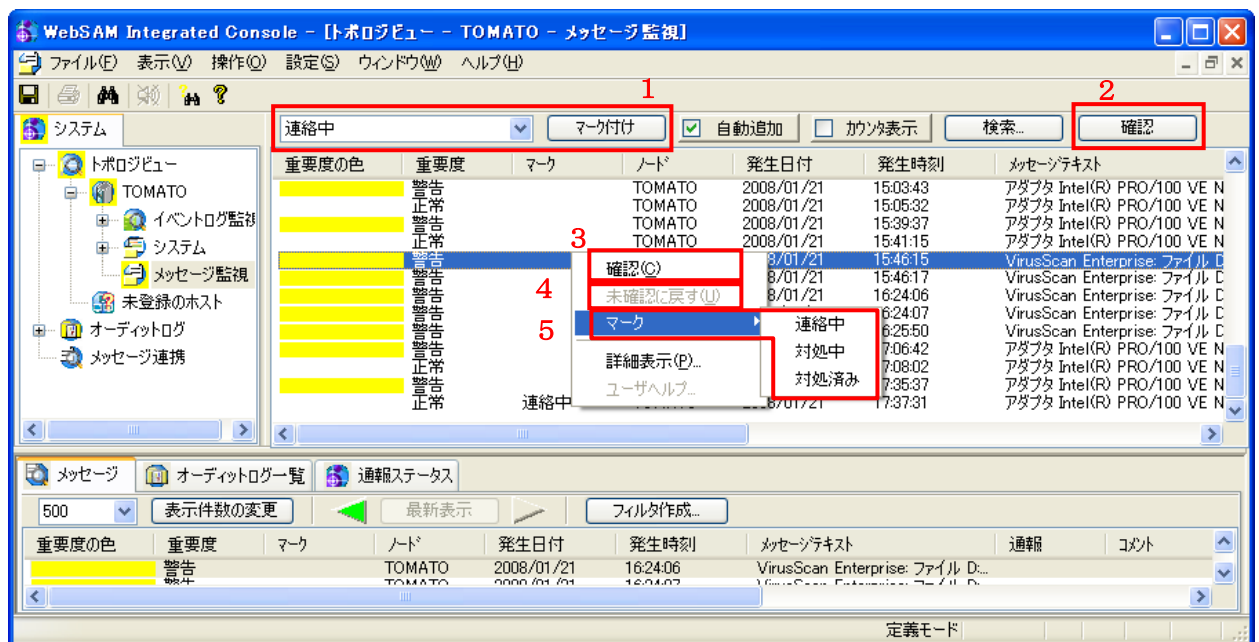


図 12 履歴情報更新(メッセージ監視)画面

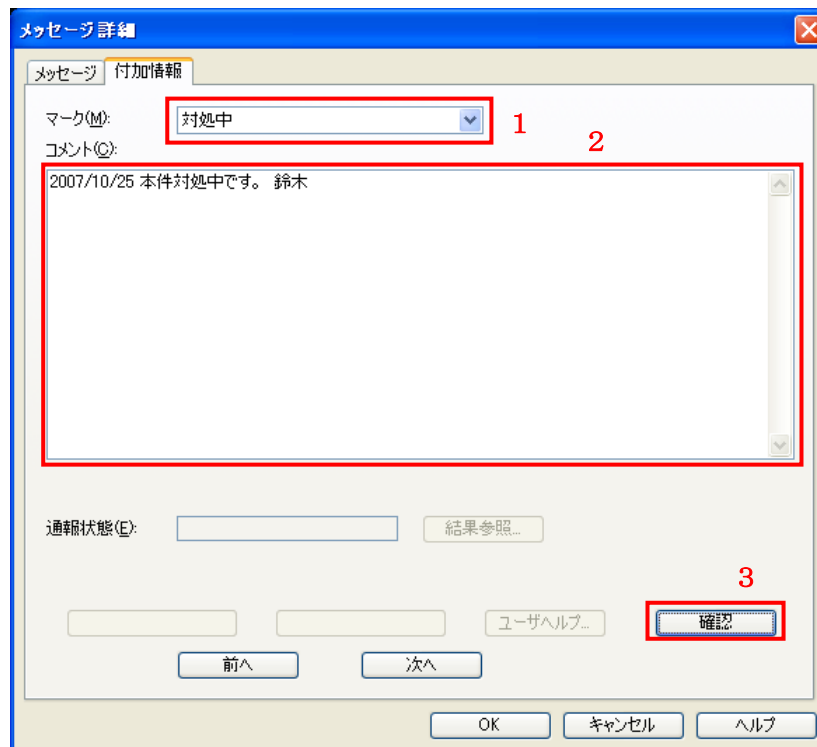


図 13 履歴情報更新(メッセージ詳細)画面

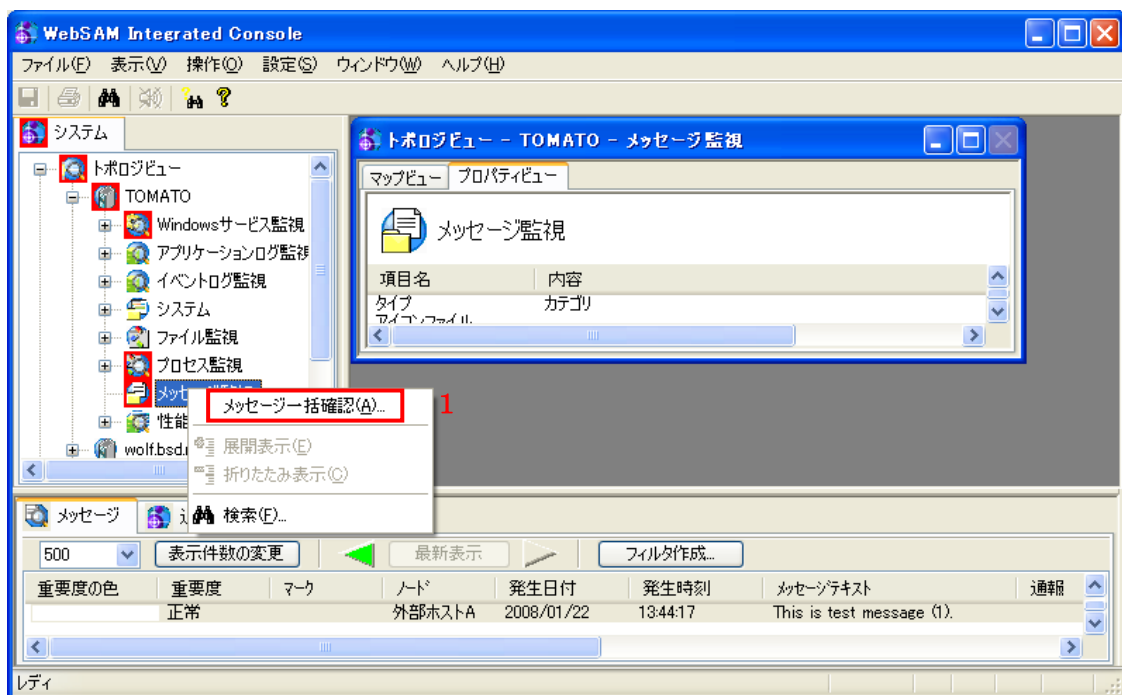


図 14 履歴情報更新(メッセージ監視メニュー)画面

[入力内容]

履歴情報更新(メッセージ監視)画面の入力内容を

表 12に、履歴情報更新(メッセージ詳細)画面の入力内容を表 13に、履歴情報更新(メッセージ監視メニュー)画面の入力内容を表 14に示します。

表 12 履歴情報更新(メッセージ監視)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	マーク付け	定義情報として作成された物から選択します。	選択中のメッセージにマークを付与します。左のリストボックスからマークを選択後、マーク付けボタンを押下します。
2	確認	なし	ボタンを押下することにより、選択中のメッセージを確認済み状態にします。選択中のメッセージが、全て既に確認済みの場合は、ボタンは無効になります。
3	確認	なし	メニュー項目を選択することにより、選択中のメッセージを確認済み状態にします。選択中のメッセージが、全て既に確認済みの場合は、メニューは無効になります。
4	未確認に戻す	なし	メニュー項目を選択することにより、選択中のメッセージを未確認状態にします。選択中のメッセージが、全て既に未確認状態の場合は、メニューは無効になります。
5	マーク	定義情報として作成された物から選択します。	メニュー項目を選択することにより、選択中のメッセージにマークを付与します。マークはサブメニューから選択します。

表 13 履歴情報更新(メッセージ詳細)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	マーク	定義情報として作成された物から選択します。	メッセージにマークを付与します。リストから選択後、OK ボタンを押下すれば反映されます。
2	コメント	0 文字以上 1024 文字以下の半角・全角文字	メッセージに任意の文字列を付与します。文字列入力後、OK ボタンを押下すれば反映されます。
3	確認	なし	ボタンを押下することにより、メッセージの確認状態を切り替えます。既に確認済みの場合は、ボタンの表示文字列は「未確認に戻す」に変更されます。

表 14 履歴情報更新(メッセージ監視メニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	メッセージ一括確認	なし	メニュー項目を選択することにより、該当の監視対象サーバから発生した、全てのメッセージを確認済み状態にします。

[処理結果]

履歴情報が更新されます。

履歴情報更新(メッセージ監視)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「メッセージを監視する」「ホスト毎のメッセージを監視する」ページを参照してください。

履歴情報更新(メッセージ詳細)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「メッセージの詳細(負荷情報)を参照する」ページを参照してください。

履歴情報更新(メッセージ監視メニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「メッセージを確認

(非表示)する」ページを参照してください。

3.2.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、操作権限を持つ利用者のみに履歴情報の更新インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザにはボタン、メニュー項目等のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.2.3. プロセス情報操作画面インタフェース

プロセス情報更新画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.2.3.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

プロセス情報操作画面を図 15に示します。

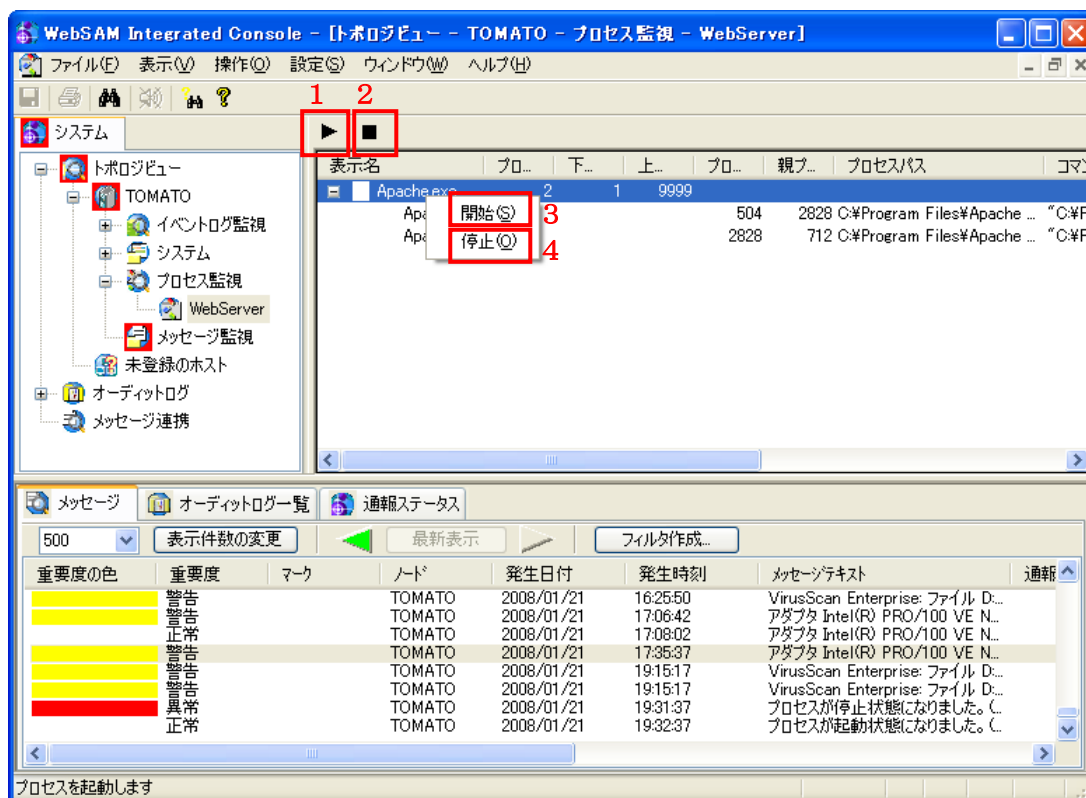


図 15 プロセス情報操作画面

[入力内容]

プロセス情報操作画面の入力内容を表 15に示します。

表 15 プロセス情報操作画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	起動ボタン	なし	押下する事により、プロセスの起動を指示します。 押下時には、定義情報として指定されたコマンドが監視対象サーバ上で実行されます。 定義されていない場合はボタンが無効になります。
2	停止ボタン	なし	押下する事により、プロセスの停止を指示します。 押下時には、定義情報として指定されたコマンドが監視対象サーバ上で実行されます。 定義されていない場合はボタンが無効になります。

項番	項目名	有効範囲	内容
3	開始	なし	メニュー項目を選択することにより、プロセスの起動を指示します。メニュー項目の選択時には、定義情報として指定されたコマンドが監視対象サーバ上で実行されます。 定義されていない場合はメニュー項目が無効になります。
4	停止	なし	メニュー項目を選択することにより、プロセスの停止を指示します。メニュー項目の選択時には、定義情報として指定されたコマンドが監視対象サーバ上で実行されます。 定義されていない場合はメニュー項目が無効になります。

〔処理結果〕

監視対象サーバ上でコマンドが実行されたことにより、プロセス数が増減した場合は、プロセス情報が更新されます。

履歴情報更新画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「プロセスを操作する」ページを参照してください。

3.2.3.2. セキュリティ機能の操作

〔セキュリティ機能説明〕

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、操作権限を持つ利用者のみにプロセス情報操作インタフェースを提供します。

〔インタフェース使用目的〕

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

〔動作概要〕

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザにはボタン、メニュー項目等のインタフェースを無効にします。

〔セキュリティ機能からの応答メッセージ〕

なし。

3.2.4. Windows サービス情報操作画面インタフェース

Windows サービス情報更新画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.2.4.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

Windowsサービス情報操作画面を図 16に、Windowsサービス情報操作(一覧表示)画面を図 17に示します。

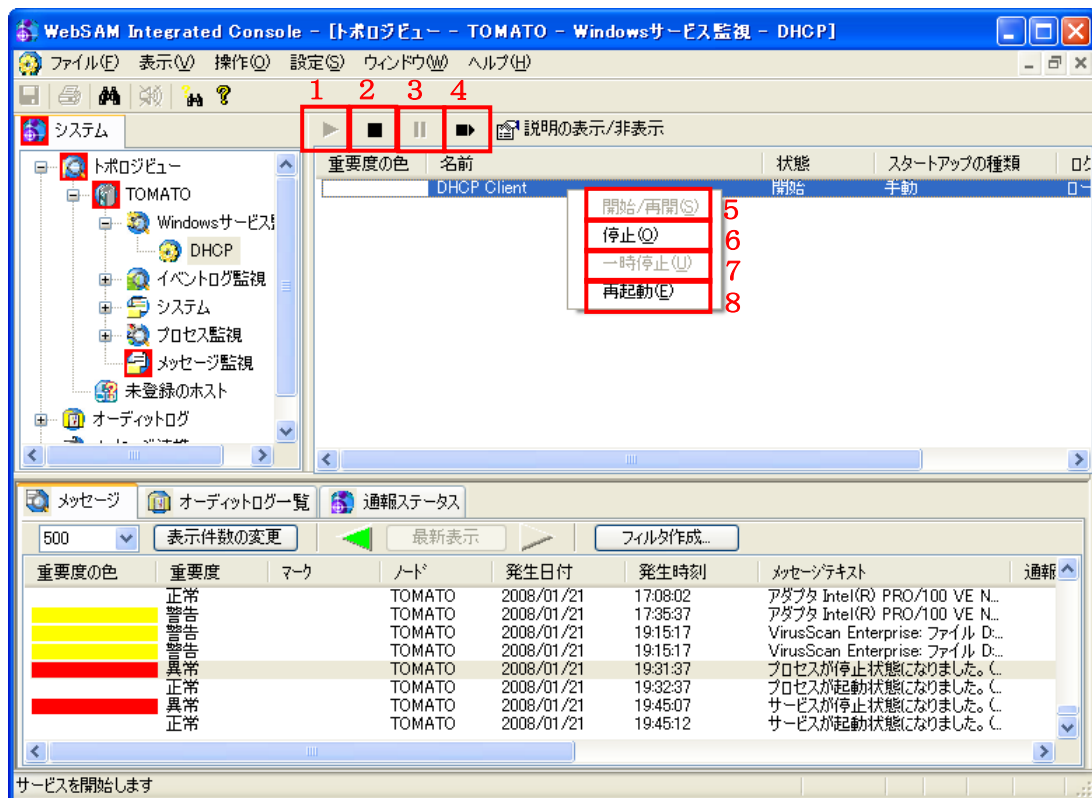


図 16 Windows サービス情報操作画面

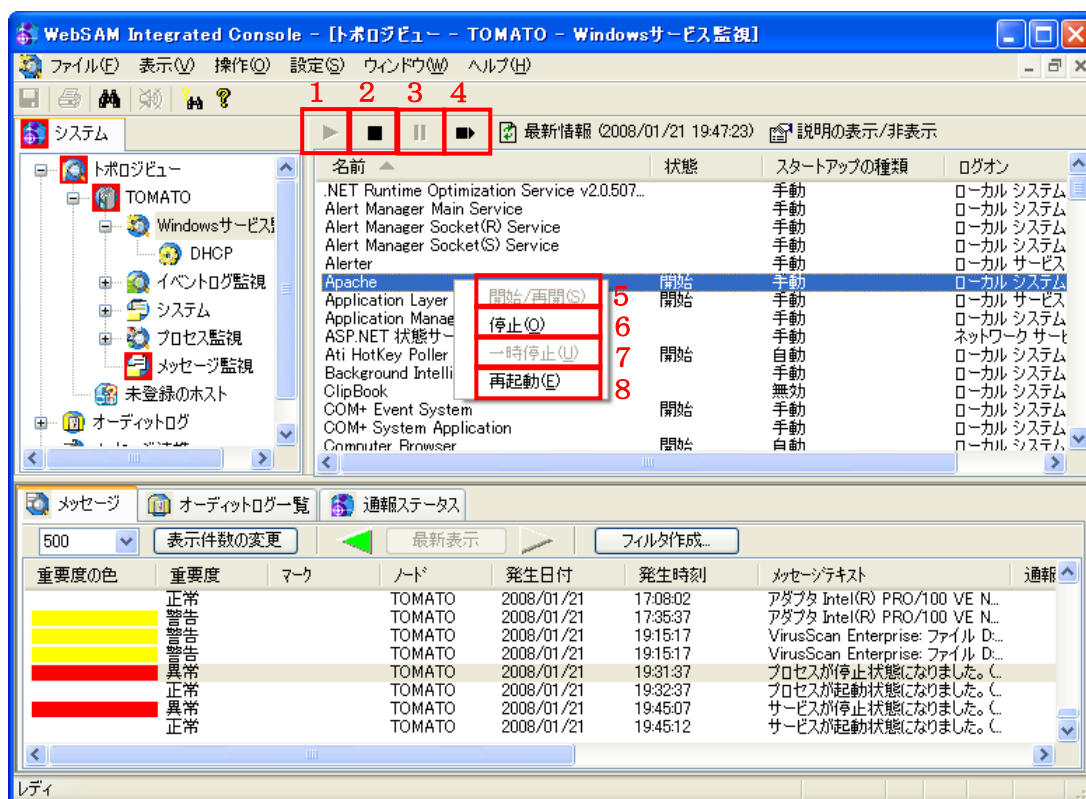


図 17 Windows サービス情報操作(一覧表示)画面

[入力内容]

Windowsサービス情報操作画面、Windowsサービス情報操作(一覧表示)画面の入力内容を表 16に示します。両画面で入力内容は同一です。

表 16 Windows サービス情報操作画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	開始 / 再開ボタン	なし	押下する事により、Windows サービスの開始、再開を指示します。 Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、もしくは Widnows サービスが既に開始している場合は、ボタンが無効になります。
2	停止ボタン	なし	押下する事により、Windows サービスの停止を指示します。 Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、もしくは Windows サービスが停止中の場合は、ボタンが無効になります。
3	一時停止ボタン	なし	押下する事により、Windows サービスの一時停止を指示します。 Windows サービスが一時停止不可能な場合、Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、Windows サービスが一時停止中の場合、もしくは Windows サービスが停止中の場合は、ボタンが無効になります。
4	再起動ボタン	なし	押下する事により、Windows サービスの再起動を指示します。 Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、もしくは Windows サービスが停止中の場合は、ボタンが無効になります。

項番	項目名	有効範囲	内容
5	開始/再開	なし	メニュー項目を選択することにより、Windows サービスの開始、再開を指示します。 Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、もしくは Windows サービスが既に開始している場合は、メニュー項目が無効になります。
6	停止	なし	メニュー項目を選択することにより、Windows サービスの停止を指示します。 Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、もしくは Windows サービスが停止中の場合は、メニュー項目が無効になります。
7	一時停止	なし	メニュー項目を選択することにより、Windows サービスの一時停止を指示します。 Windows サービスが一時停止不可能な場合、Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、Windows サービスが一時停止中の場合、もしくは Windows サービスが停止中の場合は、メニュー項目が無効になります。
8	再起動	なし	メニュー項目を選択することにより、Windows サービスの再起動を指示します。 Windows サービスの起動属性が無効になっている場合、もしくは Windows サービスが停止中の場合は、メニュー項目が無効になります。

[処理結果]

Windows サービス情報が更新されます。

Windows サービス情報操作画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「Windows サービスを監視する」ページを参照してください。

Windows サービス情報操作(一覧表示)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「Windows サービスの一覧を参照する」ページを参照してください。

3.2.4.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、操作権限を持つ利用者のみに Windows サービス情報操作インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザにはボタン、メニュー項目等のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3. 定義情報管理者の操作

3.3.1. インタフェース一覧

定義情報管理者が使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 17の通りとなります。

表 17 定義情報管理者使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
履歴情報更新画面	TOE が蓄積している履歴情報を更新する画面 詳細は、3.2.2を参照
プロセス情報操作画面	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示する画面 詳細は、3.2.3を参照
Windows サービス情報操作画面	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示する画面 詳細は、3.2.4を参照
定義モード移行画面	定義モードに移行する画面
オプション設定メニュー画面	オプション設定を行う画面
マップビュー定義画面	マップビューの定義を行う画面
トポロジー定義画面	トポロジーの定義を行う画面
通報定義画面	通報の定義を行う画面
性能監視定義画面	性能監視の定義を行う画面
アプリケーションログ監視定義画面	アプリケーションログ監視の定義を行う画面
イベントログ監視定義画面	イベントログ監視の定義を行う画面
シスログ監視定義画面	シスログ監視の定義を行う画面
プロセス監視定義画面	プロセス監視の定義を行う画面
Windows サービス監視定義画面	Windows サービス監視の定義を行う画面
ファイル監視定義画面	ファイル監視の定義を行う画面
メッセージ監視定義画面	メッセージ監視の定義を行う画面
履歴情報削除画面	履歴情報を削除する画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、定義情報管理者は使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.3.2. 定義モード移行画面インタフェース

定義モード移行画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.3.2.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

定義モード移行画面を図 18に示します。

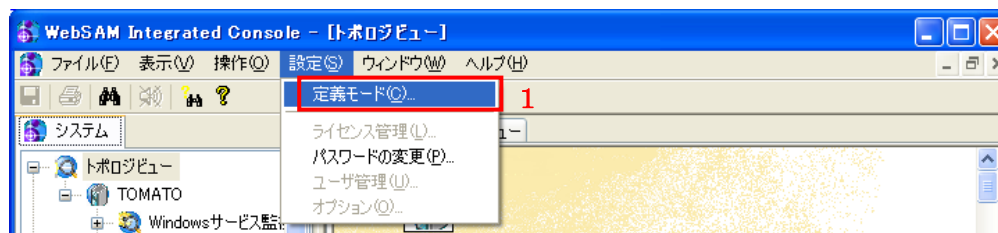


図 18 定義モード移行画面

[入力内容]

定義モード移行画面の入力内容を表 18に示します。

表 18 定義モード移行画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	定義モード	なし	メニュー項目を選択する事により、監視モードと定義モードの切り替えを行います。 他の監視端末が既に定義モードで動作している場合、定義モードへの移行に失敗します。

[処理結果]

定義モードへの移行に成功した場合は図 19を表示し、他の監視端末が既に定義モードで動作していた場合は図 20を表示します。



図 19 定義モード移行成功画面



図 20 定義モード移行失敗画面

3.3.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみに定義モード移行画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.3. オプション設定メニュー画面インタフェース

オプション設定画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.3.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

オプション設定メニュー画面を図 21に示します。

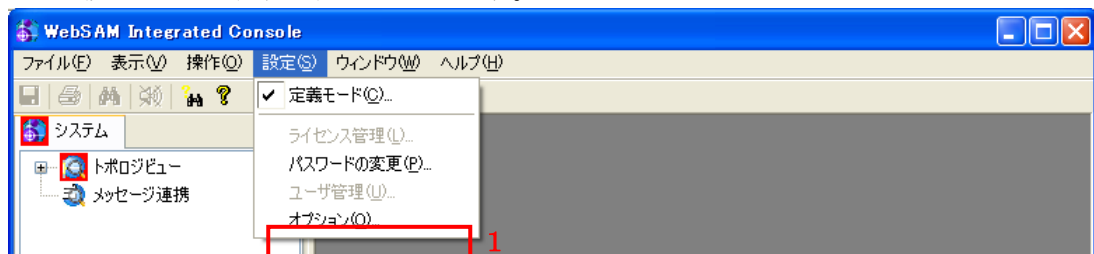


図 21 オプション設定メニュー画面

[入力内容]

オプション設定メニュー画面の入力内容を表 19に示します。

表 19 オプション設定メニュー画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	オプション	なし	メニュー項目を選択する事により、オプション設定ダイアログボックスを表示します。 オプション設定ダイアログボックスでは、TOE 全体に関する定義を行ないます。

[処理結果]

TOE 全体に関する定義情報が更新されます。

オプション設定メニュー画面の詳細な使用方法是、マニュアルの以下のページを参照してください。

「優先度を設定する」

「プロセス監視のオプションを設定する」

「通報のオプションを設定する」

「Windows サービス監視のオプションを設定する」

「性能監視のオプションを設定する」

「アプリケーションログ監視のオプションを設定する」

「ファイル監視のオプションを設定する」

「メッセージ監視のオプションを設定する」

3.3.3.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにオプション設定メニュー画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.4. マップビュー定義画面インタフェース

マップビュー定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.4.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

マップビュー定義(アイコンメニュー)画面を図 22に、マップビュー定義(背景メニュー)画面を図 23に、マップビュー定義(オブジェクトメニュー)画面を図 24示します。

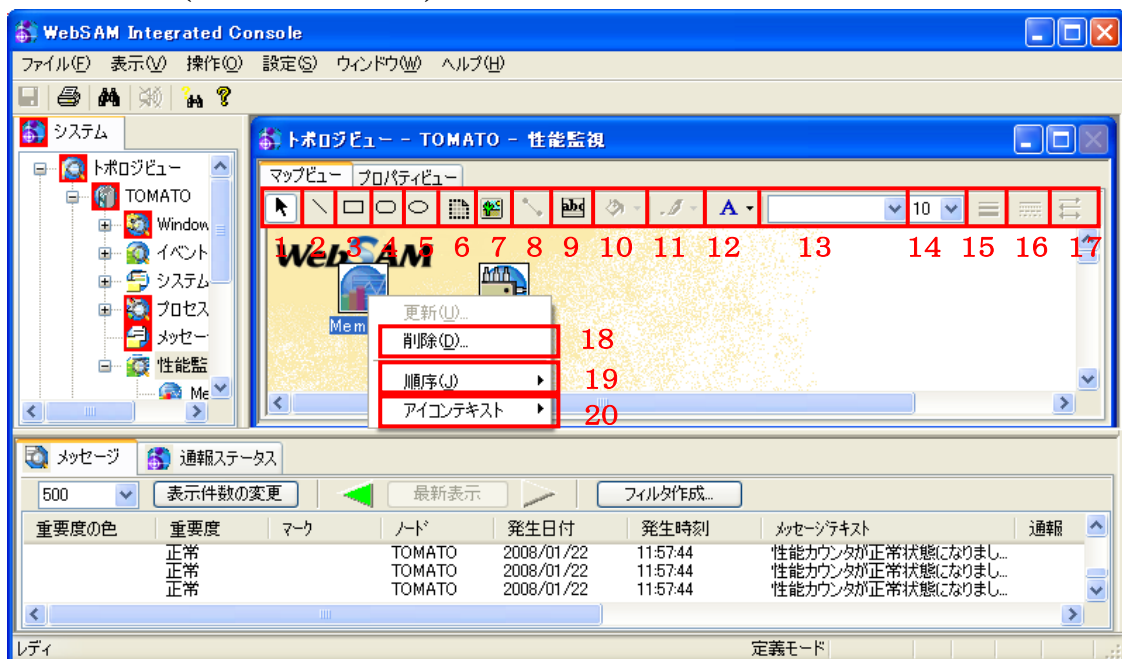


図 22 マップビュー定義(アイコンメニュー)画面

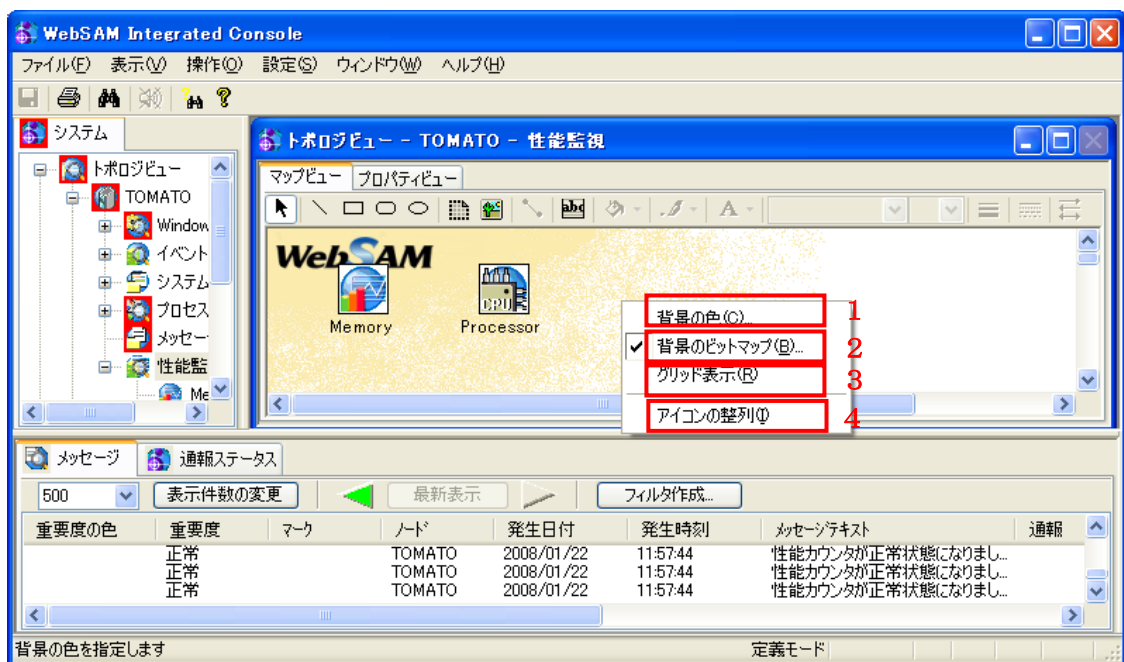


図 23 マップビュー定義(背景メニュー)画面

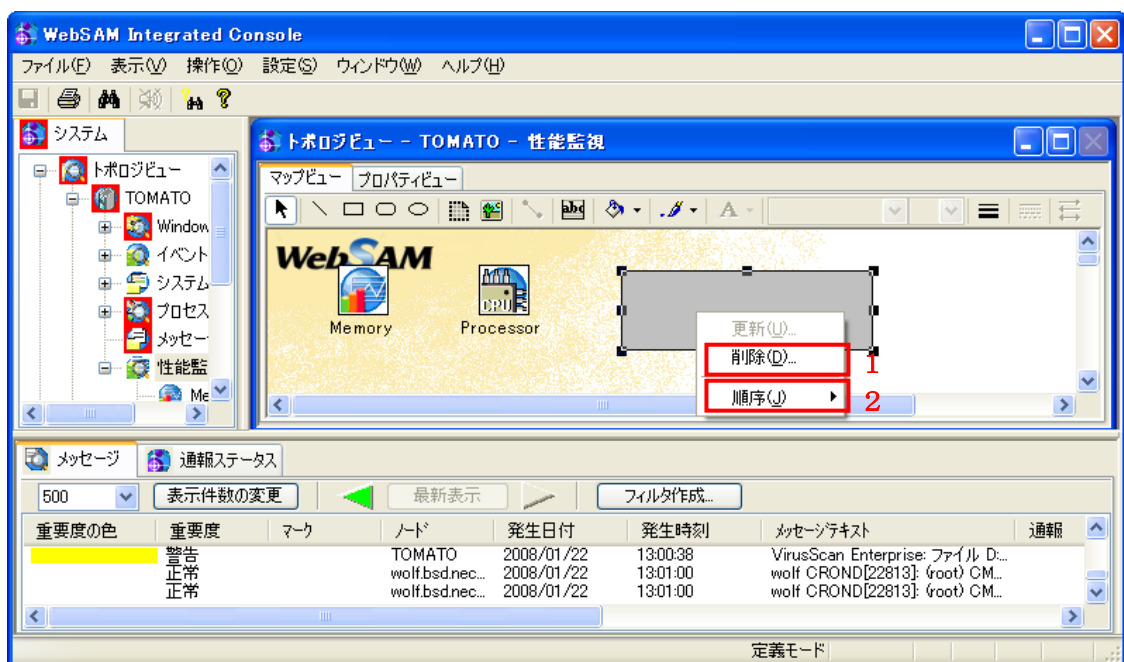


図 24 マップビュー定義(オブジェクトメニュー)画面

[入力内容]

マップビュー定義(アイコンメニュー)画面の入力内容を表 20に、マップビュー定義(背景メニュー)画面の入力内容を表 21に、マップビュー定義(オブジェクトメニュー)画面の入力内容を表 22に示します。

表 20 マップビュー定義(アイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	マウスカーソル	なし	ツールバーの項目を選択する事により、オブジェクト指定操作に切り替えます。
2	直線	なし	ツールバーの項目を選択することにより、直線描画操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押しながら、ポインタをドラッグして直線を引きます。

項番	項目名	有効範囲	内容
3	四角形	なし	ツールバーの項目を選択することにより、四角形描画操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押しながら、ポインタを対角線状にドラッグして四角形を描画します。
4	角丸四角形	なし	ツールバーの項目を選択することにより、角丸四角形描画操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押しながら、ポインタを対角線状にドラッグして角丸四角形を描画します。
5	楕円	なし	ツールバーの項目を選択することにより、楕円描画操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押しながら、ポインタを対角線状にドラッグして楕円を描画します。
6	アイコン	なし	ツールバーの項目を選択することにより、アイコン挿入操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押して、アイコンファイルを指定してアイコンを挿入します。
7	画像	なし	ツールバーの項目を選択することにより、画像挿入操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押して、画像ファイルを指定して画像を挿入します。
8	連結	なし	2 つのオブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目を選択することにより、両オブジェクトを接続する連結線を描画します。
9	テキストボックス	0 文字以上、1024 文字以内の全角半角文字列	ツールバーの項目を選択することにより、テキストボックス描画操作に切り替えます。その後、マップ画面中にてマウスの左ボタンを押しながら、ポインタを対角線状にドラッグしてテキストボックスを描画します。 テキストボックスをダブルクリックすることにより、テキストが追加できます。
10	背景色	24 ビットカラー	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目を選択することにより、そのオブジェクトの背景色を変更します。
11	線の色	24 ビットカラー	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目を選択することにより、そのオブジェクトの線の色を変更します。
12	文字色	24 ビットカラー	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目を選択することにより、そのオブジェクトの文字色を変更します。
13	フォント	OS で有効なフォントを選択	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目からフォントを選択することにより、そのオブジェクトのフォントを変更します。
14	フォントサイズ	8 以上 40 以下の整数を選択	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目からフォントサイズを選択することにより、そのオブジェクトのフォントサイズを変更します。
15	線の太さ	4 種から選択	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目から線の太さを選択することにより、そのオブジェクトの線の太さを変更します。
16	線の種類	4 種から選択	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目から線の種類を選択することにより、そのオブジェクトの線の種類を変更します。
17	矢印	4 種から選択	オブジェクトを選択した状態で、ツールバーの項目から矢印の種類を選択することにより、そのオブジェクトの矢印の種類を変更します。

項番	項目名	有効範囲	内容
18	削除	なし	アイコンの右クリックメニュー。 メニュー項目を選択する事により、そのアイコンを削除します。
19	順序	「最前面へ移動」「最背面へ移動」「前面へ移動」「背面へ移動」より選択	アイコンの右クリックメニュー。 マップ上のオブジェクトの表示順を変更します。
20	アイコンテキスト	「下に表示」「右に表示」「上に表示」「左に表示」より選択	アイコンの右クリックメニュー。 マップ上のアイコンテキストの表示位置を変更します。
21	ドラッグ & ドロップ	なし	オブジェクトをドラッグ & ドロップすることにより、マップ上での表示位置を変更します。

表 21 マップビュー定義(背景メニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	背景の色	24 ビットカラー	背景の右クリックメニュー。 マップの背景色を変更します。
2	背景のビットマップ	なし	背景の右クリックメニュー。 マップの背景画像を変更します。
3	グリッド表示	なし	背景の右クリックメニュー。 背景上に等間隔のグリッド線を表示します。
4	アイコンの整列	なし	背景の右クリックメニュー。 アイコンを等間隔に整列します。

表 22 マップビュー定義(オブジェクトメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	削除	なし	オブジェクトの右クリックメニュー。 メニュー項目を選択する事により、そのオブジェクトを削除します。
2	順序	「最前面へ移動」「最背面へ移動」「前面へ移動」「背面へ移動」より選択	オブジェクトの右クリックメニュー。 マップ上のオブジェクトの表示順を変更します。

[処理結果]

マップの画像やアイコン位置、オブジェクト等が更新されます。

マップビュー定義画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「マップビューに図形を描画する」「マップビューの背景を変更する」ページを参照してください。

3.3.4.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにマップビュー定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、ツールバー、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.5. トポロジー定義画面インタフェース

トポロジー定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.5.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

トポロジー定義(トポロジビューノードメニュー)画面を図 25に、トポロジー定義(グループノードメニュー)画面を図 26に、トポロジー定義(ホストノードメニュー)画面を図 27に、トポロジー定義(ノードアイコンメニュー)画面を図 28に、トポロジー定義(背景メニュー)画面を図 29に示します。

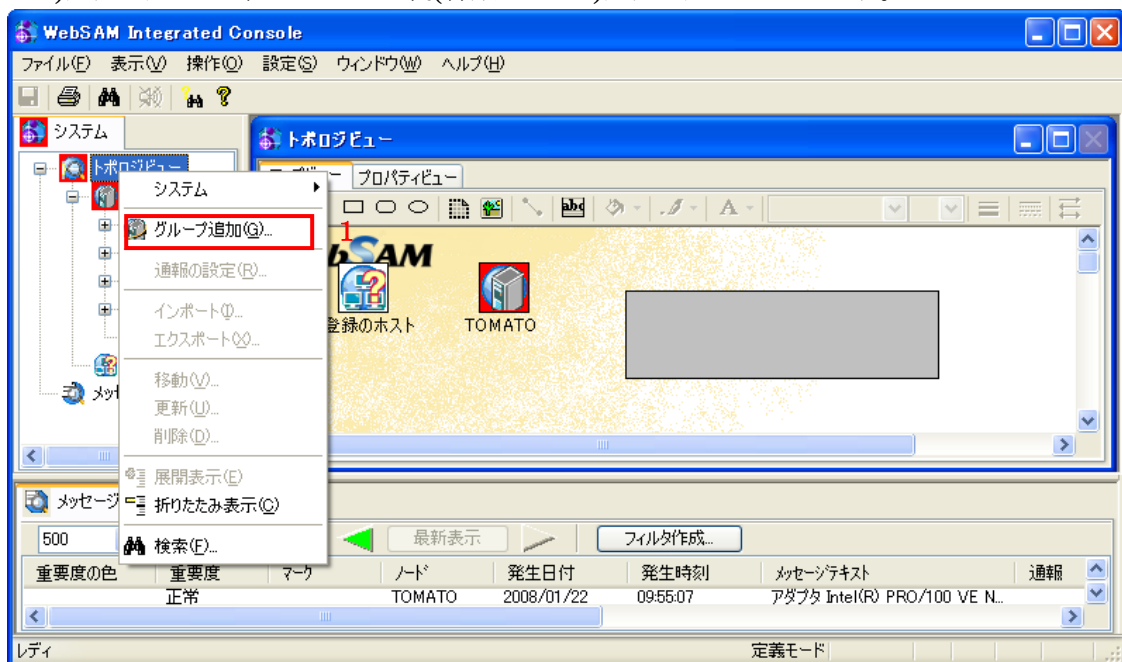


図 25 トポロジー定義(トポロジビューノードメニュー)画面

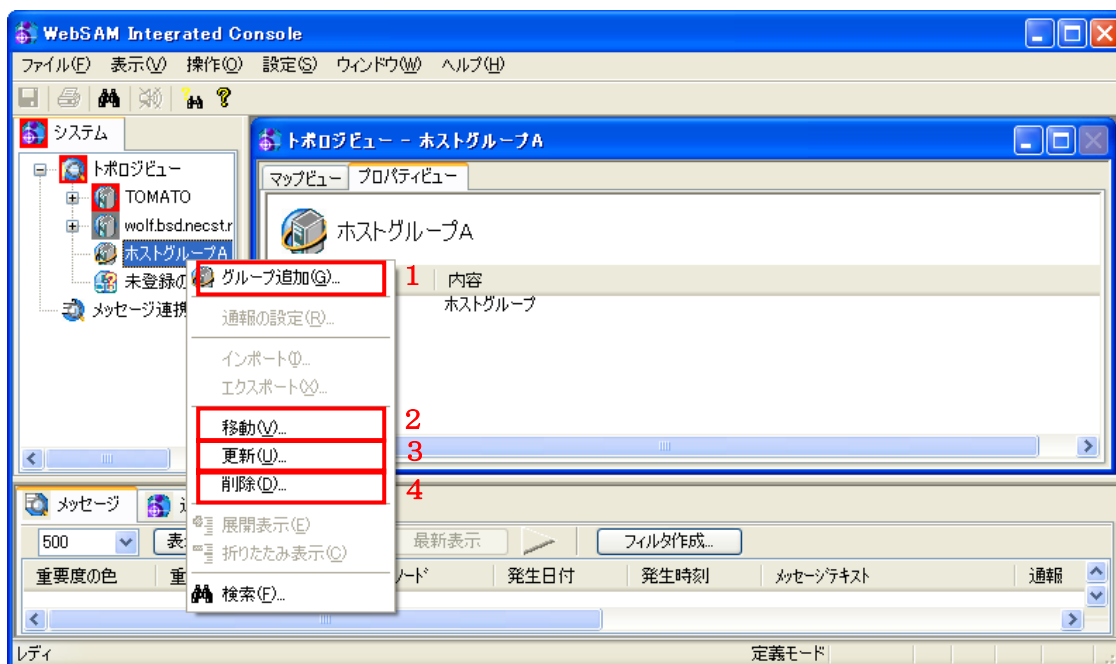


図 26 トポロジー定義(グループノードメニュー)画面

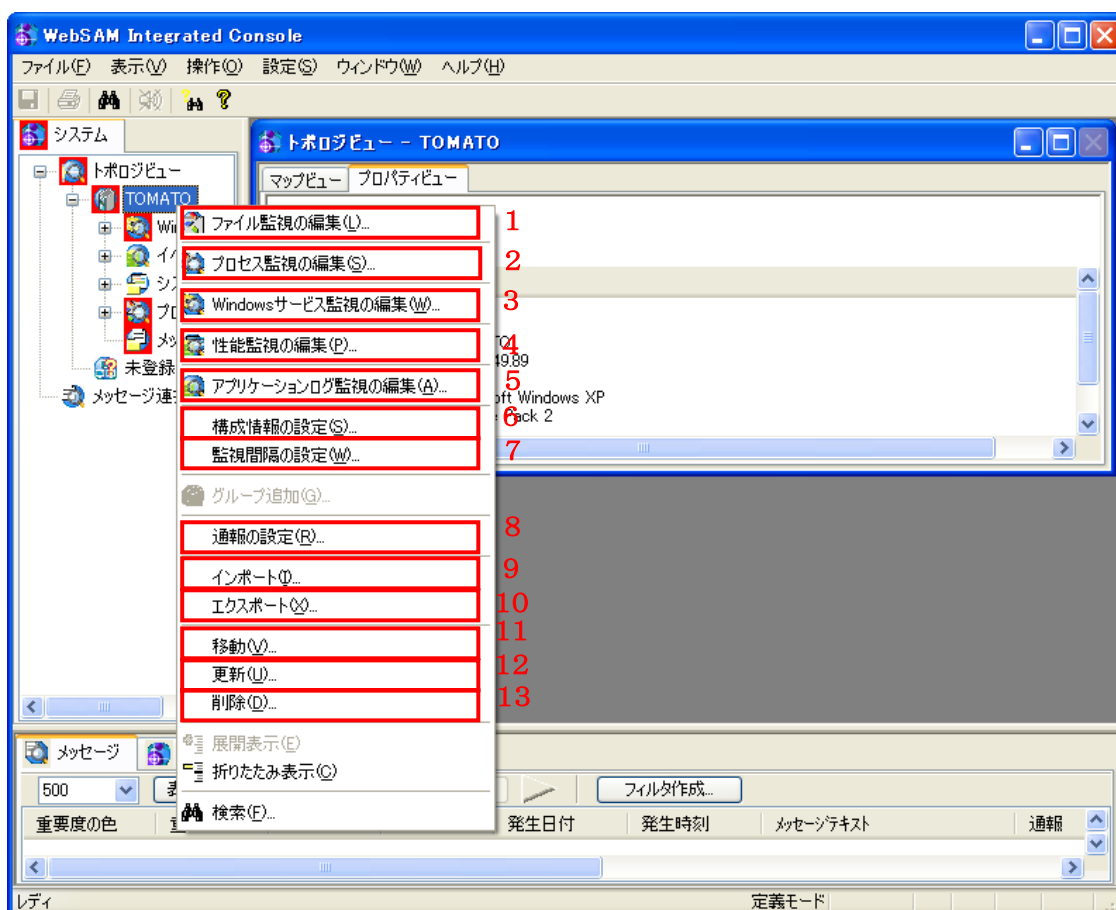


図 27 トポロジー定義(ホストノードメニュー)画面

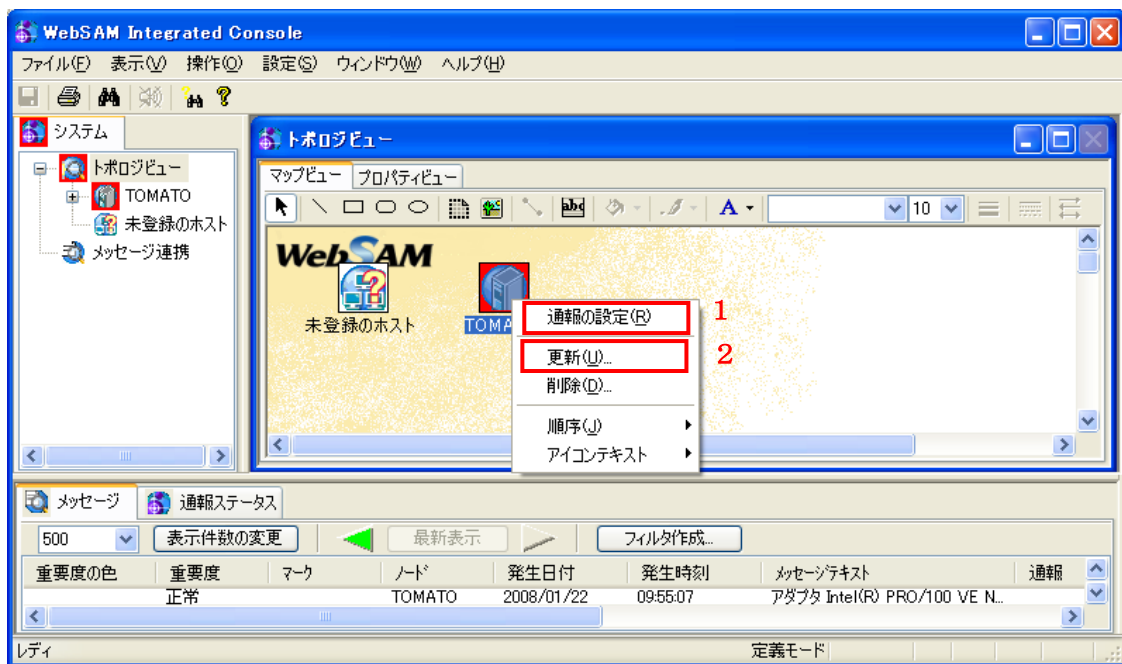


図 28 トポロジー定義(ノードアイコンメニュー)画面

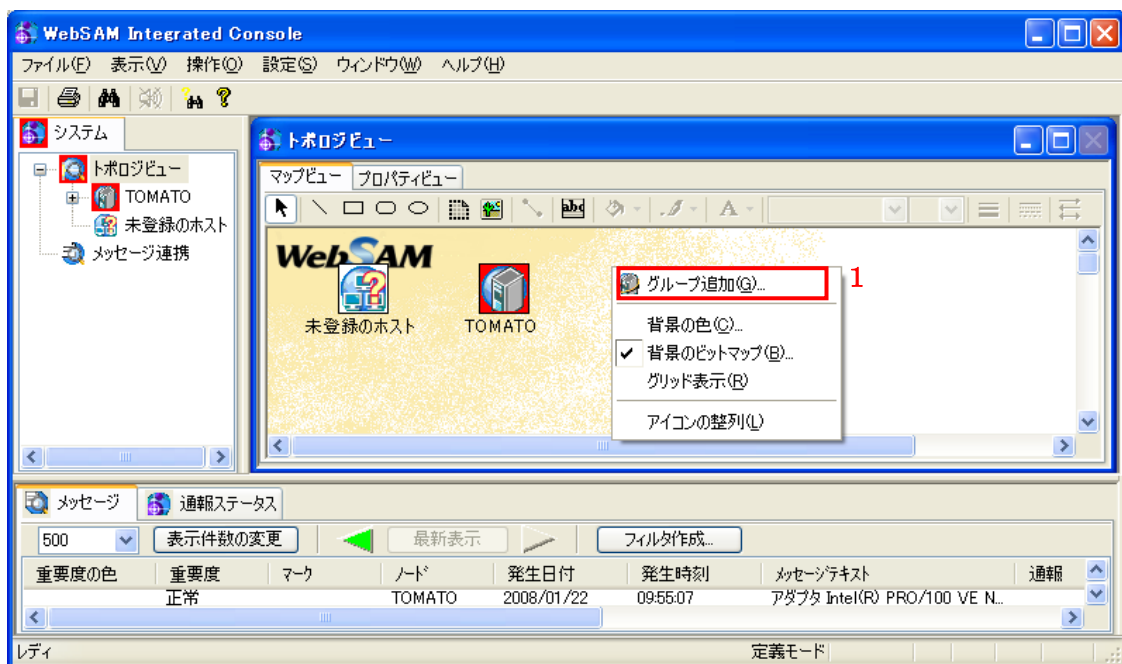


図 29 トポロジー定義(背景メニュー)画面

[入力内容]

トポロジー定義(トポロジビューノードメニュー)画面の入力内容を

表 23に、トポロジー定義(グループノードメニュー)画面の入力内容を表 24に、トポロジー定義(ホストノードメニュー)画面の入力内容を表 25に、トポロジー定義(ノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 26に、トポロジー定義(背景メニュー)画面の入力内容を表 27に示します。

表 23 トポロジー定義(トポロジビューノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、トポロジビューノード配下に新しいグループを作成します。
2	ドラッグ&ドロップ	なし	トポロジビューノード配下のグループノード、ホストノードをドラッグ&ドロップすることにより、ツリー上の位置を移動します。

表 24 トポロジー定義(グループノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択しているグループノード配下に新しいグループを作成します。
2	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したグループノードを、トポロジビューノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
3	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。
4	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているグループノードを削除します。配下にグループノード、ホストノードが存在する場合は、それらも削除します。

表 25 トポロジー定義(ホストノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ファイル監視の編集	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストノード配下にファイル監視ノードを作成し、ファイル監視グループの作成ダイアログボックスを表示します。
2	プロセス監視の編集	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストノード配下にプロセス監視ノードを作成し、プロセス監視グループの作成ダイアログボックスを表示します。
3	Windows サービス監視の編集	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストノード配下に Windows サービス監視ノードを作成し、Windows サービス監視グループの作成ダイアログボックスを表示します。 監視対象サーバの OS が Windows 以外の場合は、メニュー項目が無効になります。
4	性能監視の編集	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストノード配下に性能監視ノードを作成し、性能監視の編集ダイアログボックスを表示します。
5	アプリケーションログ監視の編集	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストノード配下にアプリケーションログ監視ノードを作成します。

項番	項目名	有効範囲	内容
6	構成情報の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、構成情報の設定ダイアログボックスを表示します。 構成情報の設定ダイアログボックスでは、監視対象サーバの属性情報(会社名、使用者名)を設定します。
7	監視間隔の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、構成情報の監視間隔の設定ダイアログボックスを表示します。 構成情報の設定ダイアログボックスでは、構成情報の監視間隔を設定します。
8	通報の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、通報の設定ダイアログボックスを表示します。 通報の設定ダイアログボックスでは、監視対象サーバの状態変更時の通報を設定します。
9	インポート	なし	メニュー項目を選択することにより、インポート選択ダイアログボックスを表示します。 インポート選択ダイアログボックスでは、監視対象サーバの各種定義情報のインポートを行ないます。
10	エクスポート	なし	メニュー項目を選択することにより、エクスポートの指定ダイアログボックスを表示します。 エクスポートの指定ダイアログボックスでは、監視対象サーバの各種定義情報のエクスポートを行ないます。
11	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したホストノードを、トポロジビューノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
12	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、ホスト更新ダイアログボックスを表示します。 ホスト更新ダイアログボックスにて、選択したホストのアイコンを更新します。
13	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているホストノードを削除します。

表 26 トポロジー定義(ノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	通報の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、通報の設定ダイアログボックスを表示します。 通報の設定ダイアログボックスでは、監視対象サーバの状態変更時の通報を設定します。
2	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、ホスト更新ダイアログボックスを表示します。 ホスト更新ダイアログボックスにて、選択したホストのアイコンを更新します。

表 27 トポロジー定義(背景メニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択しているグループノード配下に新しいグループを作成します。

[処理結果]

トポロジービュー配下の各種定義情報が更新されます。

トポロジー定義(トポロジビューノードメニュー)画面、トポロジー定義(グループノードメニュー)画面、トポロジー定義(背景メニュー)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「ホストグループを定義する」「オブジェクト(アイコン)を移動する」ページを参照してください。

トポロジー定義(ホストノードメニュー)画面、トポロジー定義(ノードアイコンメニュー)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「エージェントの監視について」「管理情報を変更する」「構成情報の収集間隔を変更する」「監視ホストの通報設定を行なう」「エージェント監視定義の定義ファイルをインポートする」「エージェント監視定義をエクスポートし定義ファイルを作成する」ページを参照してください。

3.3.5.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにトポロジー定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.6. 通報定義画面インタフェース

通報定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.6.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

監視画面のインフォメーションビューより、通報ステータスタブを選択します。一覧表示された通報履歴のうち任意の行をダブルクリックすることにより、通報定義画面が表示されます。

通報定義画面を図 30に示します。

図 30 通報定義画面

[入力内容]

通報定義画面の入力内容を表 28に示します。

表 28 通報定義画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	通報設定	なし	押下することにより、通報設定ダイアログボックスを表示します。 通報設定ダイアログボックスでは通報に関する定義を行います。

[処理結果]

通報に関する定義情報が更新されます。

通報定義画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「通報の状況(詳細)を参照する」ページを参照してください。

3.3.6.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみに通報定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、ボタンのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]
なし。

3.3.7. 性能監視定義画面インタフェース

性能監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.7.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

性能監視定義(性能監視ノードメニュー)画面を図 31に、性能監視定義(オブジェクトノードメニュー)画面を図 32に、性能監視定義(インスタンスノードメニュー)画面を図 33に、性能監視定義(グラフメニュー)画面を図 34に示します。

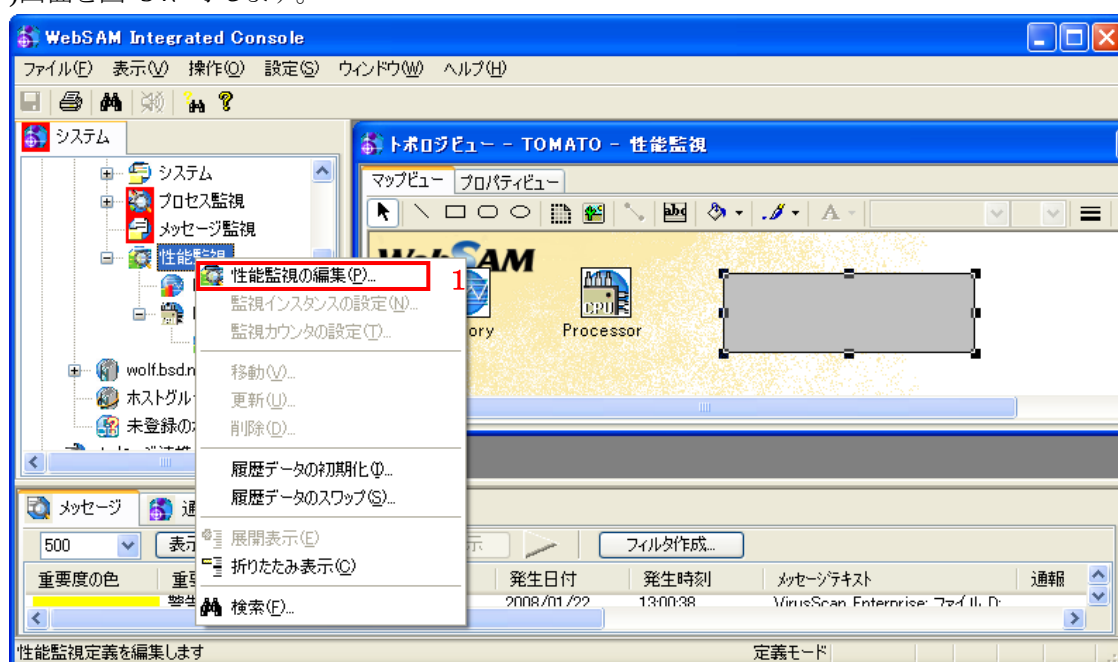


図 31 性能監視定義(性能監視ノードメニュー)画面

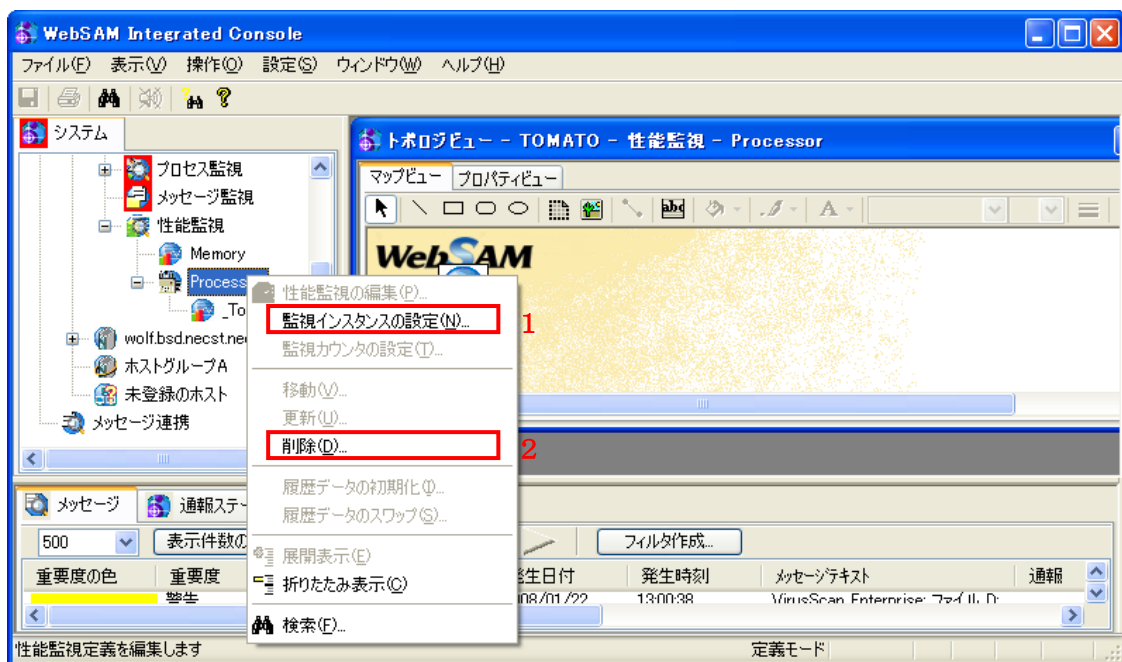


図 32 性能監視定義(オブジェクトノードメニュー)画面

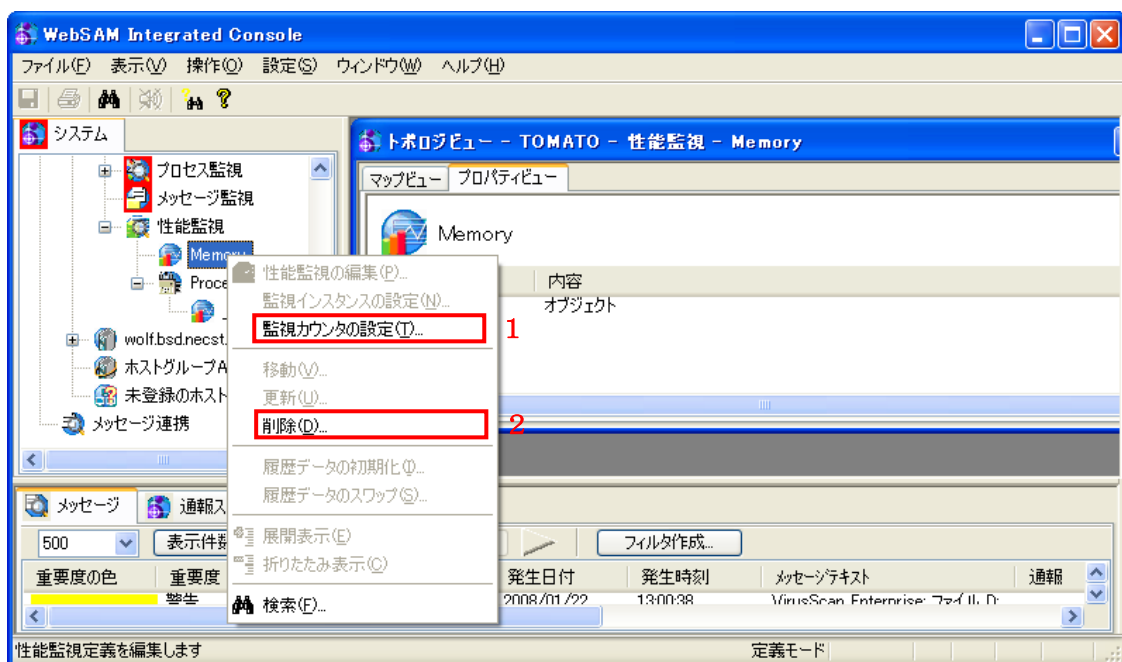


図 33 性能監視定義(インスタンスノードメニュー)画面

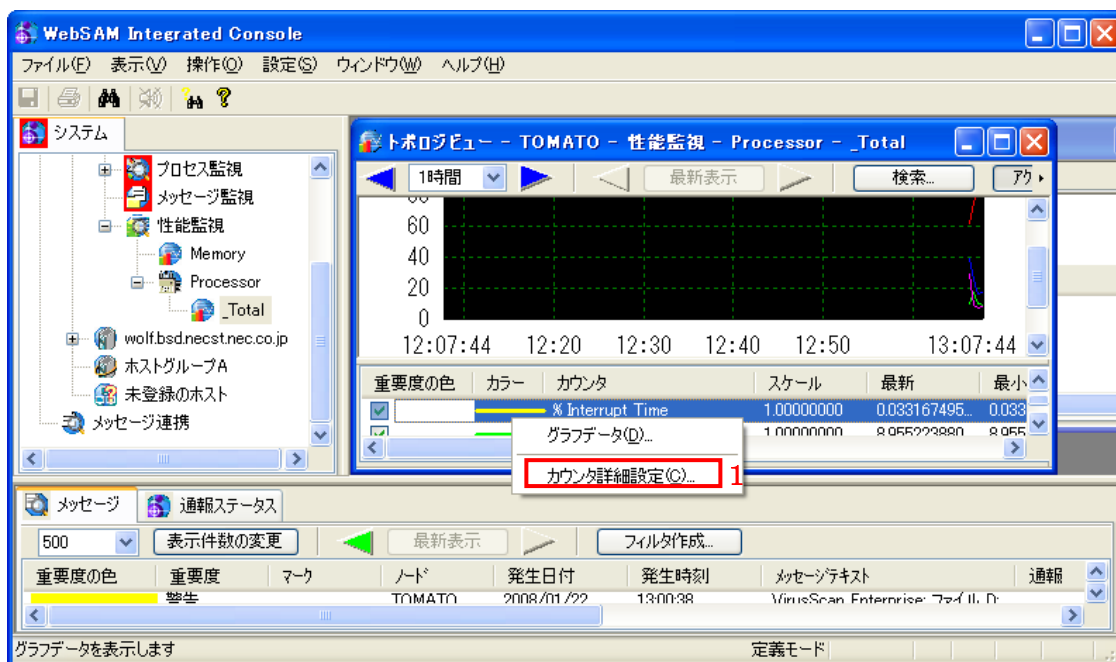


図 34 性能監視定義(グラフメニュー)画面

[入力内容]

性能監視定義(性能監視ノードメニュー)画面の入力内容を表 29に、性能監視定義(オブジェクトノードメニュー)画面の入力内容を表 30に、性能監視定義(インスタンスノードメニュー)画面の入力内容を

表 31に、性能監視定義(グラフメニュー)画面の入力内容を表 32に示します。

表 29 性能監視定義(性能監視ノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	性能監視の編集	なし	メニュー項目を選択することにより、性能監視の編集ダイアログボックスを表示します。 性能監視の編集ダイアログボックスにて、監視対象リソースを選択します。監視対象リソースを選択することにより、対応したオブジェクト、インスタンスがノード配下に作成されます。

表 30 性能監視定義(オブジェクトノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	監視インスタンスの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、監視インスタンスの設定ダイアログボックスを表示します。 監視インスタンスの設定ダイアログボックスにて、監視対象インスタンスを選択します。監視対象インスタンスを選択することにより、対応したインスタンスがノード配下に作成されます。
2	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、オブジェクトノードを削除します。

表 31 性能監視定義(インスタンスノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	監視カウンタの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、監視カウンタの設定ダイアログボックスを表示します。 監視カウンタの設定ダイアログボックスにて、監視対象カウンタを選択します。
2	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、インスタンスノードを削除します。

表 32 性能監視定義(グラフメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	カウンタ詳細設定	なし	メニュー項目を選択することにより、カウンタ詳細設定ダイアログボックスを表示します。 監視詳細設定ダイアログボックスにて、カウンタのグラフ表示に関する設定や、閾値に関する設定等を行ないます。

[処理結果]

性能監視に関する定義情報が更新されます。

性能監視定義(性能監視ノードメニュー)画面、性能監視定義(オブジェクトノードメニュー)画面、性能監視定義(インスタンスノードメニュー)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「監視リソースを定義する」ページを参照してください。

性能監視定義(グラフメニュー)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「監視カウンタの詳細設定(表示設定)を行う」「監視カウンタの詳細設定(閾値設定)を行う」ページを参照してください。

3.3.7.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみに性能監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.8. アプリケーションログ監視定義画面インタフェース

アプリケーションログ監視定義画面インタフェースの使用法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.8.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

アプリケーションログ監視定義(アプリケーションログ監視ノードメニュー)画面を図 35に、アプリケーションログ監視定義(グループノードメニュー)画面を図 36に、アプリケーションログ監視定義(ログノードメニュー)画面を図 37に、アプリケーションログ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面を図 38に、アプリケーションログ監視定義(ログノードアイコンメニュー)画面を図 39に示します。

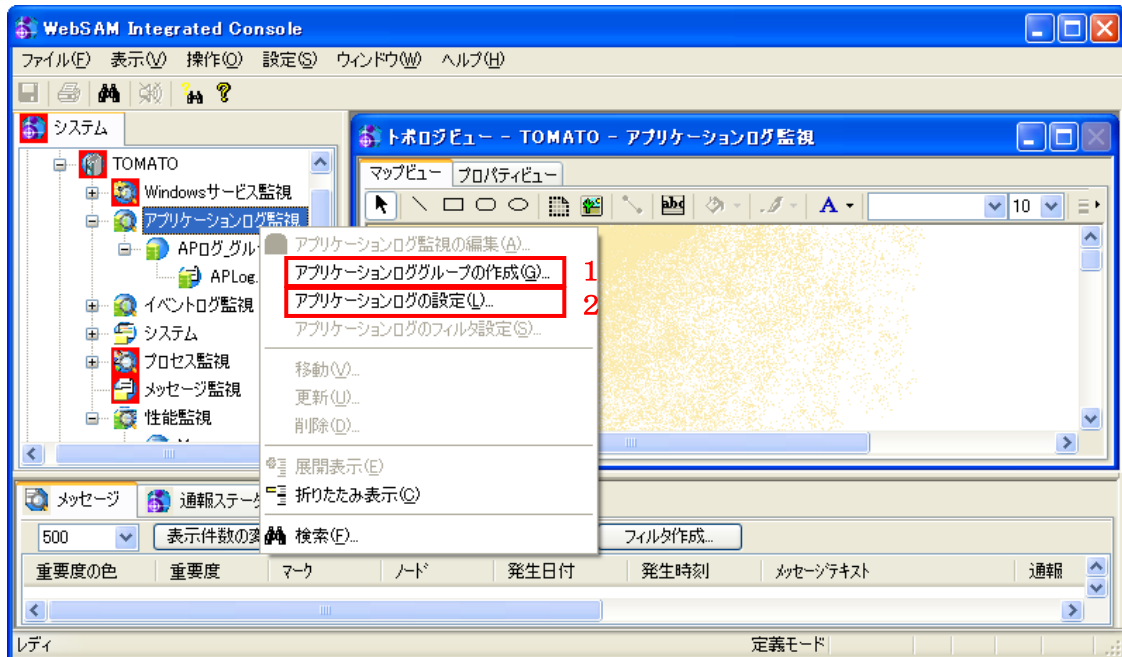


図 35 アプリケーションログ監視定義(アプリケーションログ監視ノードメニュー)画面

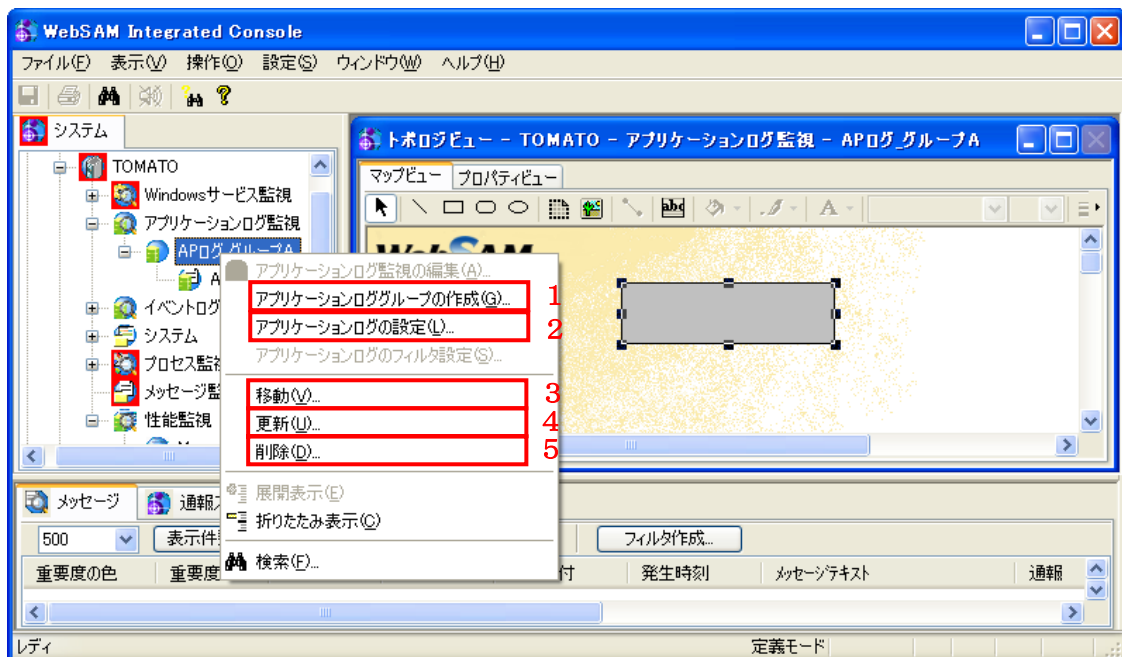


図 36 アプリケーションログ監視定義(グループノードメニュー)画面

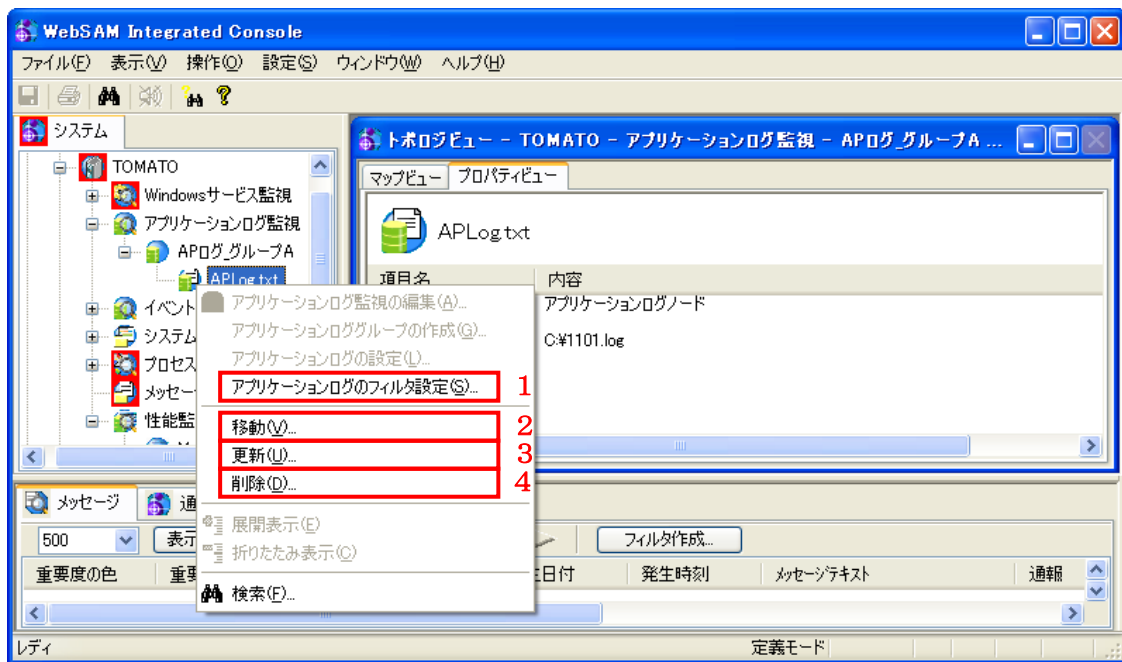


図 37 アプリケーションログ監視定義(ログノードメニュー)画面

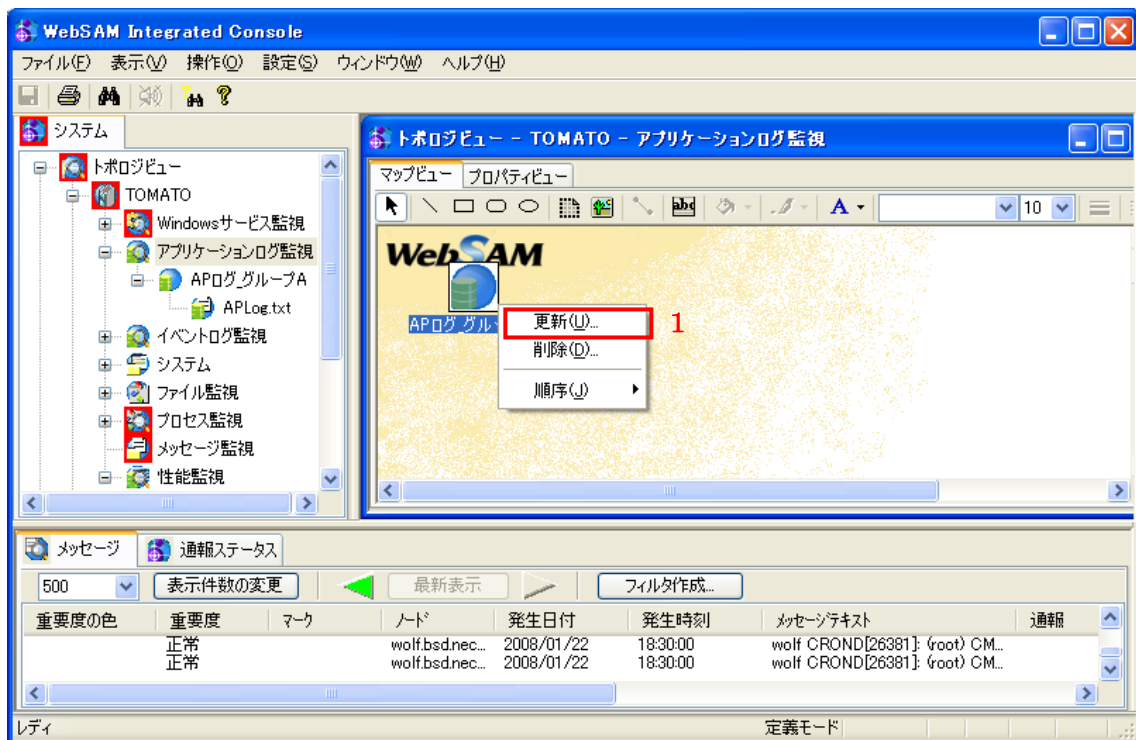


図 38 アプリケーションログ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面

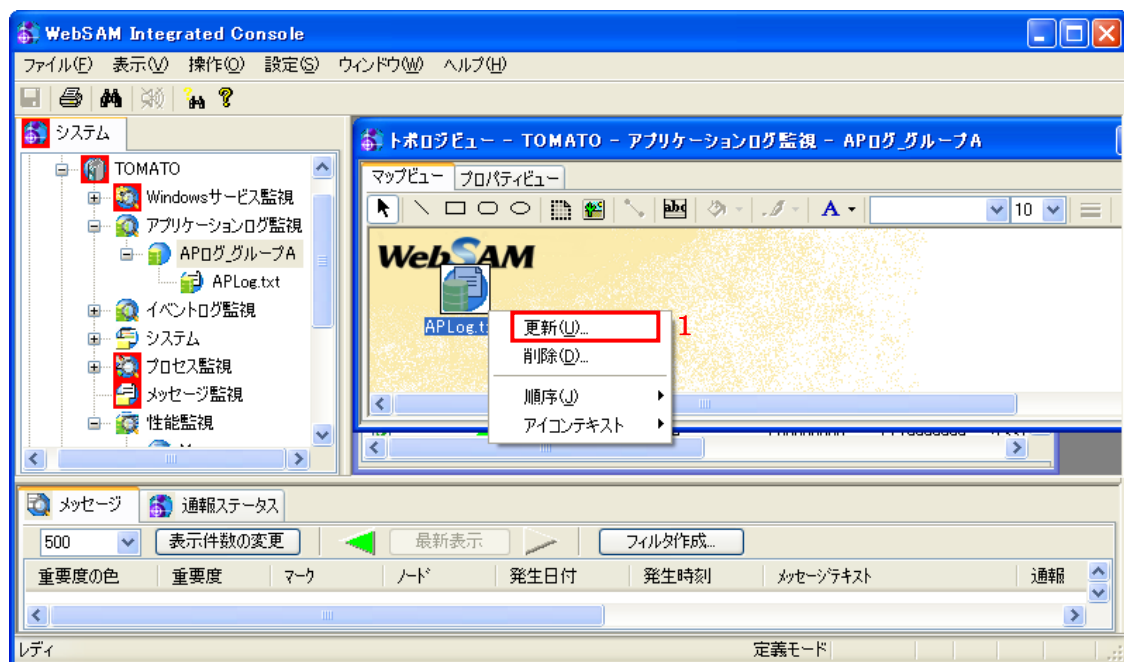


図 39 アプリケーションログ監視定義(ログノードアイコンメニュー)画面

[入力内容]

アプリケーションログ監視定義(アプリケーションログ監視ノードメニュー)画面の入力内容を表 33に、アプリケーションログ監視定義(グループノードメニュー)画面の入力内容を表 34に、アプリケーションログ監視定義(ログノードメニュー)画面の入力内容を表 35に、アプリケーションログ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 36に、アプリケーションログ監視定義(ログノードアイコンメニュー)画面の入力内容を

表 37に示します。

表 33 アプリケーションログ監視定義(アプリケーションログ監視ノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	アプリケーションロググループの作成	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、アプリケーションログ監視ノード配下に新しいグループを作成します。
2	アプリケーションログの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスを表示します。 アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスにて、監視対象ログファイルに関する定義を行ないます。アプリケーションログ監視ノード配下に新しいログノードが作成されます。
3	ドラッグ&ドロップ	なし	アプリケーションログ監視ノード配下のグループノード、ログノードをドラッグ&ドロップすることにより、ツリー上の位置を移動します。

表 34 アプリケーションログ監視定義(グループノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	アプリケーションロググループの作成	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択していたグループノード配下に新しいグループを作成します。
2	アプリケーションログの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスを表示します。 アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスにて、監視対象ログファイルに関する定義を行ないます。選択していたグループノード配下に新しいログノードが作成されます。
3	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したグループノードを、アプリケーションログ監視ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
4	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。
5	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているグループノードを削除します。配下にグループノード、ログノードが存在する場合は、それらも削除します。

表 35 アプリケーションログ監視定義(ログノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	アプリケーションログのフィルタ設定	なし	メニュー項目を選択することにより、フィルタ定義ダイアログボックスを表示します。 フィルタ定義ダイアログボックスにて、抽出するログに関する定義を行います。

項番	項目名	有効範囲	内容
2	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したログノードを、アプリケーションログ監視ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
3	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスを表示します。 アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスにて、監視対象ログファイルに関する定義を更新します。
4	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているログノードを削除します。

表 36 アプリケーションログ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。

表 37 アプリケーションログ監視定義(ログノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスを表示します。 アプリケーションログ監視設定ダイアログボックスにて、監視対象ログファイルに関する定義を更新します。

[処理結果]

アプリケーションログ監視に関する定義情報が更新されます。

アプリケーションログ監視定義(アプリケーションログ監視ノードメニュー)画面、アプリケーションログ監視定義(グループノードメニュー)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「アプリケーションロググループを定義する」「監視するアプリケーションログを定義する」ページを参照してください。

アプリケーションログ監視定義(ログノードメニュー)画面の詳細な使用方法是、マニュアルの「アプリケーションログのフィルタを定義する」ページを参照してください。

3.3.8.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにアプリケーションログ監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.9. イベントログ監視定義画面インタフェース

イベントログ監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.9.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

イベントログ監視定義(ログノードメニュー)画面を図 40に示します。

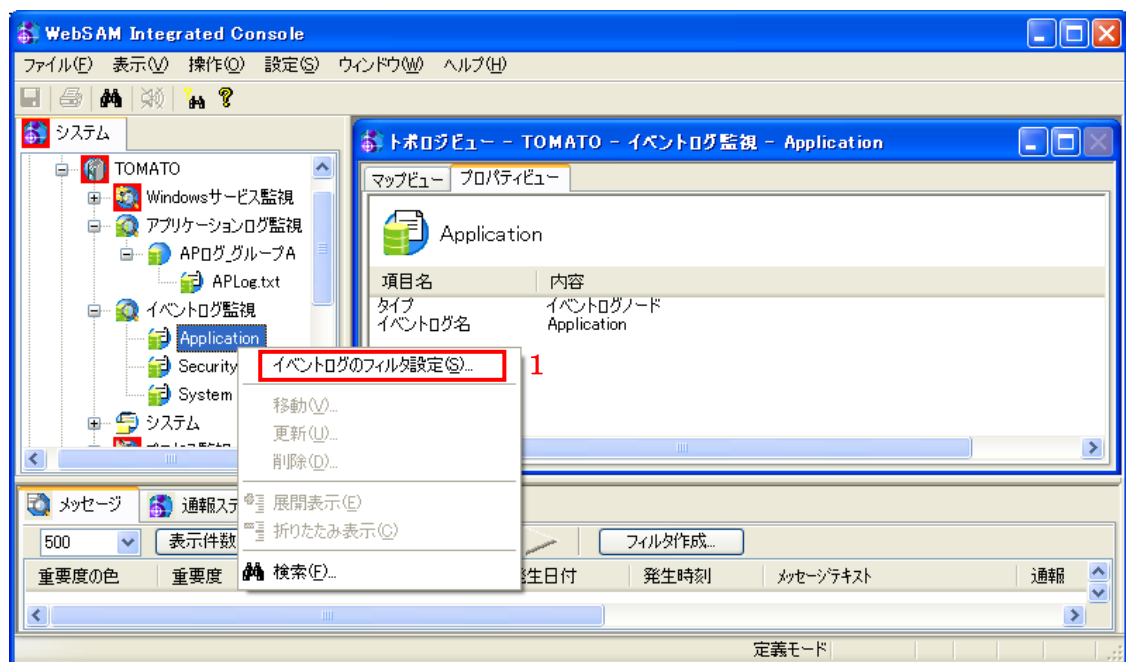


図 40 イベントログ監視定義(ログノードメニュー)画面

[入力内容]

イベントログ監視定義(ログノードメニュー)画面の入力内容を表 38に示します。

表 38 イベントログ監視定義(ログノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	イベントログ フィルタ設 定	なし	メニュー項目を選択することにより、フィルタ定義ダイアログ ボックスを表示します。 フィルタ定義ダイアログボックスにて、抽出するログに関す る定義を行います。

[処理結果]

イベントログ監視に関する定義情報が更新されます。

イベントログ監視定義(ログノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「イベントログのフィルタを定義する」ページを参照してください。

3.3.9.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにイベントログ監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]
なし。

3.3.10. シスログ監視定義画面インタフェース

シスログ監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.10.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

シスログ監視定義(ログノードメニュー)画面を図 41に示します。

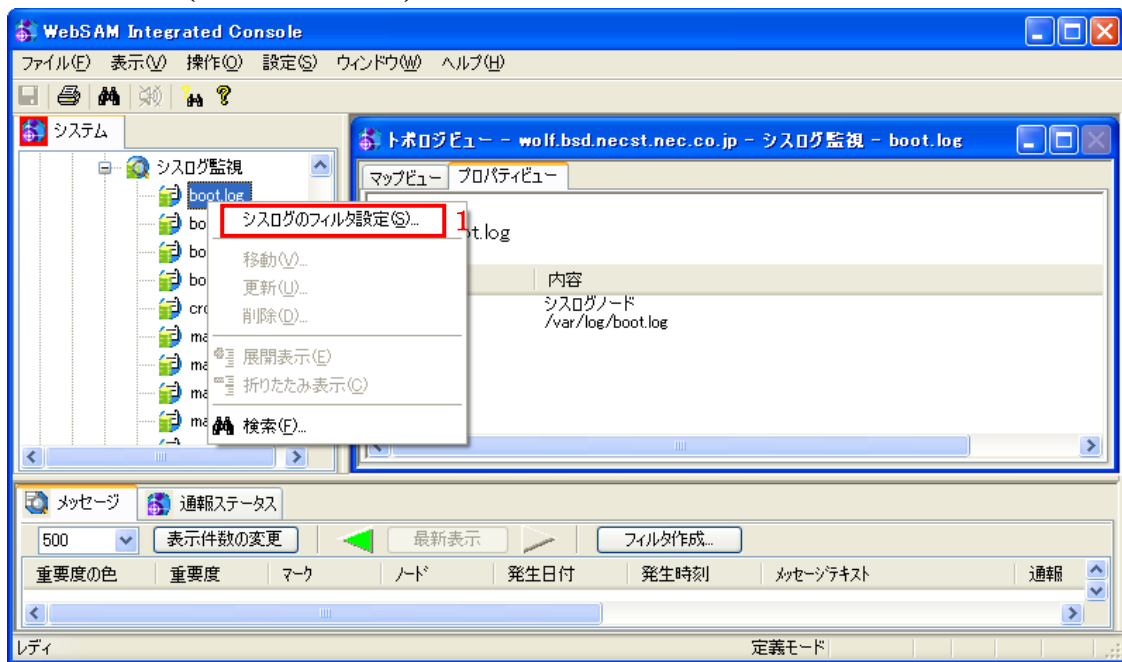


図 41 シスログ監視定義(ログノードメニュー)画面

[入力内容]

シスログ監視定義(ログノードメニュー)画面の入力内容を表 39に示します。

表 39 シスログ監視定義(ログノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	シスログフィルタ設定	なし	メニュー項目を選択することにより、フィルタ定義ダイアログボックスを表示します。 フィルタ定義ダイアログボックスにて、抽出するログに関する定義を行います。

[処理結果]

シスログ監視に関する定義情報が更新されます。

シスログ監視定義(ログノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「シスログのフィルタを定義する」ページを参照してください。

3.3.10.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにシスログ監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.11. プロセス監視定義画面インタフェース

プロセス監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.11.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

プロセス監視定義(プロセス監視ノードメニュー)画面を図 42に、プロセス監視定義(グループノードメニュー)画面を図 43に、プロセス監視定義(プロセス監視メニュー)画面を図 44に、プロセス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面を図 45に示します。

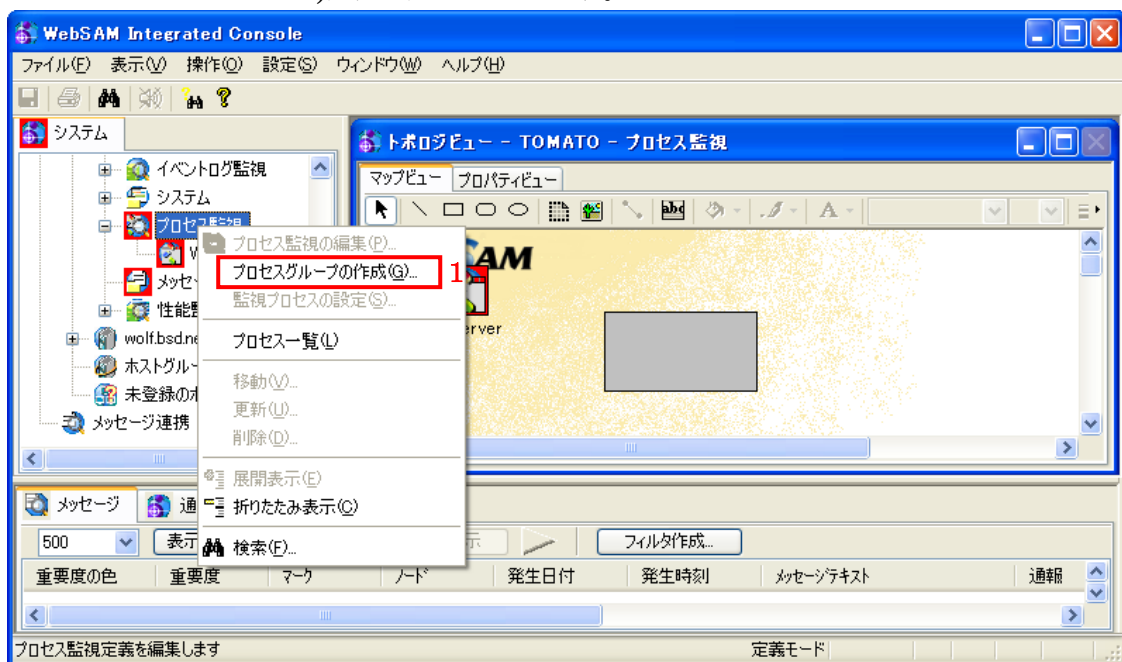


図 42 プロセス監視定義(プロセス監視ノードメニュー)画面

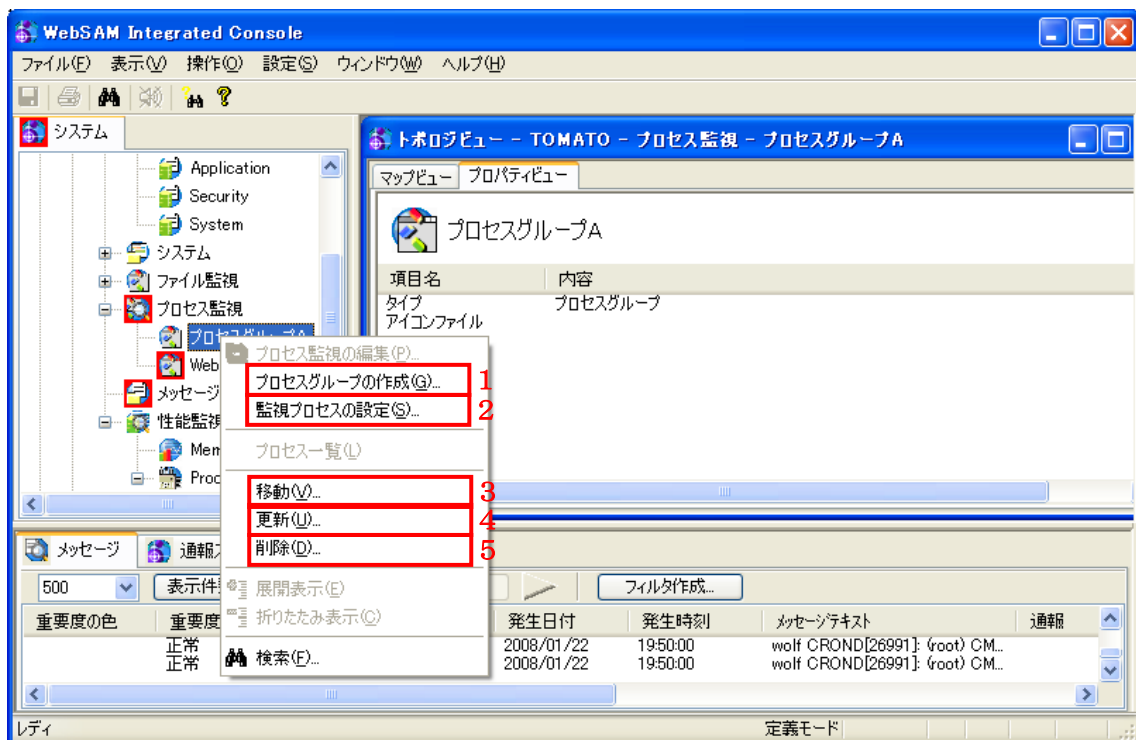


図 43 プロセス監視定義(グループノードメニュー)画面

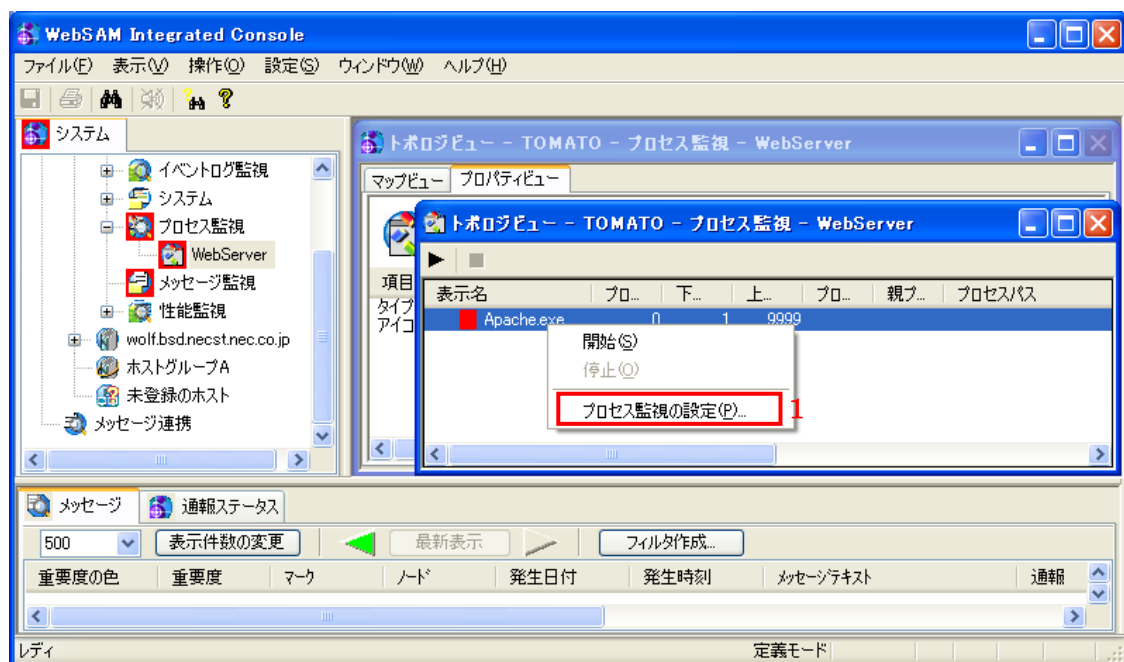


図 44 プロセス監視定義(プロセス監視メニュー)画面

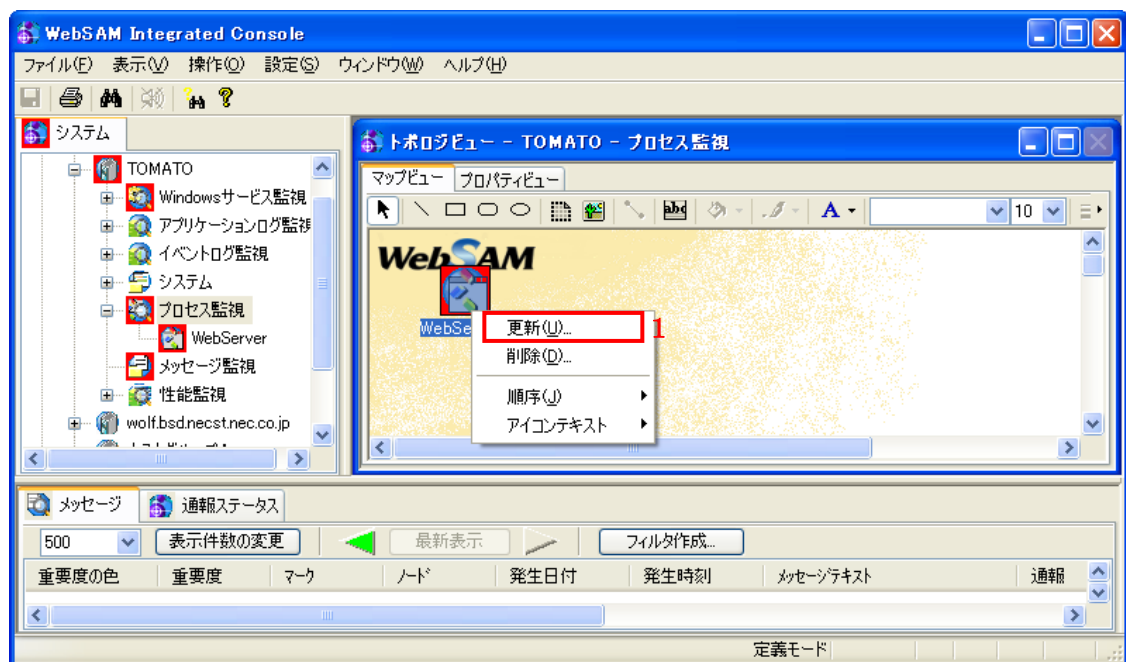


図 45 プロセス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面

[入力内容]

プロセス監視定義(プロセス監視ノードメニュー)画面の入力内容を表 40に、プロセス監視定義(グループノードメニュー)画面の入力内容を表 41に、プロセス監視定義(プロセス監視メニュー)画面の入力内容を表 42に、プロセス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 43に示します。

表 40 プロセス監視定義(プロセス監視ノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	プロセスグループの作成	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、プロセス監視ノード配下に新しいグループを作成します。
2	ドラッグ & ドロップ	なし	プロセス監視ノード配下のグループノードをドラッグ & ドロップすることにより、ツリー上の位置を移動します。

表 41 プロセス監視定義(グループノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	プロセスグループの作成	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択していたグループノード配下に新しいグループを作成します。
2	監視プロセスの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、監視プロセスの設定ダイアログボックスを表示します。 監視プロセスの設定ダイアログボックスにて、監視対象プロセスに関する定義を行ないます。
3	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したグループノードを、プロセス監視ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。

項番	項目名	有効範囲	内容
4	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。
5	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているグループノードを削除します。配下にグループノードが存在する場合は、それらも削除します。

表 42 プロセス監視定義(プロセス監視メニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	プロセス監視の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、プロセス監視詳細設定ダイアログボックスを表示します。 プロセス監視詳細設定ダイアログボックスにて、プロセスに関する定義を行います。

表 43 プロセス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。

[処理結果]

プロセス監視に関する定義情報が更新されます。

プロセス監視定義(プロセス監視ノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「プロセスグループを定義する」ページを参照してください。

プロセス監視定義(グループノードメニュー)画面、プロセス監視定義(プロセス監視メニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「監視プロセスを定義する」「監視プロセスの詳細設定(監視設定)を行う」「監視プロセスの詳細設定(起動・停止コマンド)を行う」ページを参照してください。

3.3.11.2.セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにプロセス監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.12. Windows サービス監視定義画面インタフェース

Windows サービス監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.12.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

Windowsサービス監視定義(Windowsサービス監視ノードメニュー)画面を図 46に、Windowsサービス監視定義(グループノードメニュー)画面を図 47に、Windowsサービス監視定義(Windowsサービス監視メニュー)画面を図 48に、Windowsサービス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面を図 49に示します。

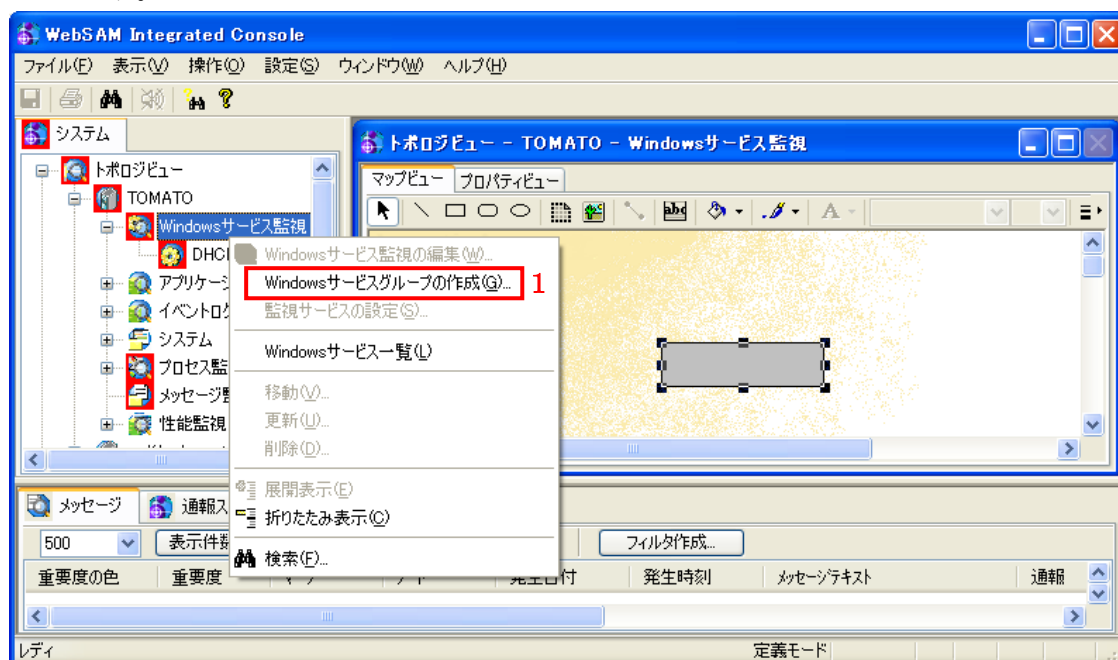


図 46 Windows サービス監視定義(Windows サービス監視ノードメニュー)画面

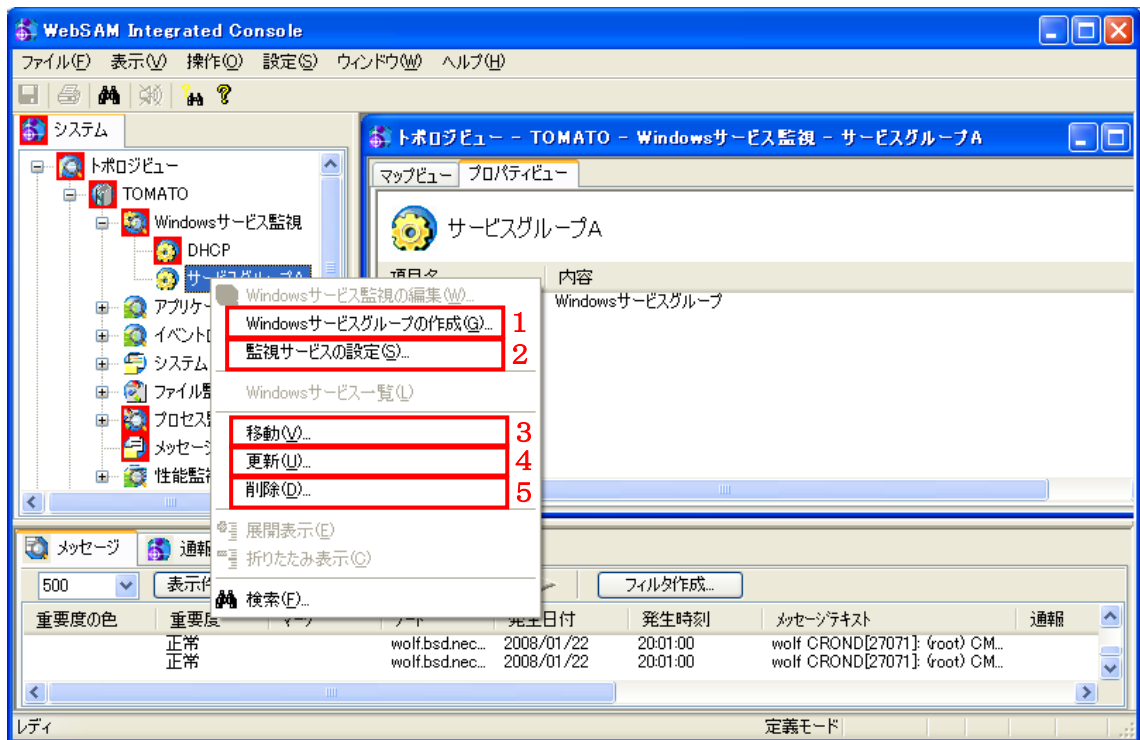


図 47 Windows サービス監視定義(グループノードメニュー)画面

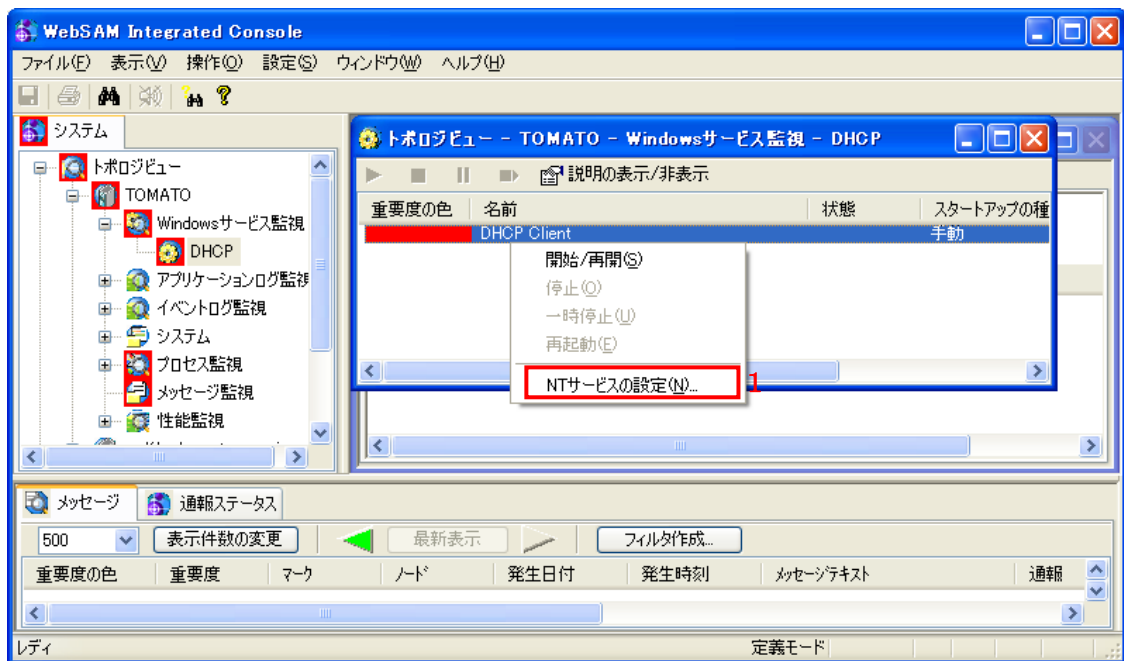


図 48 Windows サービス監視定義(Windows サービス監視メニュー)画面

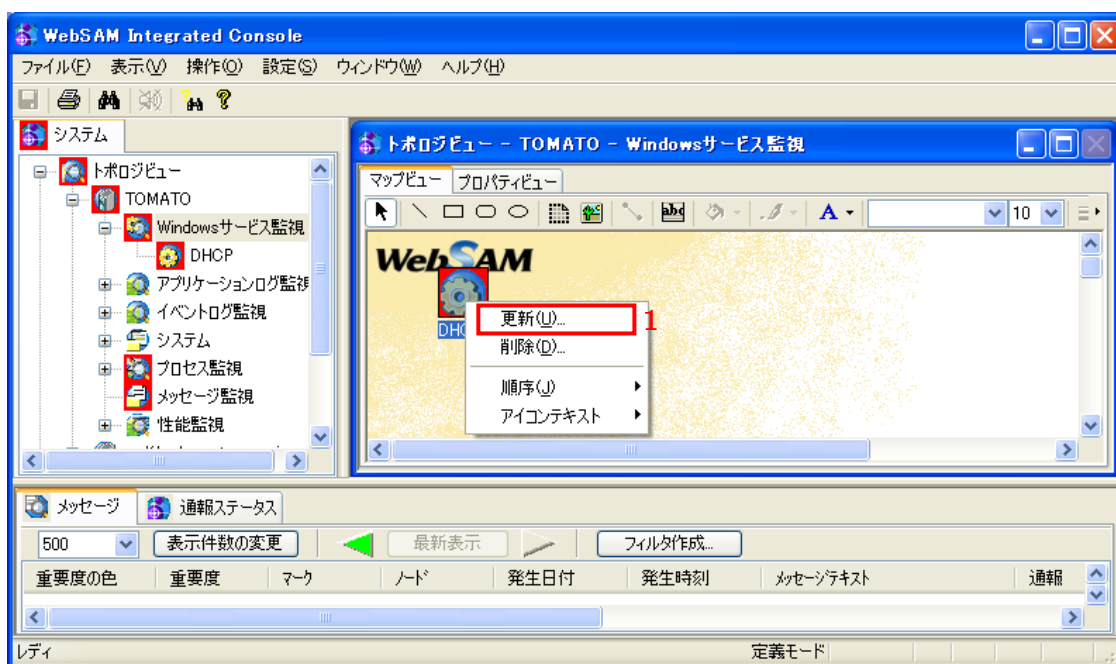


図 49 Windows サービス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面

[入力内容]

Windows サービス監視定義(Windows サービス監視ノードメニュー)画面の入力内容を表 44に、Windows サービス監視定義(グループノードメニュー)画面の入力内容を表 45に、Windows サービス監視定義(Windows サービス監視メニュー)画面の入力内容を表 46に、Windows サービス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 47に示します。

表 44 Windows サービス監視定義(Windows サービス監視ノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	Windows サービスグループの作成	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、Windows サービス監視ノード配下に新しいグループを作成します。
2	ドラッグ & ドロップ	なし	Windows サービス監視ノード配下のグループノードをドラッグ & ドロップすることにより、ツリー上の位置を移動します。

表 45 Windows サービス監視定義(グループノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	Windows サービスグループの作成	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択していたグループノード配下に新しいグループを作成します。
2	監視サービスの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、Windows サービスの設定ダイアログボックスを表示します。 Windows サービスの設定ダイアログボックスにて、監視対象 Windows サービスに関する定義を行ないます。
3	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したグループノードを、Windows サービス監視ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。

項番	項目名	有効範囲	内容
4	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。
5	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているグループノードを削除します。配下にグループノードが存在する場合は、それらも削除します。

表 46 Windows サービス監視定義(Windows サービス監視メニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	NT サービスの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、NT サービスの設定ダイアログボックスを表示します。 NT サービスの設定ダイアログボックスにて、Windows サービス監視に関する通報定義を行います。

表 47 Windows サービス監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。

[処理結果]

Windows サービス監視に関する定義情報が更新されます。

Windows サービス監視定義(Windows サービス監視ノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「Windows サービスグループを定義する」ページを参照してください。

Windows サービス監視定義(グループノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「監視サービスを定義する」ページを参照してください。

Windows サービス監視定義(Windows サービス監視メニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「監視サービスの詳細設定を行う」ページを参照してください。

3.3.12.2.セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみに Windows サービス監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]
なし。

3.3.13. ファイル監視定義画面インタフェース

ファイル監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.13.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ファイル監視定義(ファイル監視ノードメニュー)画面を図 50に、ファイル監視定義(グループノードメニュー)画面を図 51に、ファイル監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面を図 52に示します。

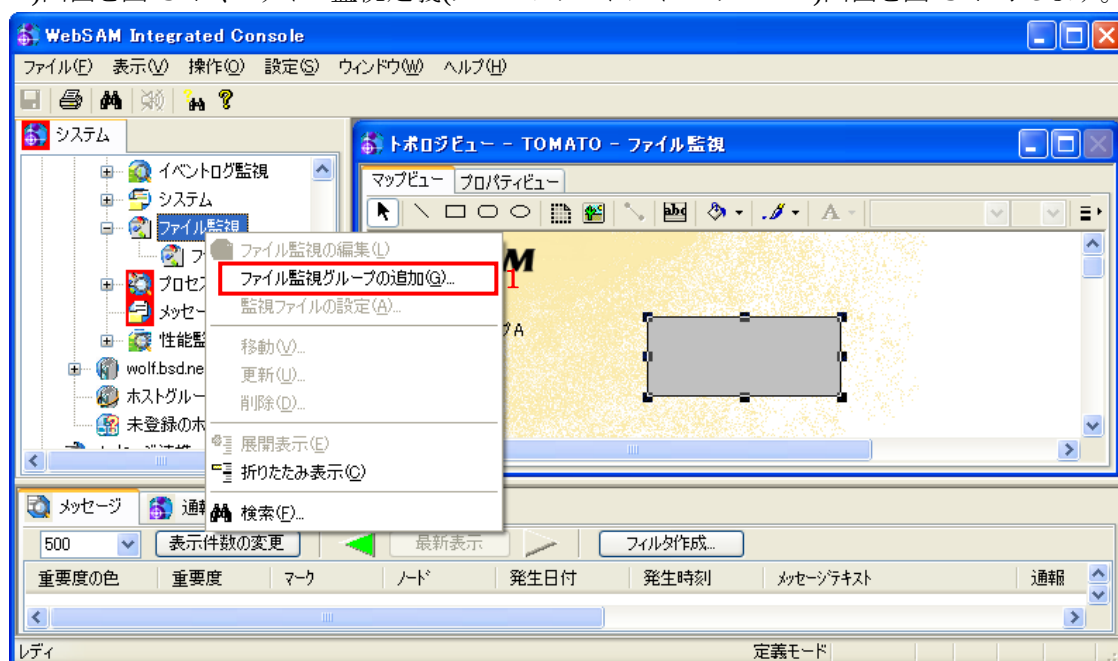


図 50 ファイル監視定義(ファイル監視ノードメニュー)画面

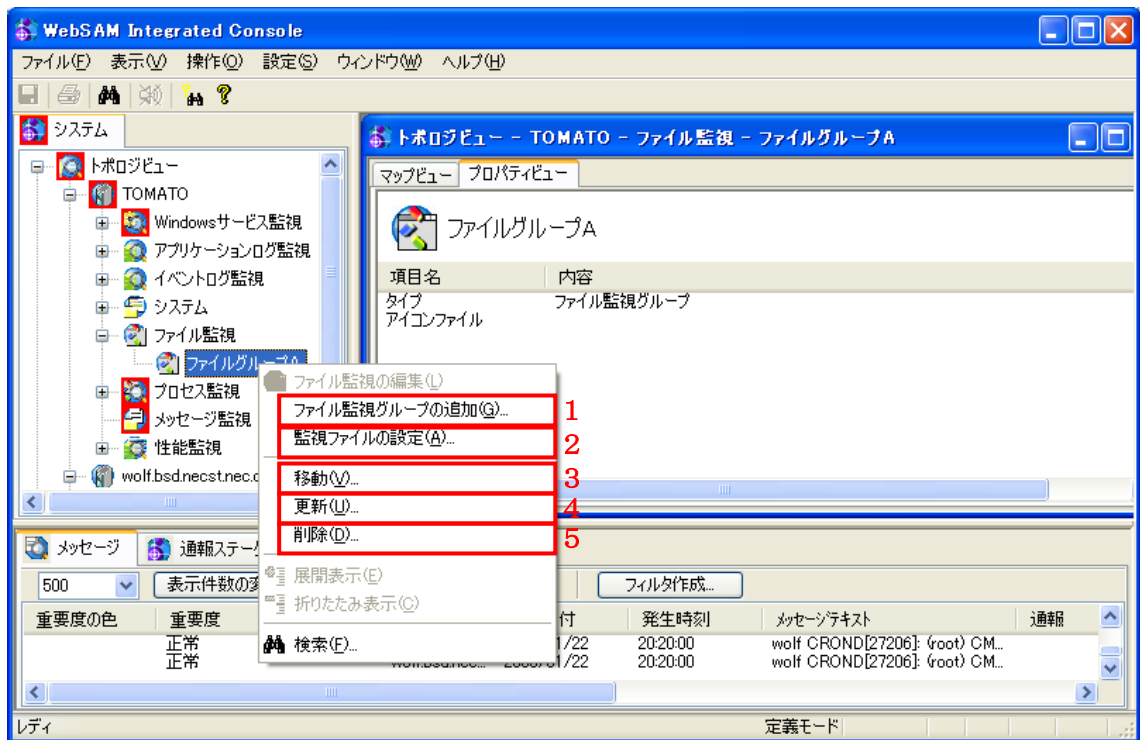


図 51 ファイル監視定義(グループノードメニュー)画面

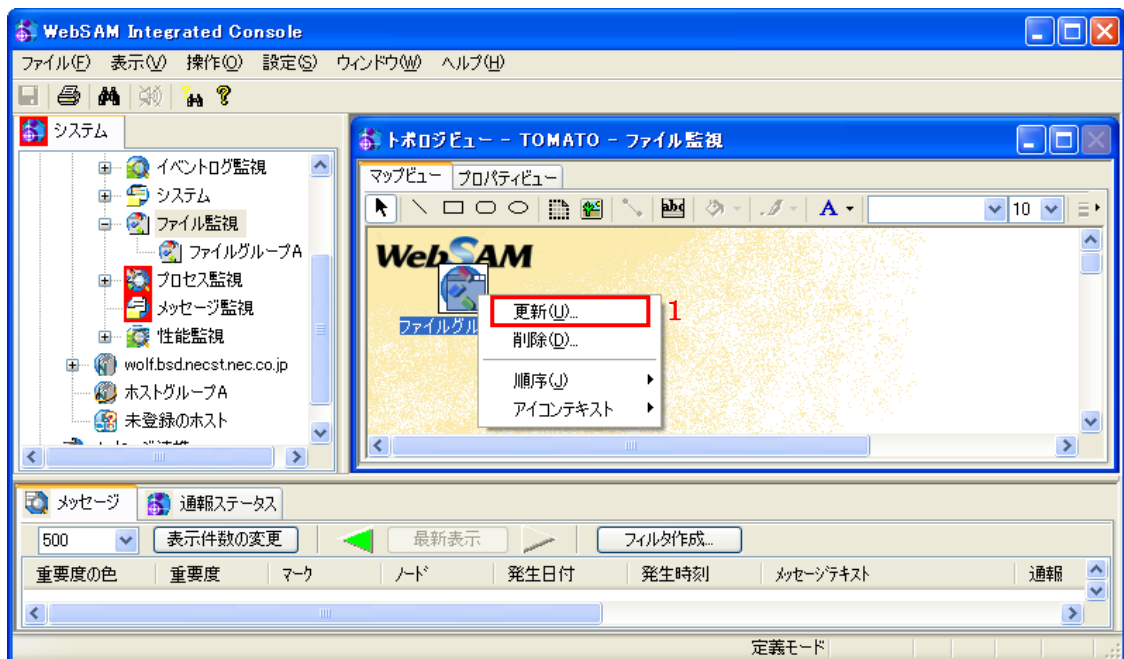


図 52 ファイル監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面

[入力内容]

ファイル監視定義(ファイル監視ノードメニュー)画面の入力内容を

表 48に、ファイル監視定義(グループノードメニュー)画面の入力内容を表 49に、ファイル監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 50に示します。

表 48 ファイル監視定義(ファイル監視ノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ファイル監視グループの追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、ファイル監視ノード配下に新しいグループを作成します。
2	ドラッグ&ドロップ	なし	ファイル監視ノード配下のグループノードをドラッグ&ドロップすることにより、ツリー上の位置を移動します。

表 49 ファイル監視定義(グループノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ファイル監視グループの追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択していたグループノード配下に新しいグループを作成します。
2	監視ファイルの設定	なし	メニュー項目を選択することにより、監視ファイル設定ダイアログボックスを表示します。 監視ファイル設定ダイアログボックスにて、監視対象ファイルに関する定義を行ないます。
3	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したグループノードを、ファイル監視ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
4	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。
5	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているグループノードを削除します。配下にグループノードが存在する場合は、それらも削除します。

表 50 ファイル監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。

[処理結果]

ファイル監視に関する定義情報が更新されます。

ファイル監視定義(ファイル監視ノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「ファイル監視グループを定義する」ページを参照してください。

ファイル監視定義(グループノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「監視ファイルを定義する」ページを参照してください。

3.3.13.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにファイル監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.14. メッセージ監視定義画面インタフェース

メッセージ監視定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.14.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

メッセージ監視定義(メッセージ監視メニュー)画面を図 53に、メッセージ監視定義(カウンタメニュー)画面を図 54に、メッセージ監視定義(メッセージ連携メニュー)画面を図 55に、メッセージ監視定義(グループノードメニュー)画面を図 56に、メッセージ監視定義(ホストノードメニュー)画面を図 57に、メッセージ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面を図 58に、メッセージ監視定義(ホストノードアイコンメニュー)画面を図 59に示します。

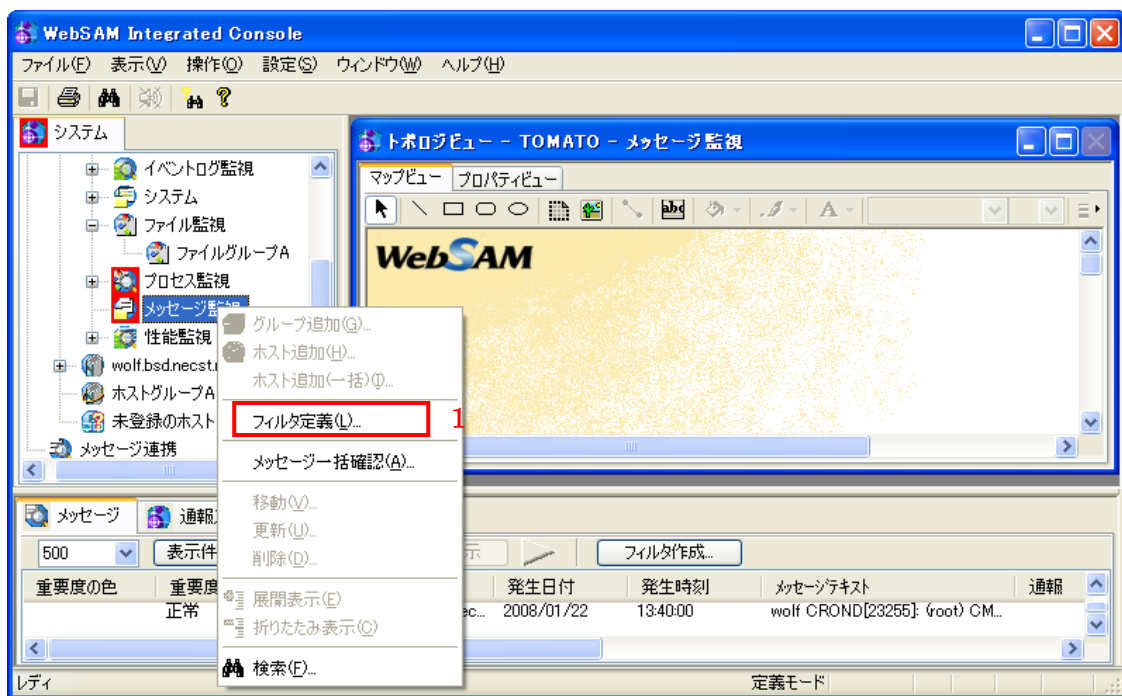


図 53 メッセージ監視定義(メッセージ監視メニュー)画面

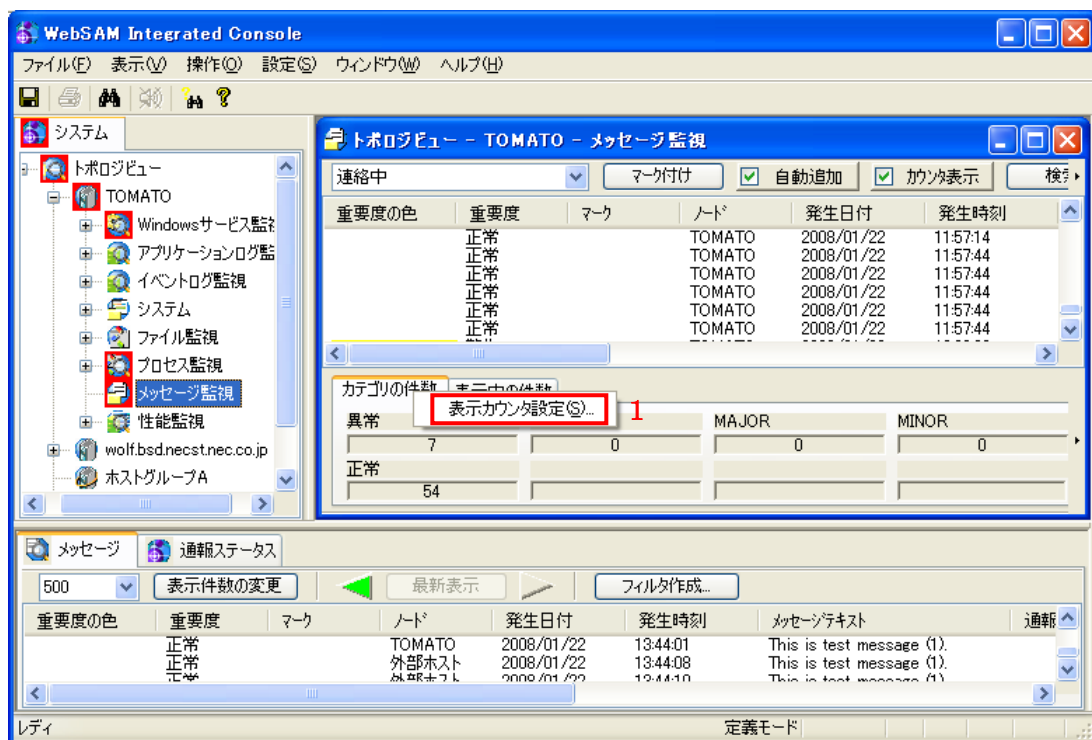


図 54 メッセージ監視定義(カウンタメニュー)画面

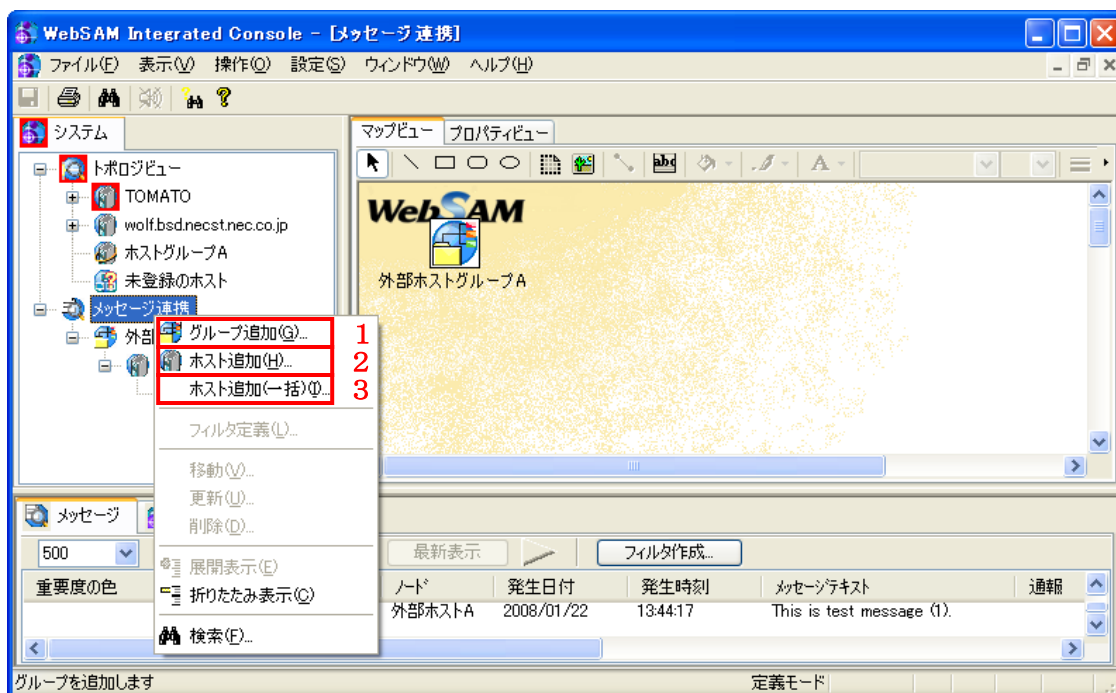


図 55 メッセージ監視定義(メッセージ連携メニュー)画面

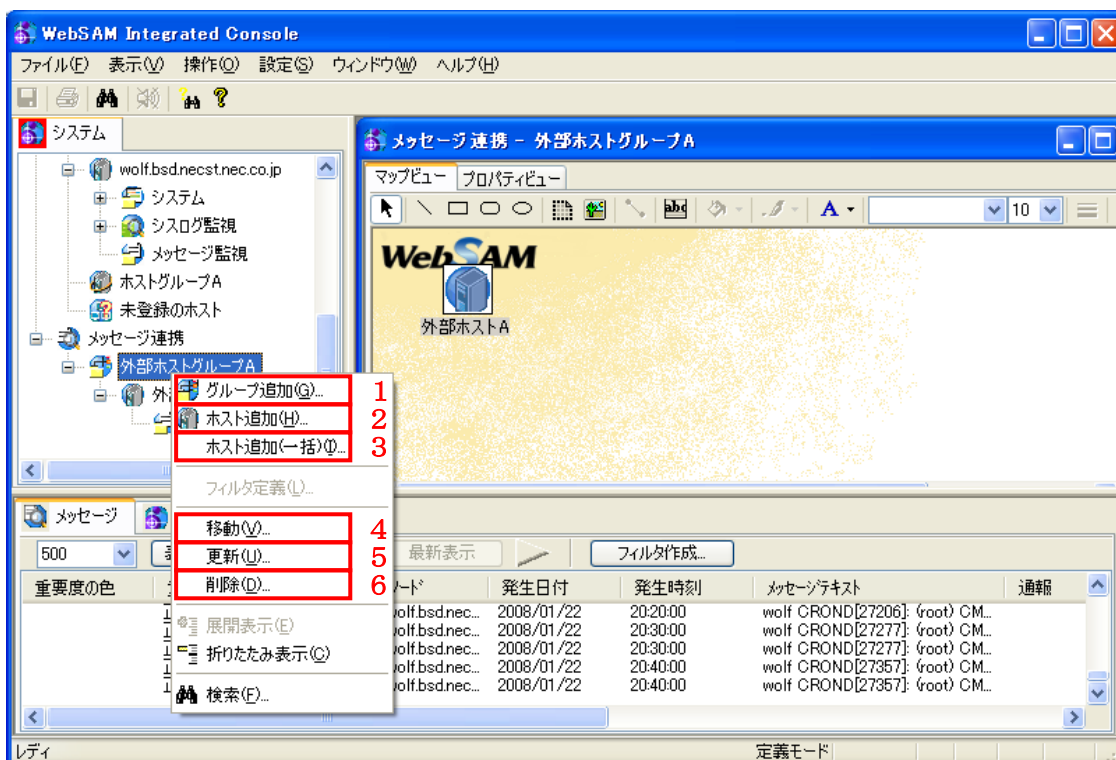


図 56 メッセージ監視定義(グループノードメニュー)画面

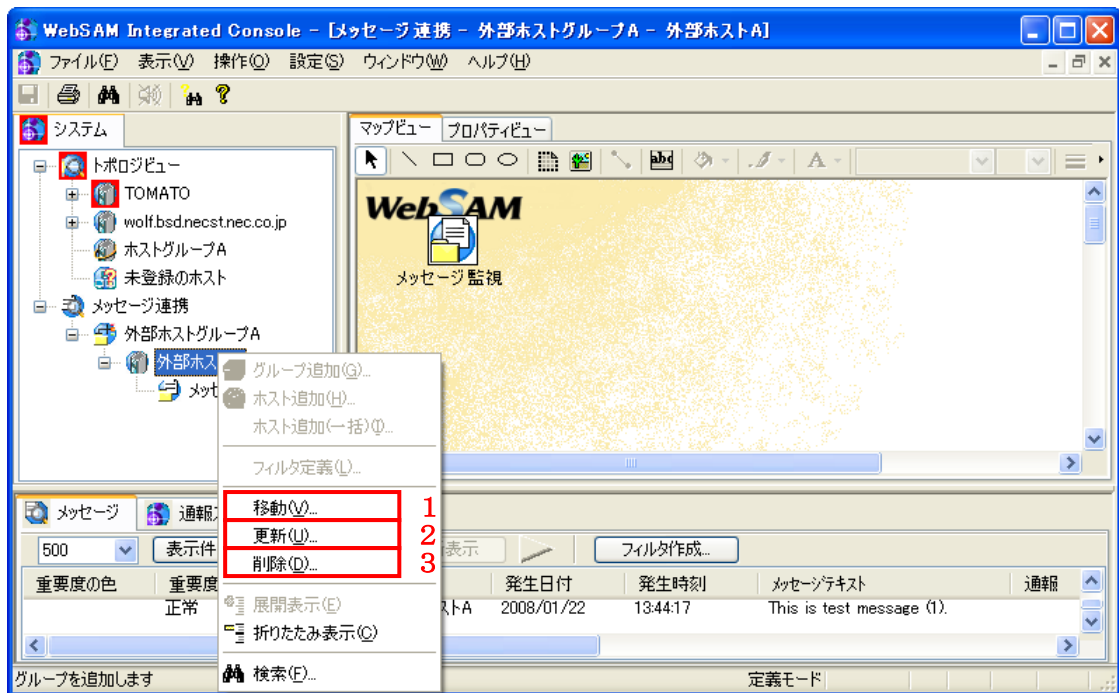


図 57 メッセージ監視定義(ホストノードメニュー)画面

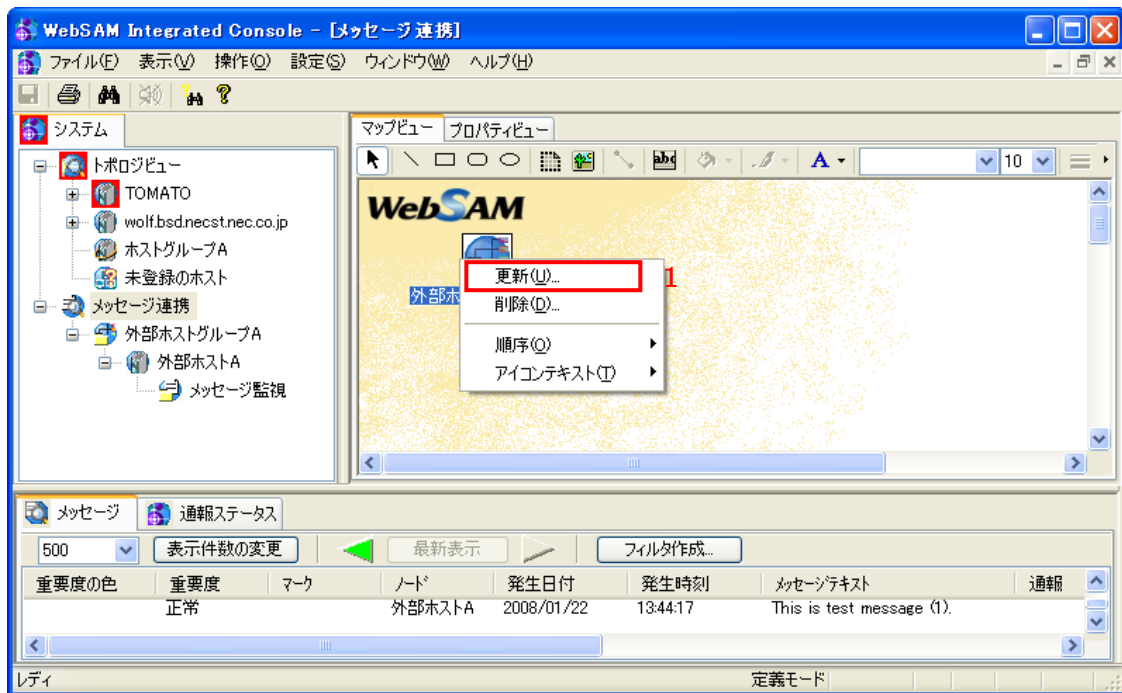


図 58 メッセージ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面

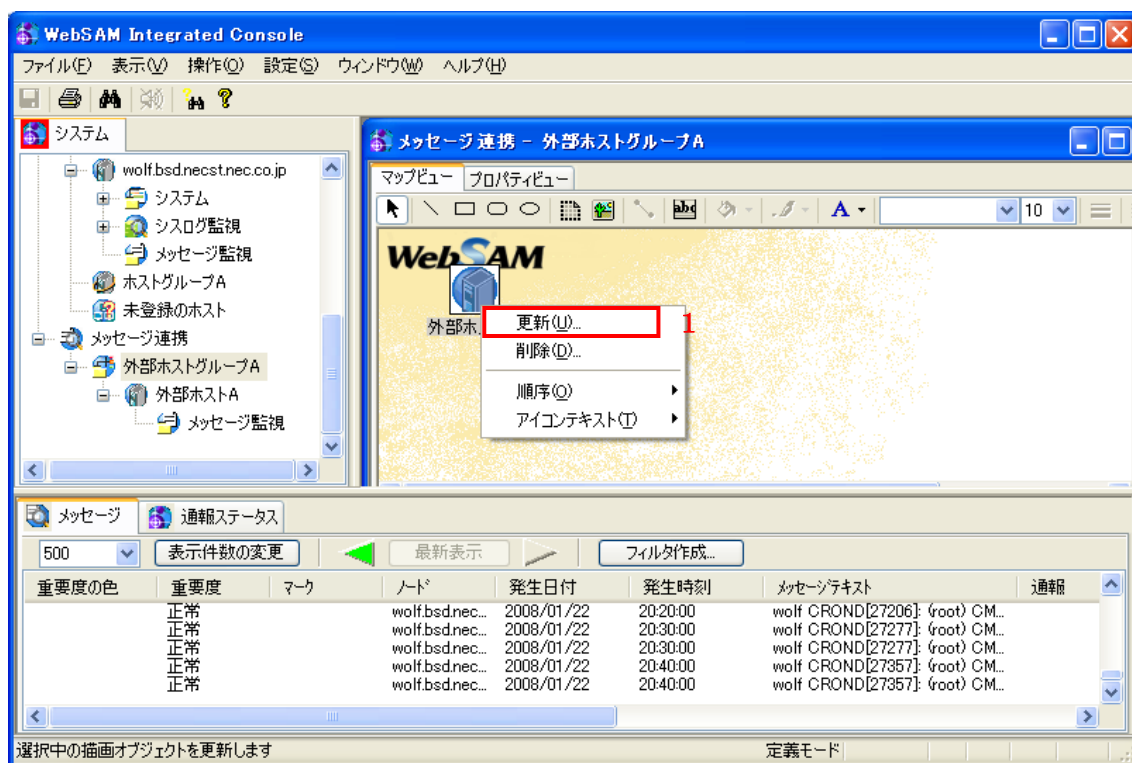


図 59 メッセージ監視定義(ホストノードアイコンメニュー)画面

[入力内容]

メッセージ監視定義(メッセージ監視メニュー)画面の入力内容を表 51に、メッセージ監視定義(カウンタメニュー)画面の入力内容を表 52に、メッセージ監視定義(メッセージ連携メニュー)画面の入力内容を表 53に、メッセージ監視定義(グループノードメニュー)画面の入力内容を表 54に、メッセージ監視定義(ホストノードメニュー)画面の入力内容を表 55に、メッセージ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 56に、メッセージ監視定義(ホストノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 57に示します。

表 51 メッセージ監視定義(メッセージ監視ノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	フィルタ定義	なし	メニュー項目を選択することにより、フィルタ定義ダイアログボックスを表示します。 フィルタ定義ダイアログボックスにて、メッセージ監視に関する定義を行います。

表 52 メッセージ監視定義(カウンタメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	表示カウンタ設定	なし	メニュー項目を選択することにより、表示カウンタ設定ダイアログボックスを表示します。 表示カウンタ設定ダイアログボックスにて、カウントパネルに表示するカウンタの定義を行います。

表 53 メッセージ監視定義(メッセージ連携メニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、メッセージ連携配下に新しいグループを作成します。
2	ホスト追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規ホストダイアログボックスを表示します。 新規ホストダイアログボックスにて、メッセージ連携配下に新しいホストを作成します。
3	ホスト追加(一括)	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストの追加(一括)ダイアログボックスを表示します。 ホストの追加(一括)ダイアログボックスにて、メッセージ連携配下に新しいホストを作成します。
4	ドラッグ&ドロップ	なし	メッセージ連携ノード配下のグループノード、ホストノードをドラッグ&ドロップすることにより、ツリー上の位置を移動します。

表 54 メッセージ監視定義(グループノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規グループダイアログボックスを表示します。 新規グループダイアログボックスにて、選択しているグループノード配下に新しいグループを作成します。
2	ホスト追加	なし	メニュー項目を選択することにより、新規ホストダイアログボックスを表示します。 新規ホストダイアログボックスにて、選択しているグループノード配下に新しいホストを作成します。
3	ホスト追加(一括)	なし	メニュー項目を選択することにより、ホストの追加(一括)ダイアログボックスを表示します。 ホストの追加(一括)ダイアログボックスにて、選択しているグループノードに新しいホストを作成します。
4	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したグループノードを、メッセージ連携ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
5	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。
6	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているグループノードを削除します。配下にグループノードが存在する場合は、それらも削除します。

表 55 メッセージ監視定義(ホストノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	移動	なし	メニュー項目を選択することにより、移動ダイアログボックスを表示します。 移動ダイアログボックスにて、選択したホストノードを、メッセージ連携ノードおよび他のグループノードの配下に移動します。
2	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、ホスト更新ダイアログボックスを表示します。 ホスト更新ダイアログボックスにて、アイコンを更新します。
3	削除	なし	メニュー項目を選択することにより、選択しているホストノードを削除します。

表 56 メッセージ監視定義(グループノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、グループ更新ダイアログボックスを表示します。 グループ更新ダイアログボックスにて、選択したグループノードのグループ名等を更新します。

表 57 メッセージ監視定義(ホストノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	更新	なし	メニュー項目を選択することにより、ホスト更新ダイアログボックスを表示します。 ホスト更新ダイアログボックスにて、アイコンを更新します。

[処理結果]

メッセージ監視に関する定義情報が更新されます。

メッセージ監視定義(メッセージ監視メニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「メッセージのフィルタを定義する」ページを参照してください。

メッセージ監視定義(カウンタメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「メッセージをカウントする」ページを参照してください。

メッセージ監視定義(メッセージ連携メニュー)画面、メッセージ監視定義(グループノードメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「ホストグループの定義」「ホストを定義する」「ホストを一括登録する」ページを参照してください。

3.3.14.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにメッセージ監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目、ドラッグ&ドロップのインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.3.15. 履歴情報削除画面インタフェース

履歴情報削除画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.3.15.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

履歴情報削除(メッセージ)画面を図 60に、履歴情報削除(通報)画面を図 61に、履歴情報削除(性能情報)画面を図 62に示します。

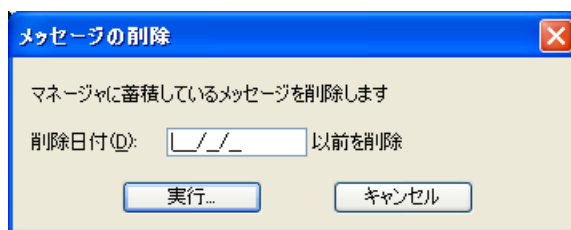


図 60 履歴情報削除(メッセージ)画面

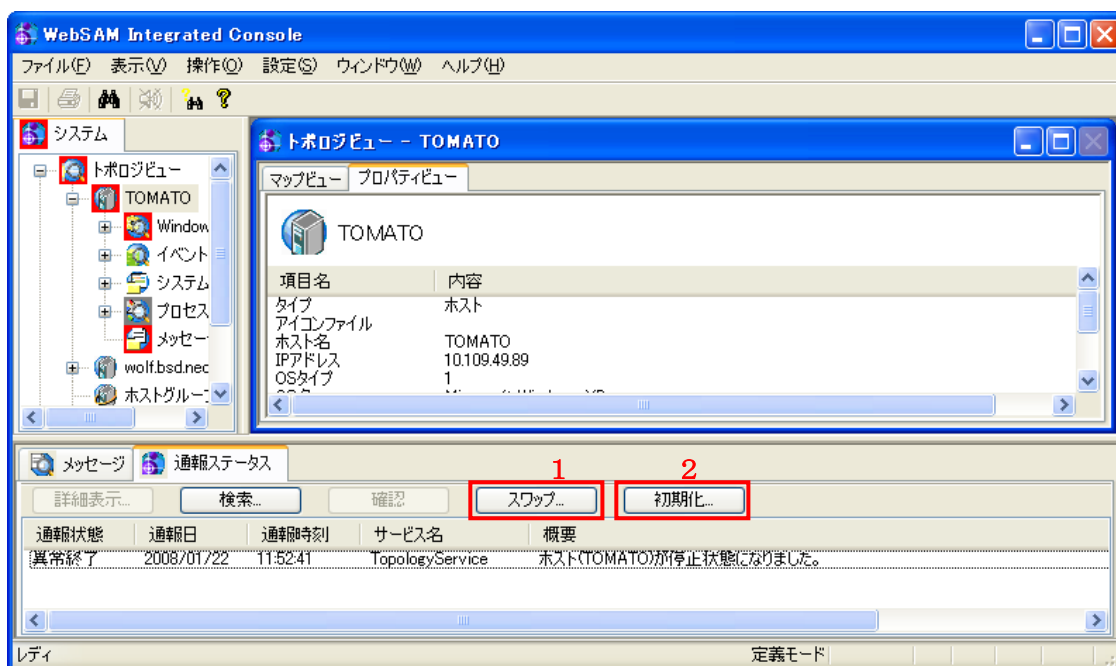


図 61 履歴情報削除(通報)画面

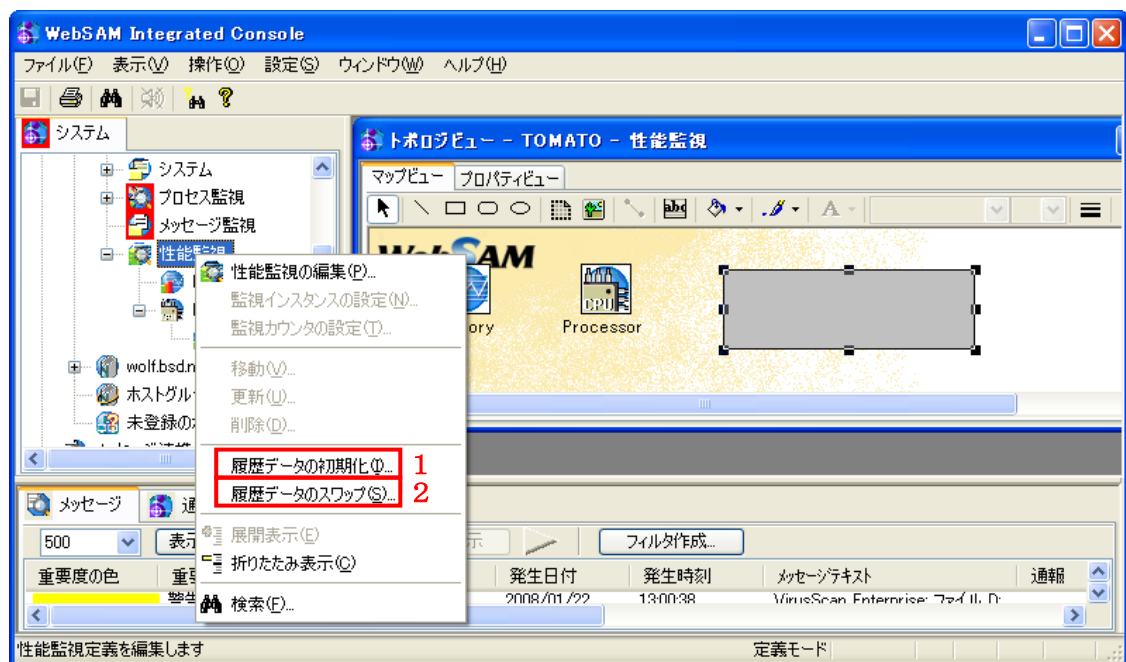


図 62 履歴情報削除(性能情報)画面

[入力内容]

履歴情報削除(メッセージ)画面の入力内容を表 58に、履歴情報削除(通報)画面の入力内容を表 59に、履歴情報削除(性能情報)画面の入力内容を表 60に示します。

表 58 履歴情報削除(メッセージ)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	削除日付	1971/01/01 ~ 2037/12/31	指定した日付以前のメッセージ情報を削除します。

表 59 履歴情報削除(通報)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	スワップ	なし	押下することにより、通報履歴のスワップダイアログボックスを表示します。 通報履歴のスワップダイアログボックスにて、指定日以前の通報履歴の削除を行います。
2	初期化	なし	押下することにより、全ての通報履歴を削除します。

表 60 履歴情報削除(性能情報)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	履歴データの初期化	なし	メニュー項目を選択することにより、全ての性能情報を削除します。
2	履歴データのスワップ	なし	メニュー項目を選択することにより、履歴データのスワップダイアログボックスを表示します。 履歴データのスワップダイアログボックスにて、指定日以前の性能情報の削除を行います。

[処理結果]

履歴情報が削除されます。

履歴情報削除(メッセージ)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「メッセージ監視のオプションを設

定する」ページを参照してください。

履歴情報削除(通報)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「通報履歴を削除する」ページを参照してください。

履歴情報削除(性能情報)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「履歴データを削除する」ページを参照してください。

3.3.15.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、定義変更権限を持つ利用者のみにメッセージ監視定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

履歴情報削除(メッセージ)画面については、オプション設定メニュー画面インタフェースにより遷移するため、オプション設定メニュー画面インタフェースにてアクセス制御を実施しています。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.4. ユーザ情報管理者の操作

3.4.1. インタフェース一覧

ユーザ情報管理者が使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 61の通りとなります。

表 61 ユーザ情報管理者使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
履歴情報更新画面	TOE が蓄積している履歴情報を更新する画面 詳細は、3.2.2を参照
プロセス情報操作画面	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示する画面 詳細は、3.2.3を参照
Windows サービス情報操作画面	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示する画面 詳細は、3.2.4を参照
定義モード移行画面	定義モードに移行する画面 詳細は、3.3.2を参照
オプション設定メニュー画面	オプション設定を行う画面 詳細は、3.3.3を参照
マップビュー定義画面	マップビューの定義を行う画面 詳細は、3.3.4を参照
トポロジー定義画面	トポロジーの定義を行う画面 詳細は、3.3.5を参照
通報定義画面	通報の定義を行う画面 詳細は、3.3.6を参照
性能監視定義画面	性能監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.7を参照
アプリケーションログ監視定義画面	アプリケーションログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.8を参照
イベントログ監視定義画面	イベントログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.9を参照
シスログ監視定義画面	シスログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.10を参照
プロセス監視定義画面	プロセス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.11を参照
Windows サービス監視定義画面	Windows サービス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.12を参照
ファイル監視定義画面	ファイル監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.13を参照
メッセージ監視定義画面	メッセージ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.14を参照
履歴情報削除画面	履歴情報を削除する画面 詳細は、3.3.15を参照
ユーザ管理メニュー画面	ユーザ管理メニューを起動する画面
ユーザ追加画面	ユーザを追加する画面

インタフェース名	インタフェース概要
ユーザ削除画面	ユーザを削除する画面
ユーザプロパティ画面	ユーザ情報を変更する画面
グループ追加画面	グループを追加する画面
グループ削除画面	グループを削除する画面
グループ変更画面	グループのグループ名を変更する画面
権限情報変更画面	権限情報を変更する画面
グループ所属ユーザ変更画面	グループに所属するユーザを変更する画面
ユーザパスワード変更画面	指定したユーザのパスワードを変更する画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、ユーザ情報管理者は使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.4.2. ユーザ管理メニュー画面インタフェース

ユーザ管理メニュー画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.2.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理メニュー画面を図 63に示します。

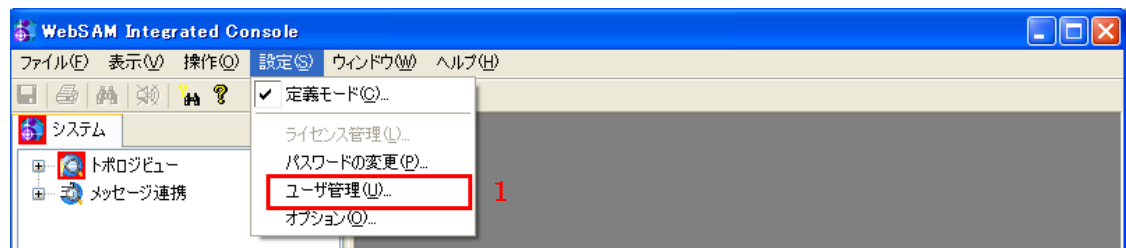


図 63 ユーザ管理メニュー画面

[入力内容]

ユーザ管理メニュー画面の入力内容を表 62に示します。

表 62 オプション設定メニュー画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ユーザ管理	なし	メニュー項目を選択する事により、ユーザ管理ダイアログボックスを表示します。

[処理結果]

ユーザ管理ダイアログボックスを表示します。

3.4.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、ユーザ管理権限を持つ利用者のみにユーザ管理メニュー画面インタフェースを

提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.4.3. ユーザ追加画面インタフェース

ユーザ追加画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.3.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理ユーザタブ画面を図 64に示します。

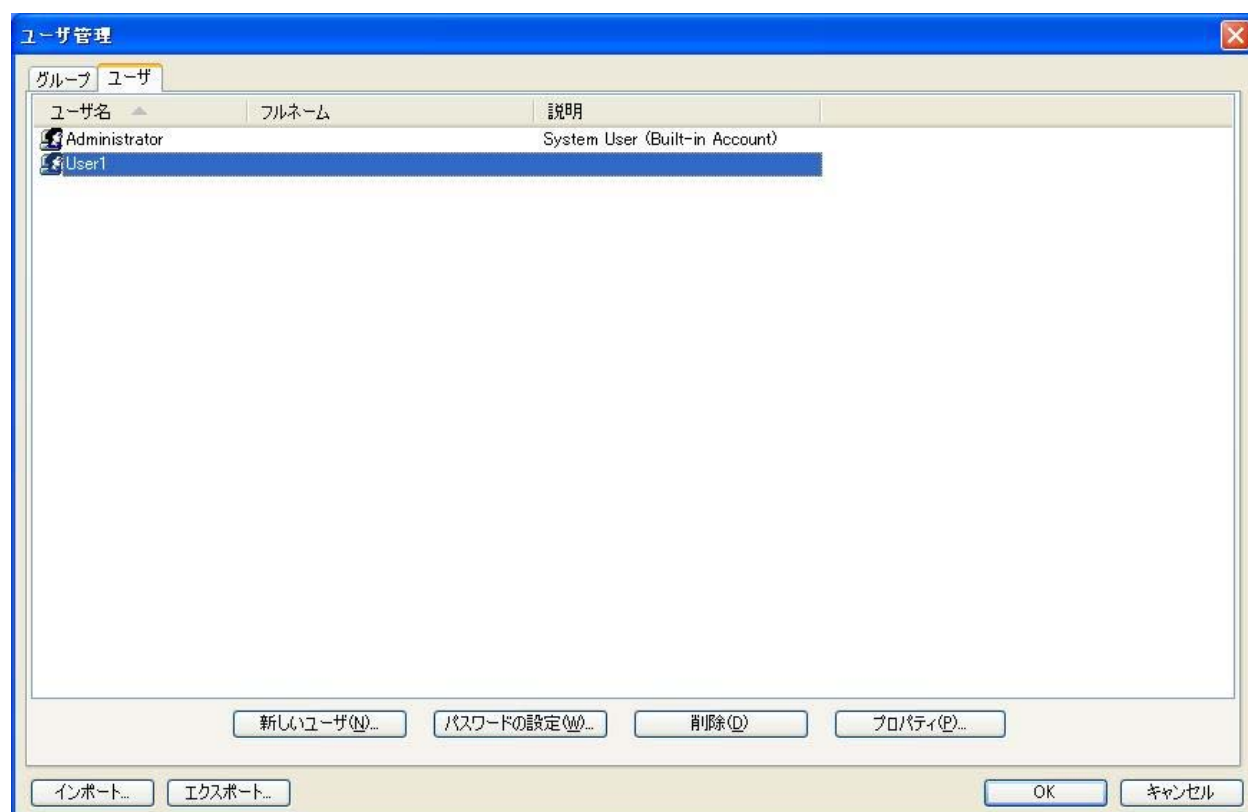


図 64 ユーザ管理ユーザタブ画面

新しいユーザボタンを押下すると、図 65が表示されます。

図 65 新しいユーザ画面

ユーザ情報管理者は、[認証方式]、[ユーザ名]、[フルネーム]、[説明]を入力し、作成ボタンを押下します。

作成ボタンを押下した場合は、図 66が表示されます。

図 66 パスワードの設定画面

[パスワード]、[パスワードの確認入力]を入力し、OK ボタンを押下します。

OK ボタンを押下した場合は、ユーザが追加されます。

[入力内容]

新しいユーザ画面の入力内容を表 63に示します。

表 63 新しいユーザ画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	認証方式	テキスト認証サービス(変更できません)	ログイン時に使用する認証方式
2	ユーザ名	1 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、下記の場合を除く [/¥[]:; =, + * ? < >]の文字がある 先頭または末尾に半角・全角スペースがある 半角・全角スペースのみ [.]のみ	ログイン時に使用するログイン名
3	フルネーム	256 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	ユーザの氏名
4	説明	256 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	ユーザの特記事項

パスワードの設定画面の入力内容を表 64に示します。

表 64 パスワードの設定画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	パスワード	6 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	ログイン時に使用するパスワード
2	パスワード の確認入力	6 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	パスワード入力ミス防止のための再入力パスワード

[入力結果]

ユーザ追加に成功した場合は、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。

ユーザ名に[/¥[]:;|=, + * ? < >]の文字が入力された場合は、図 67が表示されます。

OK ボタンを押すと、新しいユーザ画面に戻ります。



図 67 ユーザ名使用禁止文字警告画面

ユーザ名の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 68が表示されます。

OK ボタンを押すと、新しいユーザ画面に戻ります。



図 68 ユーザ名スペース使用警告画面

ユーザ名が半角・全角スペースのみまたは、[.]のみが入力された場合は、図 69が表示されます。

OK ボタンを押すと、新しいユーザ画面に戻ります。

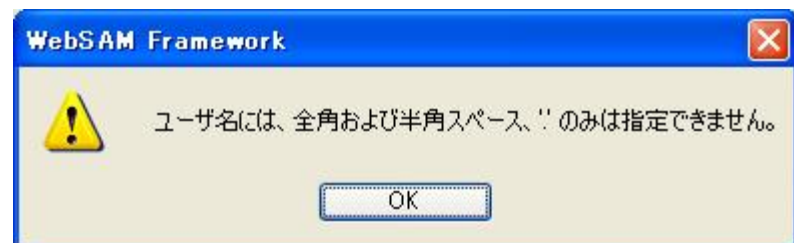


図 69 ユーザ名スペース'.'のみ警告画面

ユーザ名に既存のユーザ名が入力された場合は、図 70が表示されます。

OK ボタンを押すと、新しいユーザ画面に戻ります。



図 70 ユーザ名重複警告画面

フルネームの先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 71が表示されます。
OK ボタンを押すと、新しいユーザ画面に戻ります。



図 71 フルネームスペース使用警告画面

説明の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 72が表示されます。
OK ボタンを押すと、新しいユーザ画面に戻ります。



図 72 説明スペース使用警告画面

パスワードの先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 73が表示されます。
OK ボタンを押すと、パスワードの設定画面に戻ります。

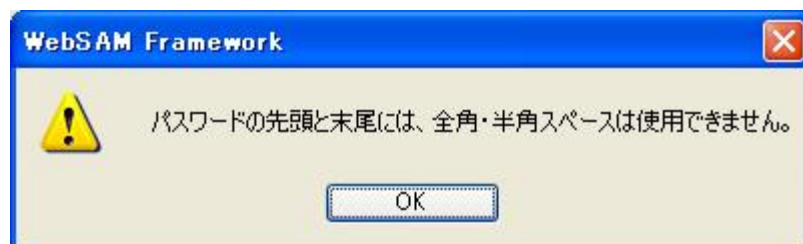


図 73 パスワードスペース使用警告画面

パスワードの確認入力の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 74が表示されます。
OK ボタンを押すと、パスワードの設定画面に戻ります。



図 74 パスワード確認入力スペース使用警告画面

パスワードとパスワードの確認入力不一致の場合は、図 75が表示されます。
OK ボタンを押すと、パスワードの設定画面に戻ります。



図 75 パスワード不一致警告画面

ユーザ追加に失敗した場合は、図 76が表示されます。
OK ボタンを押すと、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。



図 76 エラー画面

3.4.3.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。
ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるユーザ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、ユーザを追加します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

ユーザの追加に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「ユーザ名には、以下の文字は使用できません。 / ¥ [] ; | = , + * ? < >」

「ユーザ名の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「ユーザ名には、全角および半角スペース、'!' のみは指定できません。」

「XXX(ユーザ名)は既に登録されています。」

「フルネームの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「説明の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「パスワードの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」
「パスワード確認入力 of 先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」
「確認のパスワードが間違っていました。パスワードと確認入力が一一致するようにしてください。」
「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.4. ユーザ削除画面インタフェース

ユーザ削除画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.4.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理ユーザタブ画面を図 77に示します。

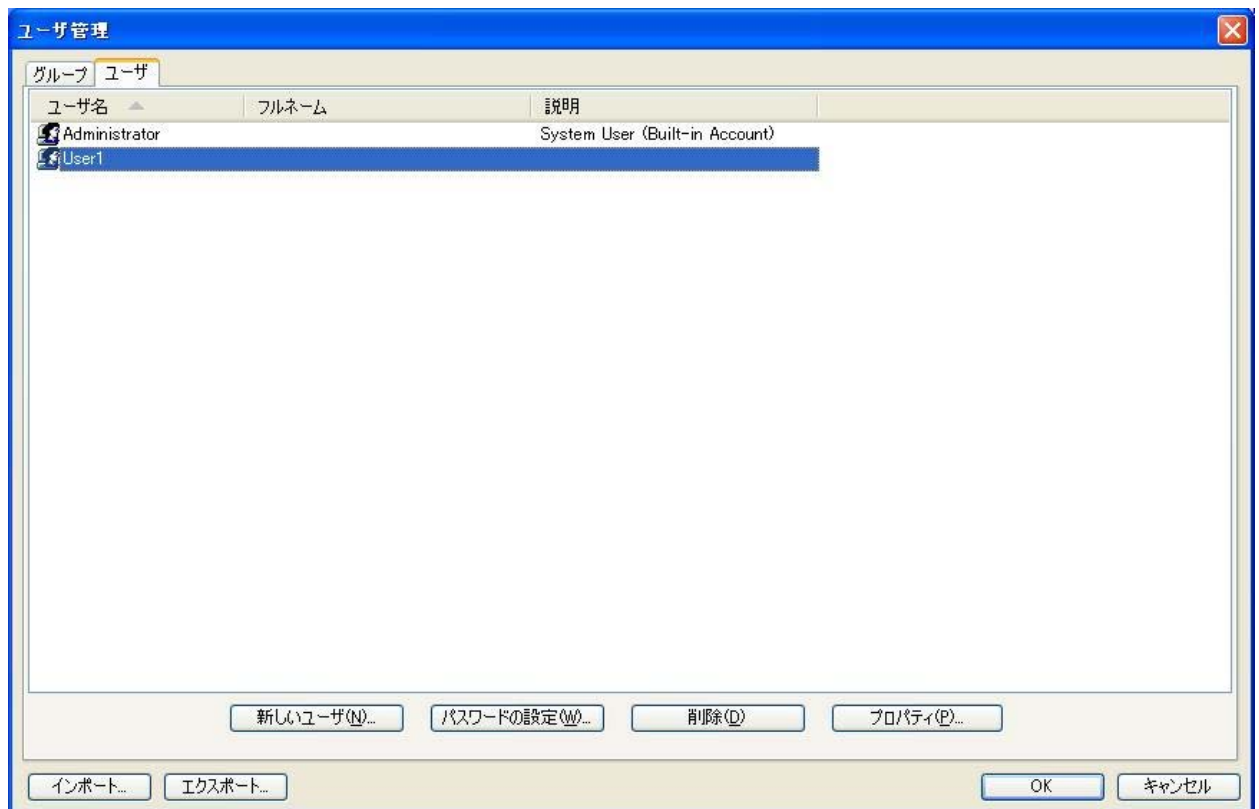


図 77 ユーザ管理ユーザタブ画面

ユーザ情報管理者が、削除する[ユーザ]を選択し、削除ボタンを押下すると、図 78が表示されます。



図 78 ユーザ削除画面

はいボタンを押下した場合、[ユーザ]を削除します。

[入力内容]

ユーザ削除画面の入力内容を表 65に示します。

表 65 ユーザ削除画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ユーザ	既存のユーザから選択する	削除を実施するユーザ

[入力結果]

ユーザの削除に成功した場合は、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。

ログイン中のユーザを選択した場合は、図 79が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。



図 79 ログインユーザ削除エラー画面

ユーザの削除に失敗した場合は、図 80が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。



図 80 ユーザ情報更新エラー画面

3.4.4.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるユーザ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、選択したユーザを削除します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

ユーザ情報の削除に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「XXX(ユーザ名)は現在ログイン中であるため、削除することはできません。」

「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.5. ユーザ情報変更画面インタフェース

ユーザ情報変更画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.5.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理ユーザタブ画面を図 81に示します。

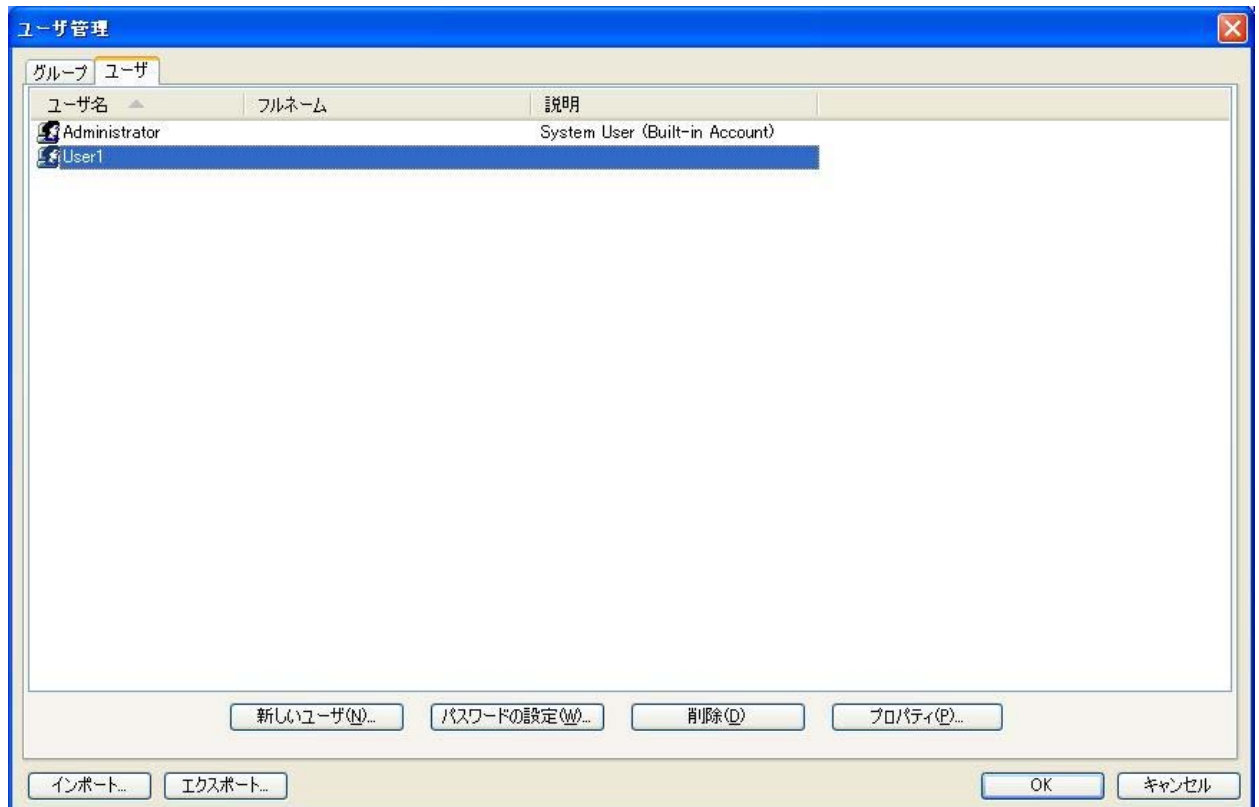


図 81 ユーザ管理ユーザタブ画面

ユーザ情報管理者は、ユーザ情報を変更する[ユーザ]を選択し、プロパティボタンを押下すると、図 82が表示されます。

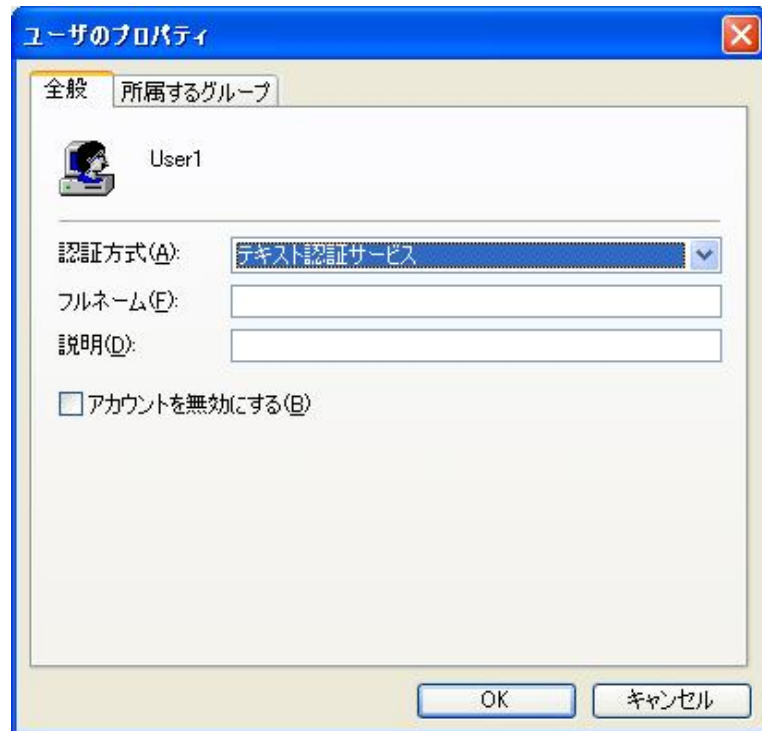


図 82 ユーザのプロパティ全般タブ画面

[認証方式]、[フルネーム]、[説明]、[アカウントを無効にする]を入力し、OK ボタンを押下します。
OK ボタンを押下した場合は、[ユーザ]の[認証方式]、[フルネーム]、[説明]、[アカウントを無効にする]が変更されます。

所属するグループタブを選択すると、図 83が表示されます。

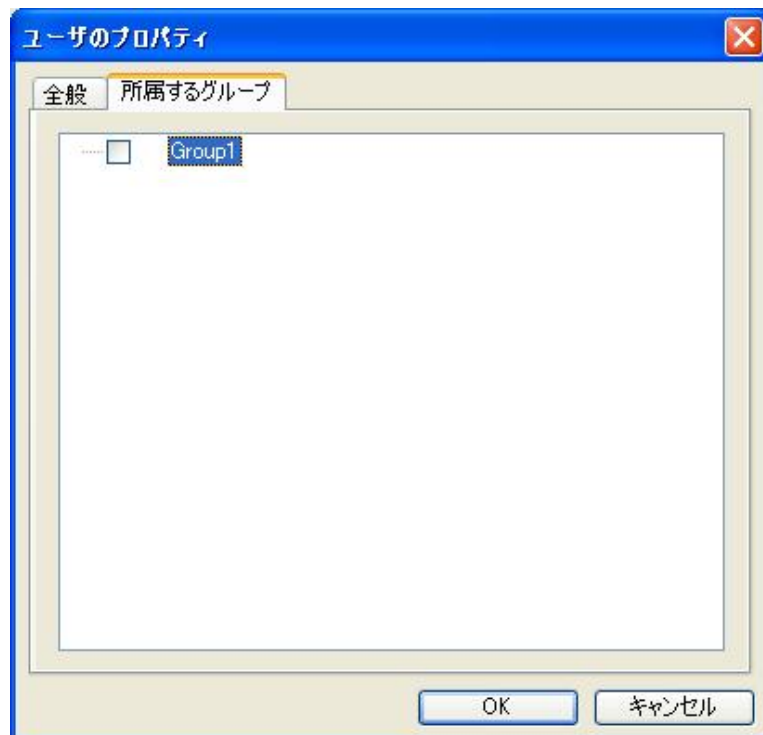


図 83 ユーザのプロパティ所属するグループタブ画面

所属させる[グループ]を選択し、OK ボタンを押下します。

OK ボタンを押下した場合は、[ユーザ]の[ユーザ名]、[パスワード]を除くユーザ情報が変更されます。

[入力内容]

ユーザのプロパティ全般画面の入力内容を表 66に示します。

表 66 ユーザのプロパティ全般画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ユーザ	既存のユーザから選択する	ユーザ情報の変更を実施するユーザ
2	認証方式	テキスト認証サービス(変更できません)	ログイン時に使用する認証方式
3	フルネーム	256 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	ユーザの氏名
4	説明	256 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	ユーザの特記事項
5	アカウントを無効にする	オフ、オン	ユーザの有効・無効状態 オフ:ユーザの有効 オン:ユーザの無効

ユーザのプロパティ所属グループ画面の入力内容を表 67に示します。

表 67 ユーザのプロパティ所属グループ画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ	オフ、オン 既存のグループから選択する 複数指定可能	ユーザが所属するグループ オフ:グループ未所属 オン:グループ所属

[入力結果]

ユーザの情報の変更に成功した場合は、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。

フルネームの先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 84が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ユーザのプロパティ全般タブ画面に戻ります。



図 84 フルネームスペース使用警告画面

説明の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 85が表示されます。
OK ボタンを押下すると、ユーザのプロパティ全般タブ画面に戻ります。



図 85 説明スペース使用警告画面

ユーザの情報の変更失敗の場合は、図 86が表示されます。
OK ボタンを押下すると、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。



図 86 エラー画面

3.4.5.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。
ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるユーザ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、ユーザ名、パスワードを除くユーザ情報の変更を行います。
権限情報はオーデイトログ参照権限を除いて、即時に変更が反映されます。オーデイトログ参照権限は、再度ログインを行った場合に変更が反映されます。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

ユーザ情報の変更失敗の場合は、以下のメッセージが返却されます。
「フルネームの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」
「説明の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」
「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.6. グループ追加画面インタフェース

グループ追加画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.6.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理グループタブ画面を図 87に示します。

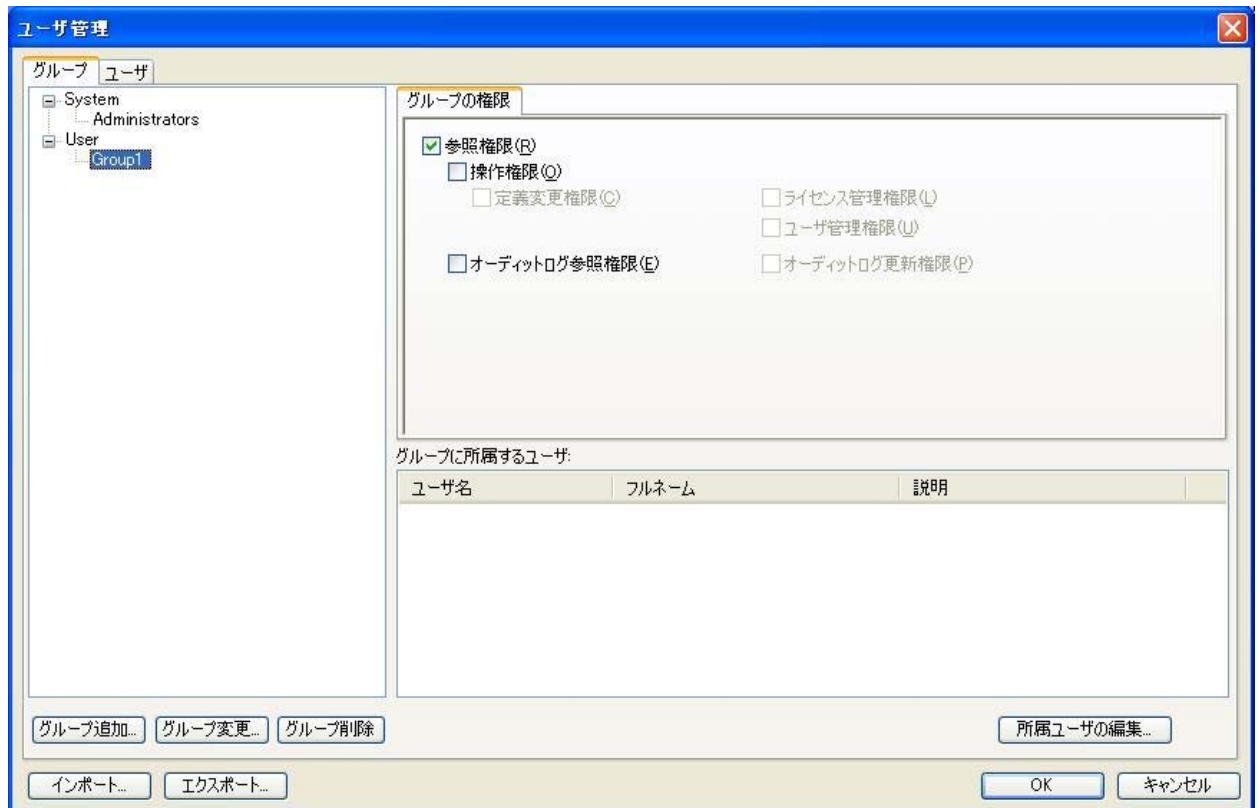


図 87 ユーザ管理グループタブ画面

ユーザ情報管理者は、親となる[グループ]を選択し、グループ追加ボタンを押下すると、図 88が表示されます。

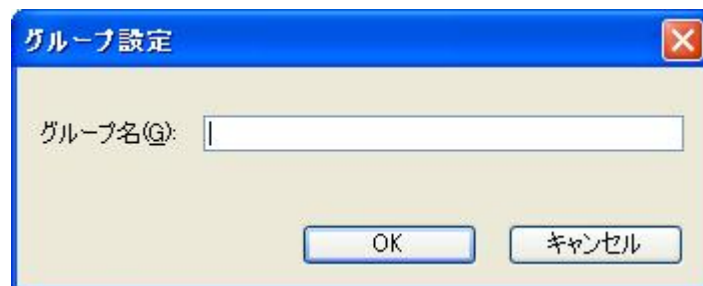


図 88 グループ追加画面

[グループ名]を入力し、OK ボタンを押下します。

OK ボタンを押下した場合は、[グループ]配下に入力した[グループ名]のグループが追加されます。

[入力内容]

グループ追加画面の入力内容を表 68に示します。

表 68 グループ追加画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ	既存のグループから選択する	追加を実施するグループの親となるグループ
2	グループ名	1文字以上 64文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または、末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	追加を実施するグループ名

[入力結果]

グループ追加に成功した場合は、グループが追加されユーザ管理グループタブ画面に遷移します。

グループ名が入力されていない場合は、図 89が表示されます。

OK ボタンを押下すると、グループ追加画面に戻ります。

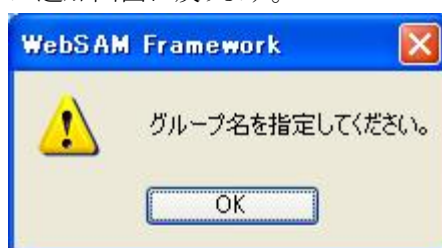


図 89 グループ名空欄警告画面

既存のグループ名が入力されている場合は、図 90が表示されます。

OK ボタンを押下すると、グループ追加画面に戻ります。



図 90 グループ名重複警告画面

グループ名の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 91が表示されます。

OK ボタンを押下すると、グループ追加画面に戻ります。



図 91 グループ名スペース使用警告画面

グループ追加に失敗した場合は、図 92が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。



図 92 エラー画面

3.4.6.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるグループ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、選択したグループ配下に、入力されたグループ名のグループを追加します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

グループの追加に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「グループ名の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「[グループ名]は既に登録されています。」

「グループ名を指定してください。」

「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.7. グループ削除画面インタフェース

グループ削除画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.7.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理グループタブ画面を図 93に示します。

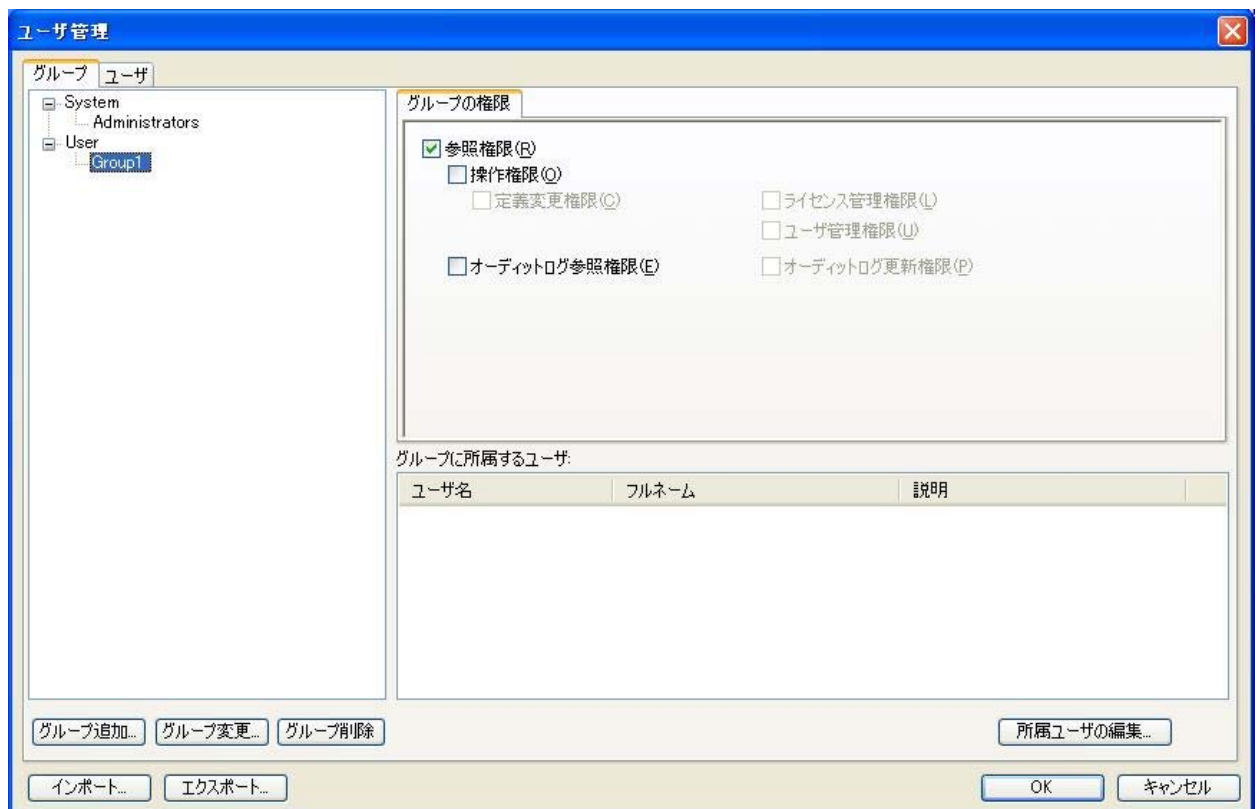


図 93 ユーザ管理グループタブ画面

ユーザ情報管理者が、削除する[グループ]を選択し、グループ削除ボタンを押下すると図 94が表示されます。



図 94 グループ削除画面

はいボタンを押下した場合は、[グループ]と[グループ]配下のグループが全て削除されます。

[入力内容]

グループ削除画面の入力内容を表 69に示します。

表 69 グループ変更画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ	既存のグループから選択する	削除を実施するグループ

[入力結果]

グループ削除に成功した場合は、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。

グループ削除に失敗した場合は、図 95が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。



図 95 エラー画面

3.4.7.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるグループ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、選択したグループ、選択したグループ配下のグループ全てを削除します。

削除したグループに所属しているユーザの権限変更が行われる場合、権限情報はオーディットログ参照権限を除いて、即時に変更が反映されます。オーディットログ参照権限は、再度ログインを行った場合に変更が反映されます。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

グループの削除に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.8. グループ情報変更画面インタフェース

グループ情報変更画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.8.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理グループタブ画面を図 96に示します。

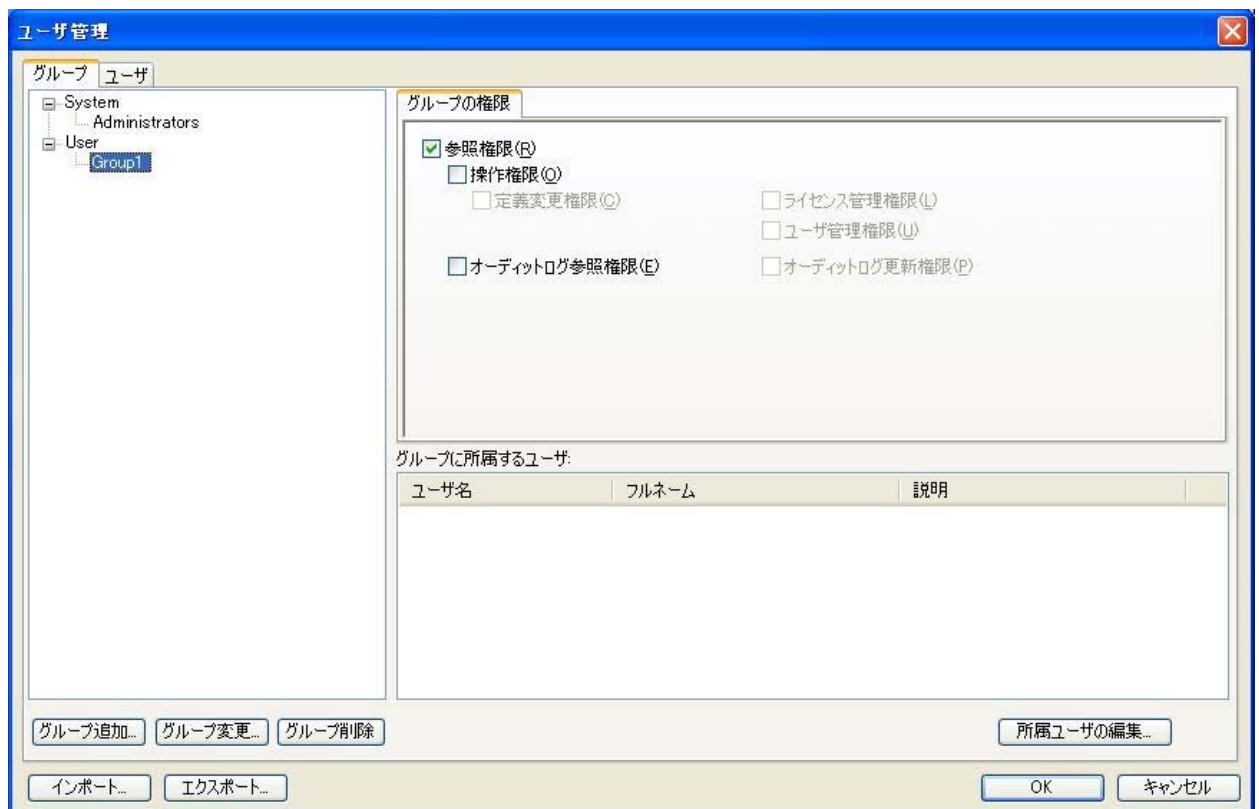


図 96 ユーザ管理グループタブ画面

ユーザ情報管理者が、グループ情報を変更する[グループ]を選択し、グループ変更ボタンを押下すると、図 97が表示されます。

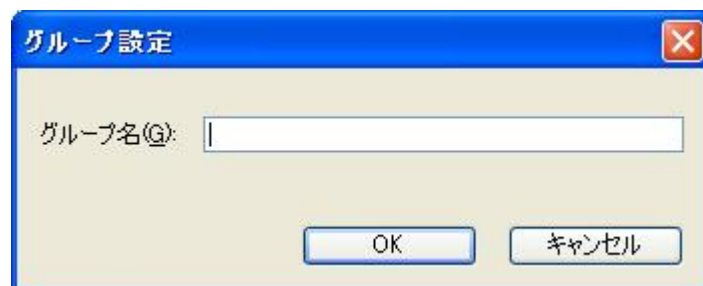


図 97 グループ情報変更画面

[グループ名]を入力し、OK ボタンを押下します。

OK ボタンを押下した場合は、[グループ]のグループ名を変更します。

[入力内容]

グループ情報変更画面の入力内容を表 70に示します。

表 70 グループ情報変更画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ	既存のグループから選択する	グループ名の変更を実施するグループ
2	グループ名	1 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または、末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	変更を実施するグループ名。

[入力結果]

グループ情報の変更に成功した場合は、選択したグループのグループ名が変更され、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。

グループ名が入力されていない場合は、図 98が表示されます。

OK ボタンを押下した場合は、グループ情報変更画面に戻ります。



図 98 グループ名空欄警告画面

既存のグループ名が入力されている場合は、図 99が表示されます。

OK ボタンを押下した場合は、グループ情報変更画面に戻ります。



図 99 グループ名重複警告画面

グループ名の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 100が表示されます。

OK ボタンを押下した場合は、グループ情報変更画面に戻ります。



図 100 グループ名スペース使用警告画面

グループ情報の変更に失敗した場合は、図 101が表示されます。

OK ボタンを押下した場合は、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。



図 101 エラー画面

3.4.8.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるグループ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、選択したグループのグループ名を変更します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

グループの変更に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「グループ名の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「[グループ名]は既に登録されています。」

「グループ名を指定してください。」

「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.9. 権限情報変更画面インタフェース

権限情報変更画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.9.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

権限情報変更画面を図 102に示します。

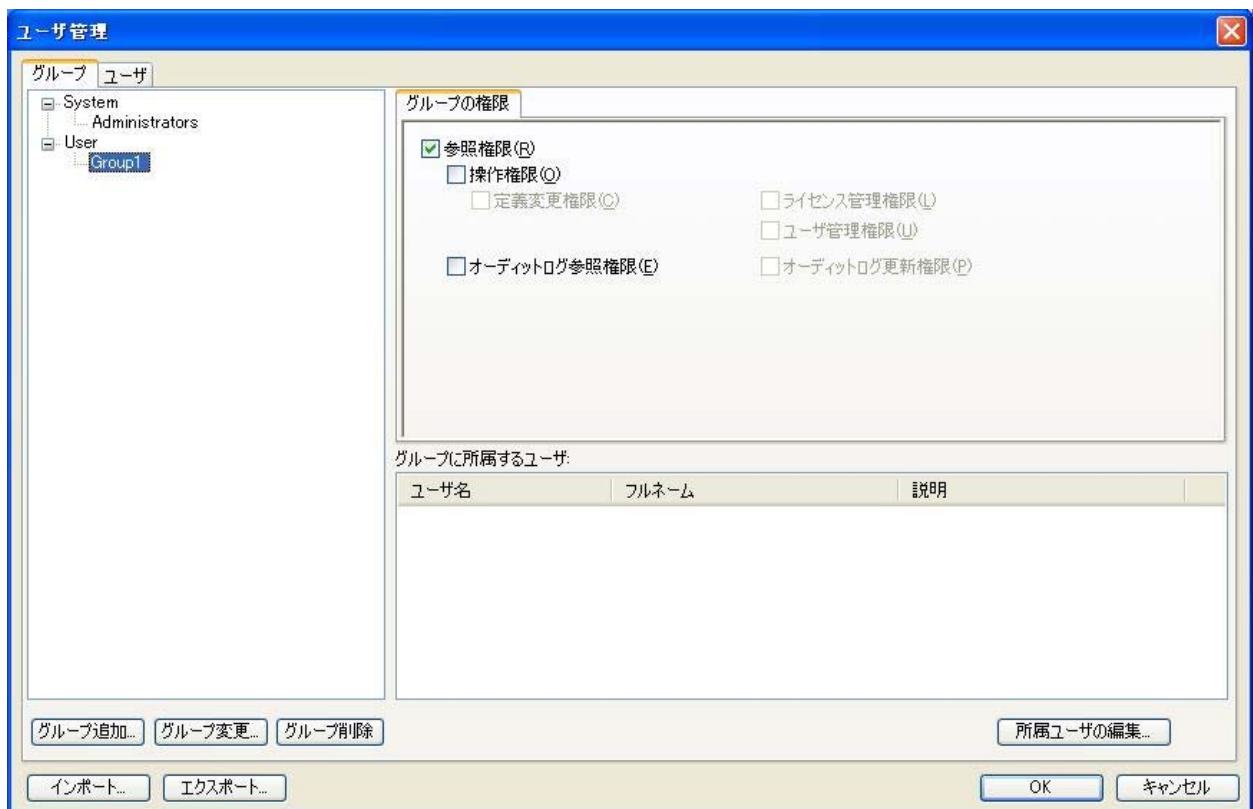


図 102 権限情報変更画面

ユーザ情報管理者は、権限情報を変更するグループを選択し、権限情報にチェックを入れ、OK ボタン押下、ユーザタブ押下、インポートボタン押下、または、他のグループを選択した際に、権限情報変更確認画面が表示されます。

権限情報変更確認画面を図 103に示します。



図 103 権限情報変更確認画面

ユーザ情報管理者は、権限情報の変更を実施する場合は、はいボタンを押して、[グループ]の権限情報を更新します。変更を実施せずに画面を切り替えるには、いいえボタンを押します。変更中の画面に戻るには、キャンセルボタンを押します。

設定可能な権限情報は、現在有効になっている権限によって異なります。

図 104の上位の権限が有効でない場合は、下位の権限は設定できません。

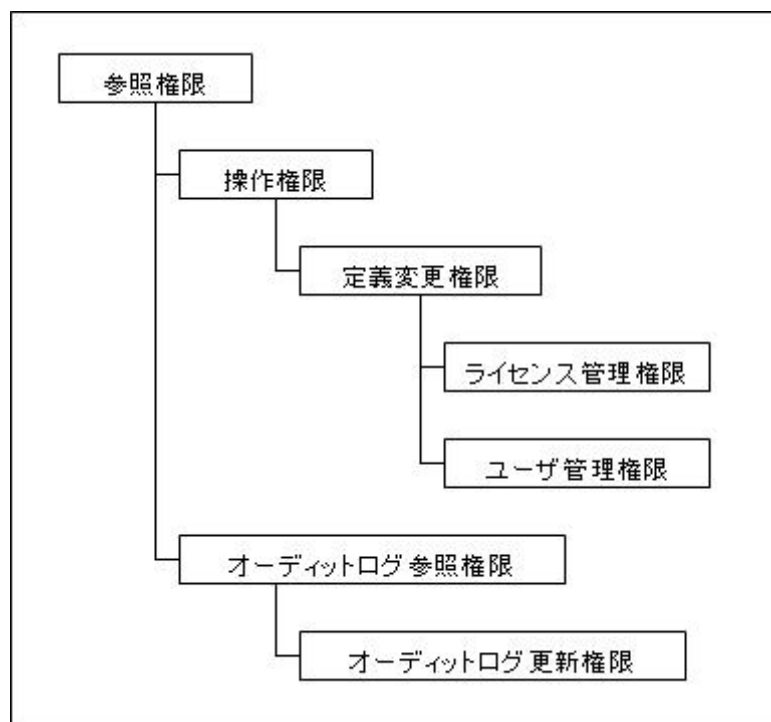


図 104 権限情報関連図

例) 「定義変更権限」を設定するためには、「参照権限」と「操作権限」を設定しておく必要があります。

[入力内容]

権限情報変更画面の入力内容を表 71に示します。

表 71 権限情報変更画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ	既存のグループから選択する	権限情報の変更を実施するグループ
2	参照権限	オン	変更を実施する参照権限 オン:有効
3	操作権限	オフ、オン	変更を実施する操作権限 オフ:無効 オン:有効
4	定義変更権限	オフ、オン	変更を実施する定義変更権限 オフ:無効 オン:有効
5	ライセンス管理権限	オフ、オン	変更を実施するライセンス管理権限 オフ:無効 オン:有効
6	ユーザ管理権限	オフ、オン	変更を実施するユーザ管理権限 0 オフ:無効 オン:有効
7	オーディットログ参照権限	オフ、オン	変更を実施するオーディットログ参照権限 オフ:無効 オン:有効
8	オーディットログ更新権限	オフ、オン	変更を実施するオーディットログ更新権限 オフ:無効 オン:有効

利用者役割と権限の対応関係を表 72に示します。

表 72 権限と役割の対応関係

利用者 役割 権限情報	管理者						オペレータ	
	者 ビルトイン管理	者 ライセンス管理	グ オーデイトロ グ参照管理者	グ オーデイトロ グ更新管理者	理者 ユーザ情報管	者 定義情報管理	操作オペレータ	参照オペレータ
参照権限	○	○	○	○	○	○	○	○
操作権限	○	○		○	○	○	○	
定義変更権限	○	○		○	○	○		
ユーザ管理権限	○				○			
ライセンス管理権限	○	○						
オーデイトログ参照権限	○		○	○				
オーデイトログ更新権限	○			○				

[入力結果]

OK ボタンを押下し、権限の変更に成功した場合は、監視画面に遷移します。

他のグループを選択し、権限の変更に成功した場合は、権限情報変更画面が表示されます。

権限の変更に失敗した場合は、図 105が表示されます。

OK ボタンを押下した場合は、権限情報変更画面に戻ります。



図 105 エラー画面

3.4.9.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性である権限情報の管理を行います。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、指定したグループの権限情報を、入力された権限情報に変更します。

権限情報はオーデイトログ参照権限を除いて、即時に変更が反映されます。オーデイトログ参照権限は、再度ログインを行った場合に変更が反映されます。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

指定したグループの権限情報の変更失敗の場合は、以下のメッセージが返却されます。

「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.10. グループ所属ユーザ変更画面インタフェース

グループ所属ユーザ変更画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.10.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理グループタブ画面を図 106に示します。

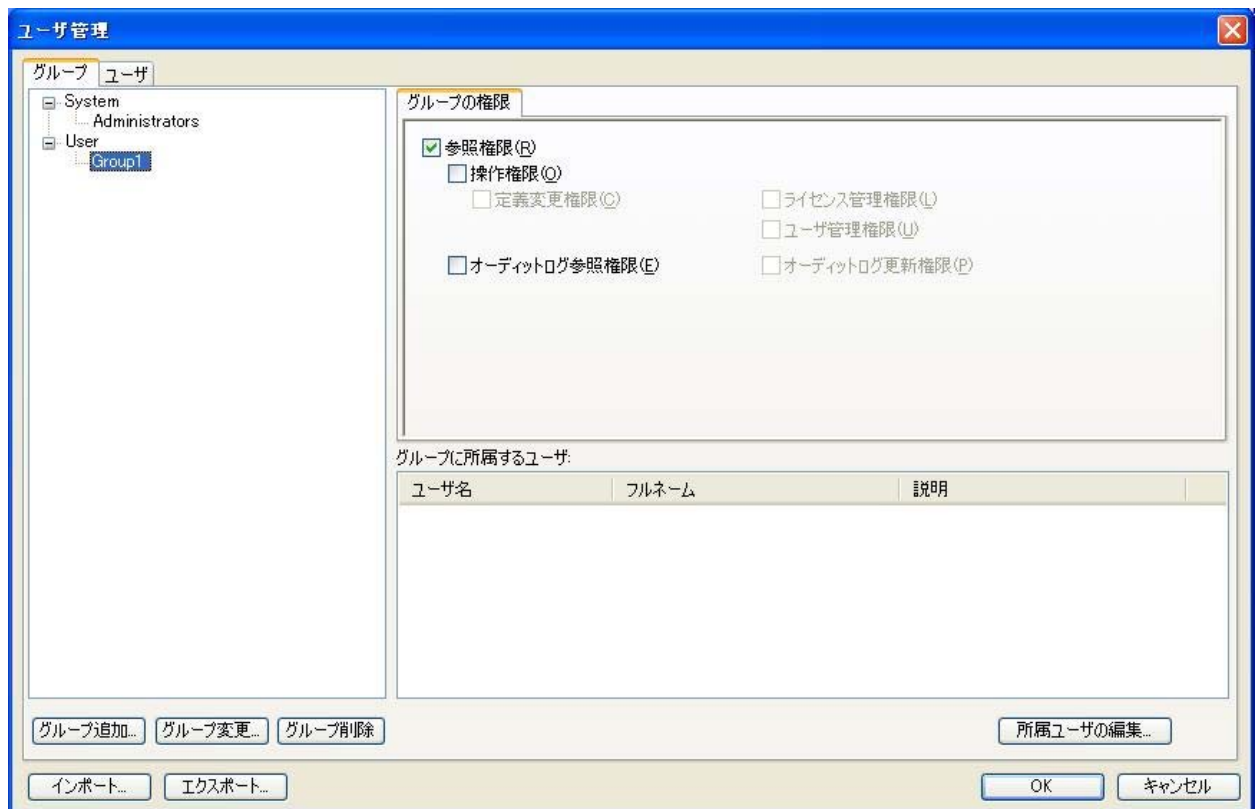


図 106 ユーザ管理グループタブ画面

ユーザ情報管理者が、所属ユーザを変更する[グループ]を選択し、所属ユーザの編集ボタンを押下すると、図 107が表示されます。

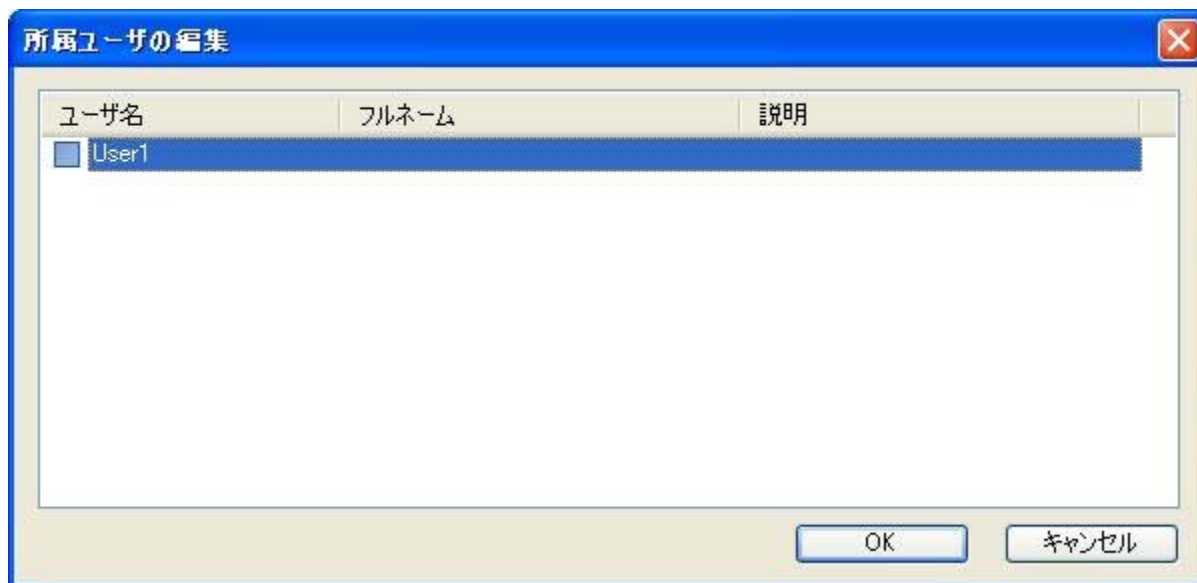


図 107 グループ所属ユーザ変更画面

所属させたい[ユーザ]にチェックを入れ、OK ボタンを押下します。
OK ボタンを押下した場合は、[グループ]にチェックを入れた[ユーザ]が所属します。

[入力内容]

グループ所属ユーザ変更画面の入力内容を表 73に示します。

表 73 グループ所属ユーザ変更画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	グループ	既存のグループから選択する	所属ユーザの変更を実施するグループ
2	ユーザ	オフ、オン 既存のユーザから選択する 複数選択可能	選択したグループに所属させるユーザ オフ: ユーザ未所属 オン: ユーザ所属

[入力結果]

グループにユーザを所属させることに成功した場合は、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。
グループにユーザを所属させることに失敗した場合は、図 108が表示されます。
OK ボタンを押下すると、ユーザ管理グループタブ画面に遷移します。



図 108 エラー画面

3.4.10.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。
ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるグループ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、選択したグループに所属するユーザを変更します。
権限情報はオーデイトログ参照権限を除いて、即時に変更が反映されます。オーデイトログ参照権限は、再度ログインを行った場合に変更が反映されます。。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

グループに所属するユーザの変更に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。
「ユーザ情報の更新に失敗しました。」

3.4.11. ユーザパスワード変更画面インタフェース

ユーザパスワード変更画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.4.11.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ユーザ管理ユーザタブ画面を図 109に示します。

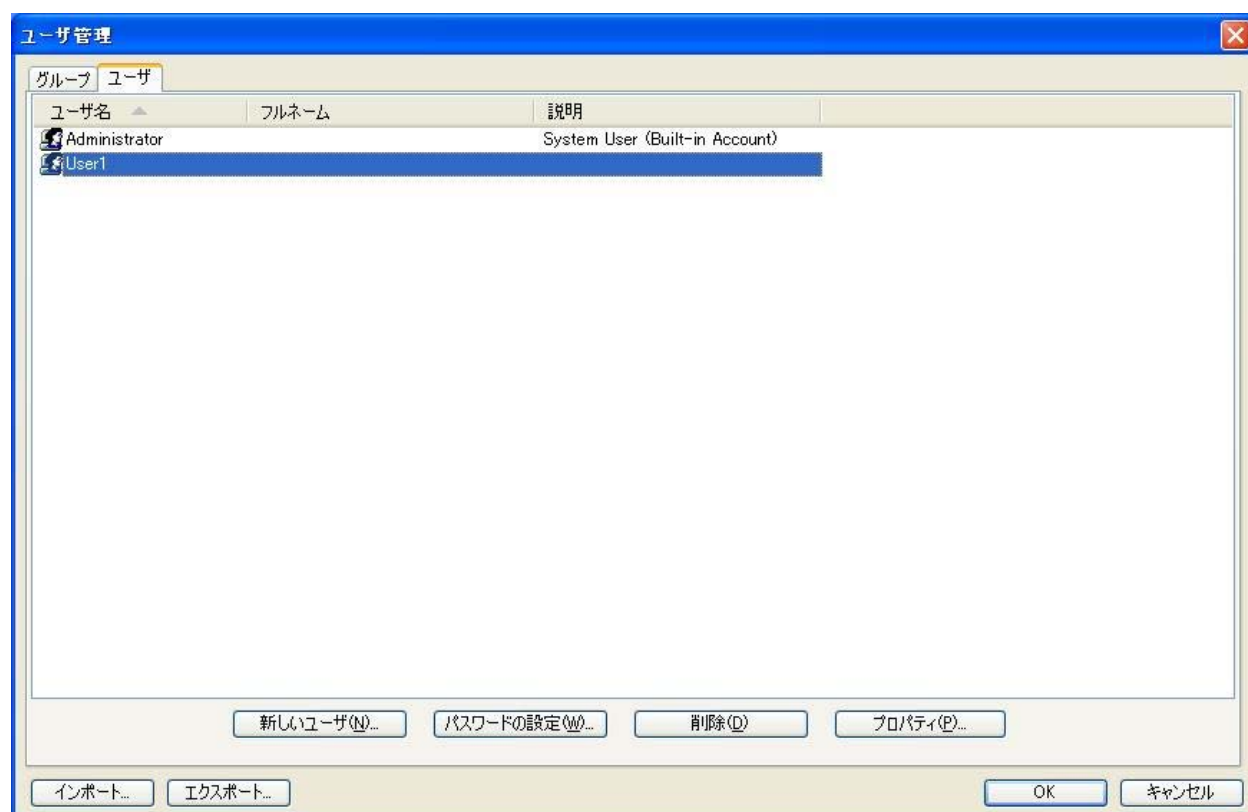


図 109 ユーザ管理ユーザタブ画面

ユーザ情報管理者が、パスワードを変更する[ユーザ]を選択し、パスワードの設定ボタンを押下すると、図 110が表示されます。

図 110 パスワード設定画面

[パスワード]、[パスワードの確認入力]を入力し、OK ボタンを押下します。
OK ボタンを押下した場合は、[ユーザ]のパスワードを変更します。

[入力内容]

ユーザパスワード変更画面の入力内容を表 74に示します。

表 74 ユーザパスワード変更画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ユーザ	既存のユーザから選択する	パスワードの変更を実施するユーザ
2	パスワード	6 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	変更を実施するパスワード
3	パスワード の確認入力	6 文字以上 64 文字以下の半角・全角文字 ただし、先頭または末尾に半角・全角スペースがある場合を除く	パスワード変更入力ミス防止のための再入力パスワード

[入力結果]

ユーザのパスワード変更成功した場合は、図 111が表示され、OKボタンを押下するとユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。

図 111 パスワード変更結果画面

パスワードの先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 112が表示されます。
OK ボタンを押下すると、パスワード設定画面に戻ります。

図 112 パスワードスペース使用警告画面

パスワードの確認入力の先頭または末尾に半角・全角スペースが入力された場合は、図 113が表示されます。

OK ボタンを押下すると、パスワード設定画面に戻ります。



図 113 パスワード確認入力スペース使用警告画面

パスワードとパスワードの確認入力不一致の場合は、図 114が表示されます。

OK ボタンを押下すると、パスワード設定画面に戻ります。

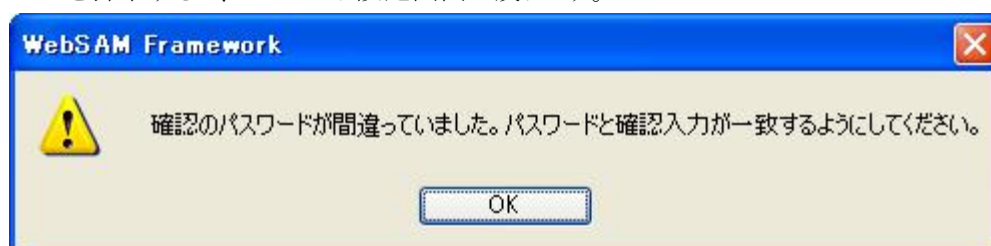


図 114 パスワード不一致警告画面

ユーザのパスワード変更に失敗した場合は、図 115が表示されます。

OK ボタンを押下すると、ユーザ管理ユーザタブ画面に遷移します。



図 115 エラー画面

3.4.11.2.セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、ユーザ情報管理機能を使用しています。

ユーザ情報管理機能は、利用者のセキュリティ属性であるユーザ情報管理をします。

[動作概要]

ユーザ情報管理機能は、選択したユーザのパスワードを入力されたパスワードに変更します。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

ユーザのパスワードの変更に成功した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「パスワードの変更に成功しました。」

ユーザのパスワードの変更に失敗した場合は、以下のメッセージが返却されます。

「パスワードの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「パスワード確認入力の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。」

「確認のパスワードが間違っていました。パスワードと確認入力的一致するようにしてください。」

「パスワードの変更に失敗しました。」

3.5. オーディットログ参照管理者の操作

3.5.1. インタフェース一覧

オーディットログ参照管理者が使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 75の通りとなります。

表 75 オーディットログ参照管理者使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
オーディットログ参照画面	オーディットログを参照する画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、オーディットログ参照管理者は使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.5.2. オーディットログ参照画面インタフェース

オーディットログ参照画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

3.5.2.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

オーディットログ参照画面を図 116に示します。

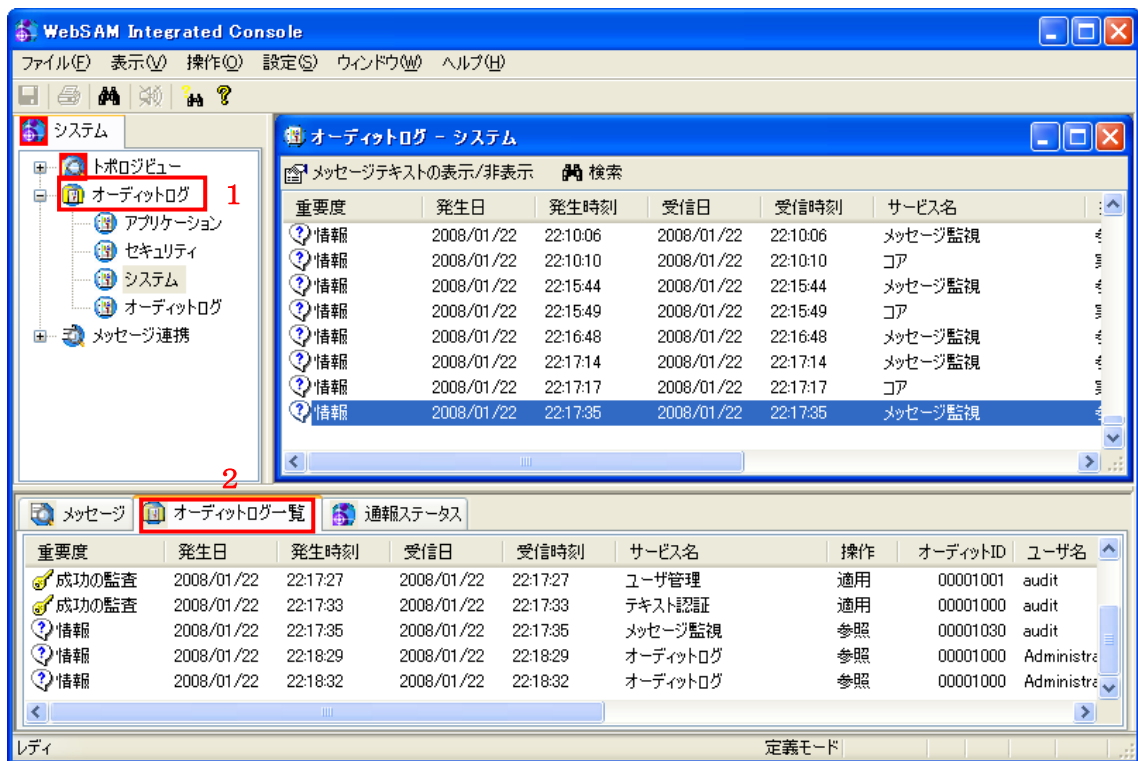


図 116 オーディットログ参照画面

[入力内容]

オーディットログ参照画面の入力内容を表 76に示します。

表 76 オーディットログ参照画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	オーディットログ	なし	配下の子ノードをダブルクリックすることにより、それぞれに格納されたオーディットログを表示します。
2	オーディットログ一覧	なし	タブを選択することにより、監視端末が起動して以降に発生したオーディットログを表示します。

[処理結果]

オーディットログを画面上に表示します。

オーディットログ参照画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「オーディットログを参照する」「オーディットログ一覧(全カテゴリ)を参照する」ページを参照してください。

3.5.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、オーディットログ参照権限を持つ利用者のみにオーディットログ参照画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザにはツリー項目、タブ表示のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.6. オーディットログ更新管理者の操作

3.6.1. インタフェース一覧

オーディットログ更新管理者が使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 77の通りとなります。

表 77 オーディットログ更新管理者使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
履歴情報更新画面	TOE が蓄積している履歴情報を更新する画面 詳細は、3.2.2を参照
プロセス情報操作画面	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示する画面 詳細は、3.2.3を参照
Windows サービス情報操作画面	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示する画面 詳細は、3.2.4を参照
定義モード移行画面	定義モードに移行する画面 詳細は、3.3.2を参照
オプション設定メニュー画面	オプション設定を行う画面 詳細は、3.3.3を参照
マップビュー定義画面	マップビューの定義を行う画面 詳細は、3.3.4を参照
トポロジー定義画面	トポロジーの定義を行う画面 詳細は、3.3.5を参照
通報定義画面	通報の定義を行う画面 詳細は、3.3.6を参照
性能監視定義画面	性能監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.7を参照
アプリケーションログ監視定義画面	アプリケーションログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.8を参照
イベントログ監視定義画面	イベントログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.9を参照
シスログ監視定義画面	シスログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.10を参照
プロセス監視定義画面	プロセス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.11を参照
Windows サービス監視定義画面	Windows サービス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.12を参照
ファイル監視定義画面	ファイル監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.13を参照
メッセージ監視定義画面	メッセージ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.14を参照
履歴情報削除画面	履歴情報を削除する画面 詳細は、3.3.15を参照
オーディットログ参照画面	オーディットログを参照する画面 詳細は、3.5.2を参照

インタフェース名	インタフェース概要
オーディットログ定義画面	オーディットログに関する定義を行う画面
オーディットログ削除画面	オーディットログの削除を行う画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、オーディットログ更新管理者は使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.6.2. オーディットログ定義画面インタフェース

オーディットログ定義画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.6.2.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

オーディットログ定義(カテゴリノードメニュー)画面を図 117に、オーディットログ定義(カテゴリノードアイコンメニュー)画面を図 118に、オーディットログ定義(オプション設定)画面を図 119に示します。

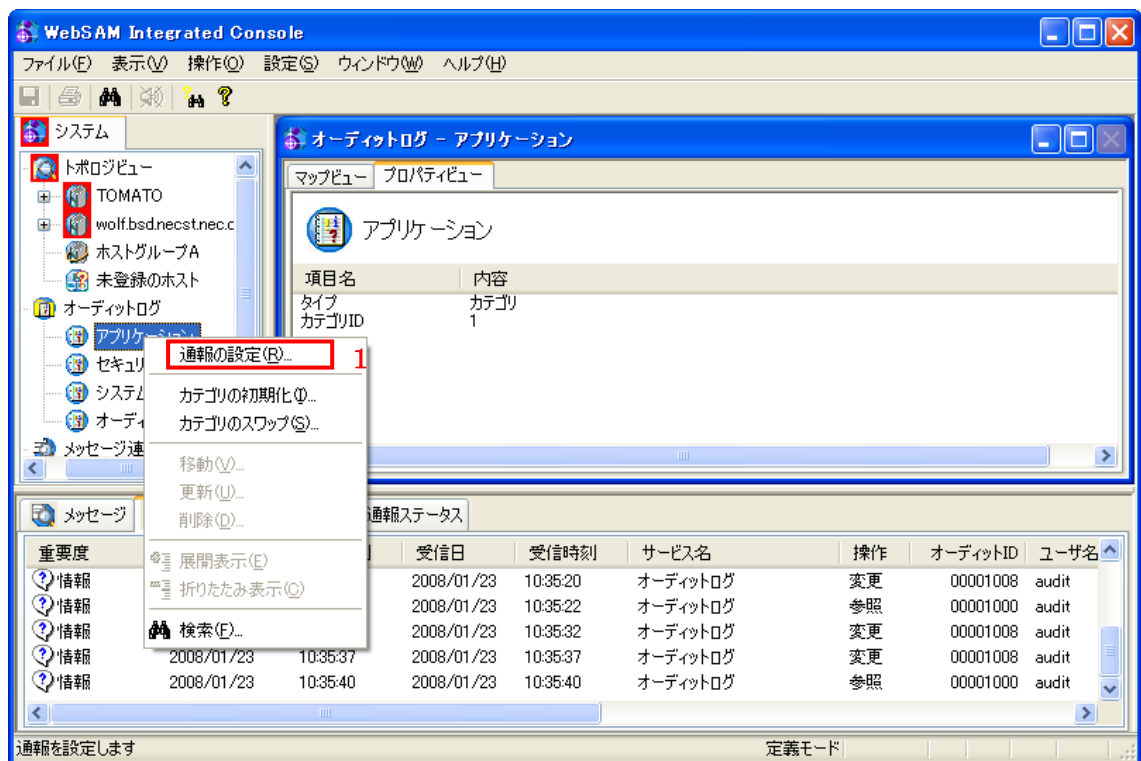


図 117 オーディットログ定義(カテゴリノードメニュー)画面

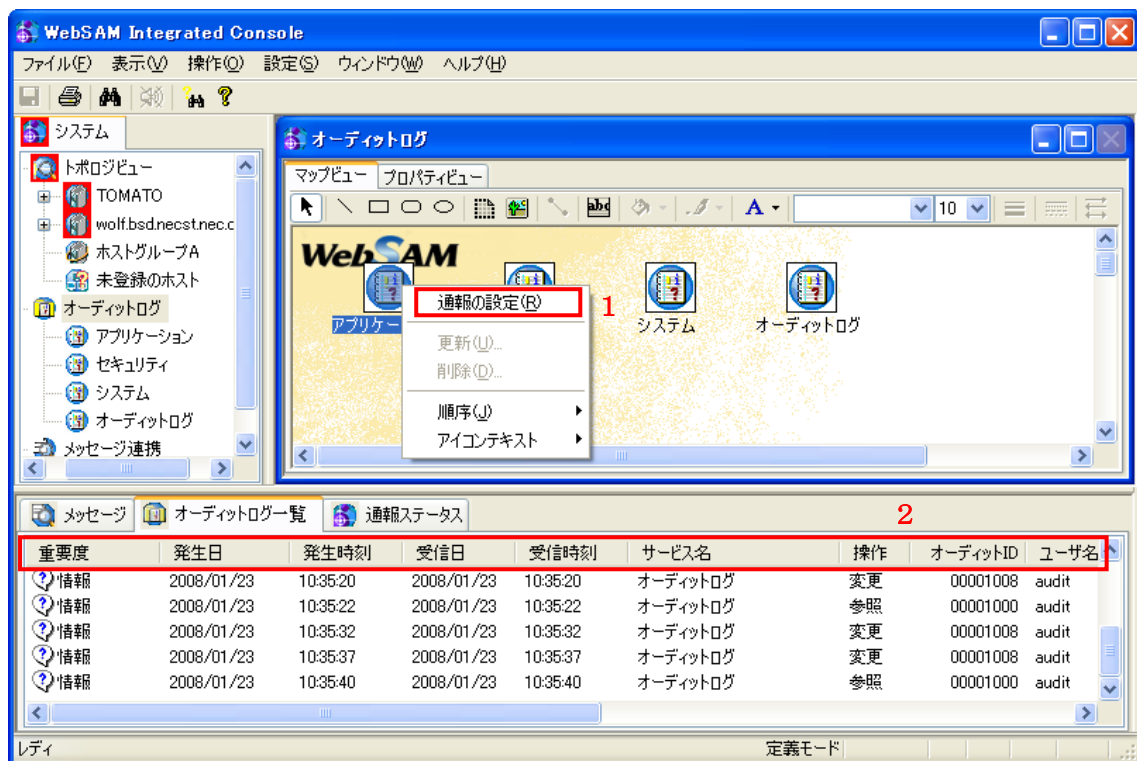


図 118 オーディットログ定義(カテゴリノードアイコンメニュー)画面

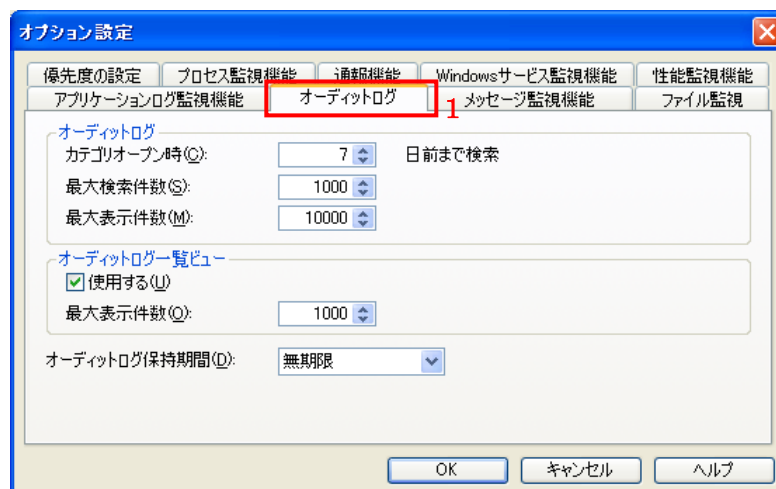


図 119 オーディットログ定義(オプション設定)画面

[入力内容]

オーディットログ定義(カテゴリノードメニュー)画面の入力内容を表 78に、オーディットログ定義(カテゴリノードアイコンメニュー)画面の入力内容を表 79に、オーディットログ定義(オプション設定)画面の入力内容を表 80に示します。

表 78 オーディットログ定義(カテゴリノードメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	通報の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、通報の設定ダイアログボックスを表示します。 通報の設定ダイアログボックスにて、オーディットログ発生時の通報に関する定義を行います。

表 79 オーディットログ定義(カテゴリノードアイコンメニュー)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	通報の設定	なし	メニュー項目を選択することにより、通報の設定ダイアログボックスを表示します。 通報の設定ダイアログボックスにて、オーディットログ発生時の通報に関する定義を行います。
2	ドラッグ & ドロップ	なし	リストのタイトル行をドラッグ & ドロップすることにより、項目の並び順を変更します。

表 80 オーディットログ定義(オプション設定)画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	オーディットログ	なし	タブを選択することにより、オーディットログに関する設定項目を表示します。

[処理結果]

オーディットログ定義情報が更新されます。

オーディットログ定義(カテゴリノードメニュー)画面、オーディットログ定義(カテゴリノードアイコンメニュー)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「通報を定義する」ページを参照してください。

オーディットログ定義(オプション設定)画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「オーディットログ管理のオプションを設定する」ページを参照してください。

3.6.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、オーディットログ更新権限と定義変更権限を併せ持つ利用者のみに、オーディットログ定義画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザにはメニュー項目、ドラッグ & ドロップ、タブ表示のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.6.3. オーディットログ削除画面インタフェース

オーディットログ削除画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。

本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.6.3.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

オーディットログ削除画面を図 120に示します。

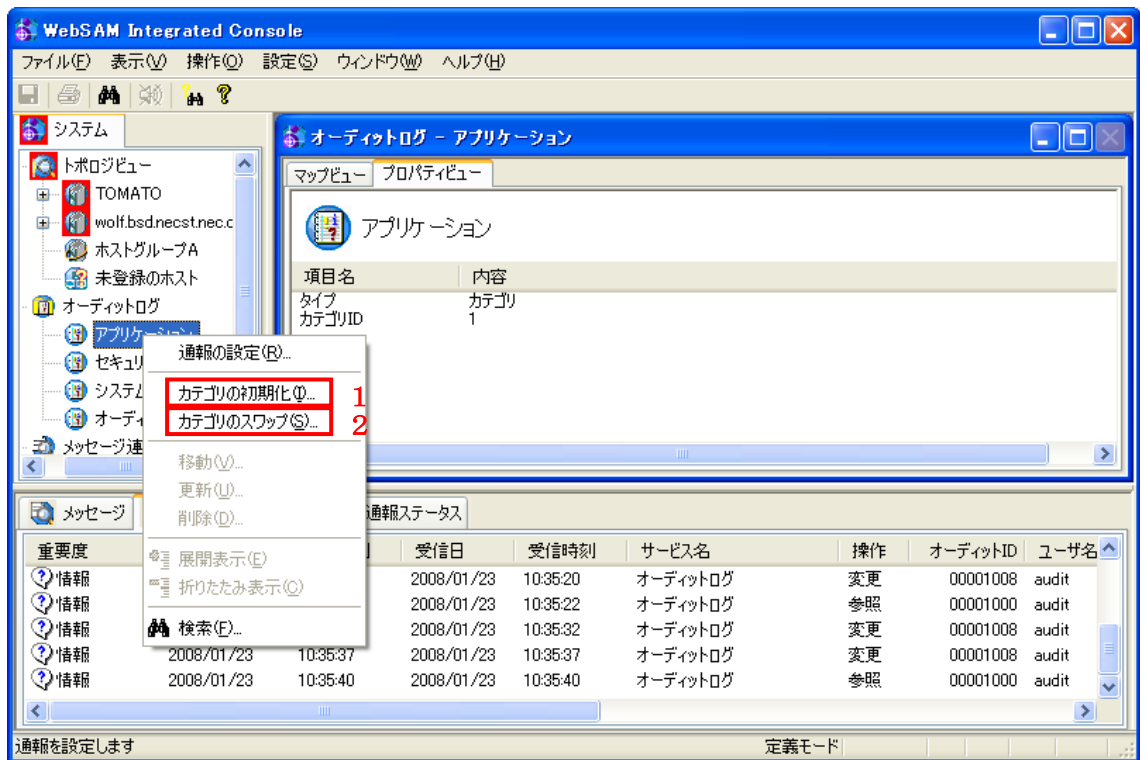


図 120 オーディットログ削除画面

[入力内容]

オーディットログ削除画面の入力内容を表 81に示します。

表 81 オーディットログ削除画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	カテゴリの初期化	なし	メニュー項目を選択することにより、全てのオーディットログを削除します。
2	カテゴリのスワップ	なし	メニュー項目を選択することにより、カテゴリのスワップダイアログボックスを表示します。 カテゴリのスワップダイアログボックスにて、指定日以前のオーディットログの削除を行います。

[処理結果]

オーディットログが削除されます。

オーディットログ削除画面の詳細な使用方法は、マニュアルの「カテゴリ内のオーディットログを削除する」ページを参照してください。

3.6.3.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、オーディットログ更新権限と定義変更権限を併せ持つ利用者のみに、オーディットログ削除画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]

なし。

3.7. ライセンス情報管理者の操作

3.7.1. インタフェース一覧

ライセンス情報管理者が使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 82の通りとなります。

表 82 ライセンス情報管理者使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
履歴情報更新画面	TOE が蓄積している履歴情報を更新する画面 詳細は、3.2.2を参照
プロセス情報操作画面	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示する画面 詳細は、3.2.3を参照
Windows サービス情報操作画面	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示する画面 詳細は、3.2.4を参照
定義モード移行画面	定義モードに移行する画面 詳細は、3.3.2を参照
オプション設定メニュー画面	オプション設定を行う画面 詳細は、3.3.3を参照
マップビュー定義画面	マップビューの定義を行う画面 詳細は、3.3.4を参照
トポロジー定義画面	トポロジーの定義を行う画面 詳細は、3.3.5を参照
通報定義画面	通報の定義を行う画面 詳細は、3.3.6を参照
性能監視定義画面	性能監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.7を参照
アプリケーションログ監視定義画面	アプリケーションログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.8を参照
イベントログ監視定義画面	イベントログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.9を参照
シスログ監視定義画面	シスログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.10を参照
プロセス監視定義画面	プロセス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.11を参照
Windows サービス監視定義画面	Windows サービス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.12を参照
ファイル監視定義画面	ファイル監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.13を参照
メッセージ監視定義画面	メッセージ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.14を参照
履歴情報削除画面	履歴情報を削除する画面 詳細は、3.3.15を参照
ライセンス管理メニュー画面	ライセンス管理メニューを起動する画面

他の利用者役割で利用可能なインタフェースのうち、上記表に記載されていないものは、ライセンス情

報管理者は使用できません。メニューやボタン等の表示が無効になります。

3.7.2. ライセンス管理メニュー画面インタフェース

ライセンス管理メニュー画面インタフェースの使用方法、セキュリティ機能の操作について説明します。
本インタフェースを利用するには、事前に定義モードに移行しておく必要があります。

3.7.2.1. インタフェース使用方法

[入力画面]

ライセンス管理メニュー画面を図 121に示します。

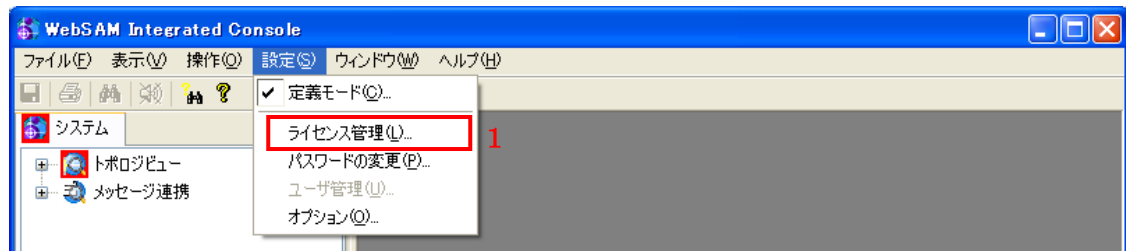


図 121 ライセンス管理メニュー画面

[入力内容]

ライセンス管理メニュー画面の入力内容を表 83に示します。

表 83 ライセンス管理メニュー画面入力内容

項番	項目名	有効範囲	内容
1	ライセンス管理	なし	メニュー項目を選択する事により、ライセンス管理ダイアログボックスを表示します。 ライセンス管理ダイアログボックスでは、TOE に関するライセンスの登録、更新、削除が行えます。

[処理結果]

ライセンスが登録、更新、削除されます。

ライセンス管理ダイアログボックスの詳細な使用方法是、マニュアルの「ライセンスを管理する」ページを参照してください。

3.7.2.2. セキュリティ機能の操作

[セキュリティ機能説明]

本インタフェースを通して、アクセス制御機能を使用しています。

アクセス制御機能は、ライセンス管理権限を持つ利用者のみにライセンス管理メニュー画面インタフェースを提供します。

[インタフェース使用目的]

本インタフェースはアクセス制御を実施します。

[動作概要]

アクセス制御機能は、利用者の保有する権限情報を参照し、必要な権限を持たないユーザには、メニュー項目のインタフェースを無効にします。

[セキュリティ機能からの応答メッセージ]
なし。

3.8. ビルトイン管理者の操作

3.8.1. インタフェース一覧

ビルトイン管理者が使用できる、TOE機能のインタフェースは、以下の表 84の通りとなります。

表 84 ビルトイン管理者使用インタフェース一覧

インタフェース名	インタフェース概要
ログイン画面	ログインを実施する画面 詳細は、3.1.2を参照
パスワード変更画面	自身のパスワードの変更を実施する画面 詳細は、3.1.3を参照
履歴情報更新画面	TOE が蓄積している履歴情報を更新する画面 詳細は、3.2.2を参照
プロセス情報操作画面	監視対象サーバ上のプロセスに起動、停止を指示する画面 詳細は、3.2.3を参照
Windows サービス情報操作画面	監視対象サーバ上の Windows サービスに開始、再開、停止、一時停止、再起動を指示する画面 詳細は、3.2.4を参照
定義モード移行画面	定義モードに移行する画面 詳細は、3.3.2を参照
オプション設定メニュー画面	オプション設定を行う画面 詳細は、3.3.3を参照
マップビュー定義画面	マップビューの定義を行う画面 詳細は、3.3.4を参照
トポロジー定義画面	トポロジーの定義を行う画面 詳細は、3.3.5を参照
通報定義画面	通報の定義を行う画面 詳細は、3.3.6を参照
性能監視定義画面	性能監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.7を参照
アプリケーションログ監視定義画面	アプリケーションログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.8を参照
イベントログ監視定義画面	イベントログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.9を参照
シスログ監視定義画面	シスログ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.10を参照
プロセス監視定義画面	プロセス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.11を参照
Windows サービス監視定義画面	Windows サービス監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.12を参照
ファイル監視定義画面	ファイル監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.13を参照
メッセージ監視定義画面	メッセージ監視の定義を行う画面 詳細は、3.3.14を参照
履歴情報削除画面	履歴情報を削除する画面 詳細は、3.3.15を参照
ユーザ管理メニュー画面	ユーザ管理メニューを起動する画面 詳細は、3.4.2を参照

インタフェース名	インタフェース概要
ユーザ追加画面	ユーザを追加する画面 詳細は、3.4.3を参照
ユーザ削除画面	ユーザを削除する画面 詳細は、3.4.4を参照
ユーザプロパティ画面	ユーザ情報を変更する画面 詳細は、3.4.5を参照
グループ追加画面	グループを追加する画面 詳細は、3.4.6を参照
グループ削除画面	グループを削除する画面 詳細は、3.4.7を参照
グループ変更画面	グループのグループ名を変更する画面 詳細は、3.4.8を参照
権限情報変更画面	権限情報を変更する画面 詳細は、3.4.9を参照
グループ所属ユーザ変更画面	グループに所属するユーザを変更する画面 詳細は、3.4.10を参照
ユーザパスワード変更画面	指定したユーザのパスワードを変更する画面 詳細は、3.4.11を参照
オーデイトログ参照画面	オーデイトログを参照する画面 詳細は、3.5.2を参照
オーデイトログ定義画面	オーデイトログに関する定義を行う画面 詳細は、3.6.2を参照
オーデイトログ削除画面	オーデイトログの削除を行う画面 詳細は、3.6.3を参照
ライセンス管理メニュー画面	ライセンス管理メニューを起動する画面 詳細は、3.7.2を参照

4. セキュリティ関連事象への対処

本章では、TOE の運用時に発生するセキュリティ関連の事象について、利用者役割毎に、その対処方法を説明します。

4.1. ユーザ管理者、ビルトイン管理者のセキュリティ関連事象の対処手順

TOEの運用時にセキュリティ関連事象が発生した場合、ユーザ管理者、ビルトイン管理者が行う対処手順は、以下の表 85の通りとなります。

表 85 ユーザ管理者、ビルトイン管理者のセキュリティ関連事象への対処

セキュリティ関連事象	対処手順
利用者が組織を離れる場合	組織を離れる利用者が利用していたユーザを削除してください。
TOE の利用中に自席を離れる場合	他の利用者が操作できないよう、監視端末を終了してください。
監視端末にエラーメッセージが表示された場合	表 86を参照して、メッセージに応じた対処を行ってください。

表 86 ユーザ管理者、ビルトイン管理者のセキュリティ関連事象(エラーメッセージ)への対処

表示メッセージ	状態	対処手順
ログイン名、またはパスワードが異なります。	ログイン名、またはパスワードのいずれかが正しくないか、ユーザのアカウント無効フラグがオンになっています。	OK ボタンを押下し、再度ログイン名、パスワードを入力してください。
ログイン名には、以下の文字は使用できません。 / ¥ [] : ; = , + * ? < >	ログイン名に使用できない文字を入力されています。	ログイン名に使用可能文字を使用してください。
パスワードの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	パスワードの先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	パスワードの先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
パスワード確認入力の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	パスワードの確認入力の先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	パスワードの確認入力の先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
確認のパスワードが間違っていました。パスワードと確認入力が一致するようにしてください。	パスワードとパスワードの確認入力一致していません。	パスワードとパスワードの確認入力を再度入力してください。
ユーザ名には、以下の文字は使用できません。 / ¥ [] : ; = , + * ? < >	ユーザ名に使用できない文字を入力されています。	ユーザ名に使用可能文字を使用してください。
ユーザ名の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	ユーザ名の先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	ユーザ名の先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。

表示メッセージ	状態	対処手順
ユーザ名には、全角および半角スペース、' 'のみは指定できません。	ユーザ名に全角・半角スペースのみまたは、[.]のみが入力されています。	ユーザ名に全角・半角スペースのみ、[.]のみが使用されていないことを確認してください。
XXX(ユーザ名)は既に登録されています。	既に登録されたユーザ名が入力されています。	登録されていない別のユーザ名を指定してください。
フルネームの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	フルネームの先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	フルネームの先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
説明の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	説明の先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	説明の先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
XXX(ユーザ名)は現在ログイン中であるため、削除することはできません。	ログイン中のユーザを削除しようとしています。	ログイン中のユーザは削除することができません。 ユーザがログアウトした後に削除してください。
グループ名を指定してください。	グループ名が空欄です。	グループ名に1文字以上64文字以下の半角・全角文字を入力して再度 OK ボタンを押下してください。
XXX(グループ名)は既に登録されています。	入力したグループ名は既に存在しています。	別のグループ名を入力して再度 OK ボタンを押下してください。
グループ名の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	グループ名の先頭または、末尾に全角・半角スペースが使用されています。	グループ名の先頭と末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
ユーザ情報の更新に失敗しました。	ユーザ情報の更新に失敗しています。	日本電気株式会社へお問い合わせください。
パスワードの変更に失敗しました。	パスワードの変更に失敗しています。	日本電気株式会社へお問い合わせください。

4.2. その他の利用者役割のセキュリティ関連事象の対処手順

TOEの運用時にセキュリティ関連事象が発生した場合、ユーザ管理者、ビルトイン管理者以外の利用者役割が行う対処手順は、以下の表 87の通りとなります。

表 87 その他の利用者のセキュリティ関連事象への対処

セキュリティ関連事象	対処手順
TOE の利用中に自席を離れる場合	他の利用者が操作できないよう、監視端末を終了してください。
監視端末にエラーメッセージが表示された場合	表 88を参照して、メッセージに応じた対処を行ってください。

表 88 ユーザ管理者、ビルトイン管理者以外の利用者役割のセキュリティ関連事象への対処

表示メッセージ	状態	対処手順
ログイン名、またはパスワードが異なります。	ログイン名、またはパスワードのいずれかが正しくないか、ユーザのアカウント無効フラグがオンになっています。	OK ボタンを押下し、再度ログイン名、パスワードを入力してください。
ログイン名には、以下の文字は使用できません。 / ¥ [] : ; = , + * ? < >	ログイン名に使用できない文字を入力されています。	ログイン名に使用可能文字を使用してください。
パスワードの先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	パスワードの先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	パスワードの先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
パスワード確認入力の先頭と末尾には、全角・半角スペースは使用できません。	パスワードの確認入力の先頭または末尾に全角・半角スペースが入力されています。	パスワードの確認入力の先頭または末尾に全角・半角スペースが使用されていないことを確認してください。
確認のパスワードが間違っていました。パスワードと確認入力が一致するようにしてください。	パスワードとパスワードの確認入力が一致していません。	パスワードとパスワードの確認入力を再度入力してください。
パスワードの変更に失敗しました。	パスワードの変更に失敗しています。	日本電気株式会社へお問い合わせください。

5. セキュリティ維持手段

本章では、TOE を安全に運用するために必要なセキュリティ維持手段について、適用事項を説明します。

5.1. 全ての利用者のセキュリティ維持手段

5.1.1. 適用事項

TOEのセキュリティを維持するために、全ての利用者に対する適用事項は、以下の表 89の通りとなります。

表 89 全ての利用者のセキュリティ維持手段

分類		適用事項
運用上の条件	物理的セキュリティ	なし。
	人的セキュリティ	なし。
	利用環境セキュリティ	監視端末、監視サーバ、監視対象サーバ上で稼動する OS には、OS の供給元から配布されるパッチを適切に適用しなければならない。
利用者に徹底する利用規定		認証情報(ユーザ名とパスワード)を管理し、他人に漏らしてはならない。 推測・解析されやすいパスワードを設定してはならない。 適正な間隔でパスワードを変更しなければならない。
運用環境の使用方法		なし。